

[illegible]

6 コン クリ ート 工 事	① コンクリートの類別等	コンクリートの種類 ◎Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート） ・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート） ○普通コンクリート（6.2.1～4）（表6.2.2） ・軽量コンクリート（6.2.1）（6.2.10） （特記事項は、「9. 軽量コンクリート」に示す） ・建築基準法第37条第2号の規定に基づき認定を受けたコンクリート（6.2.1） 構造体強度補正值（6.3.2） ◎標準仕様書表6.3.2(i)による・（ ） 表6.1 構造体コンクリート <table><tr><th></th><th>Fc</th><th>SL</th><th>W</th><th>記 号</th><th>備 考</th></tr><tr><td rowspan="6">普通 コンク リート</td><td>・18</td><td></td><td></td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>・21</td><td></td><td></td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>◎27</td><td>15</td><td>185</td><td>3</td><td></td></tr><tr><td>◎27</td><td>18</td><td>185</td><td>4</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td>6</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td>7</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">軽量 コンク リート</td><td>・</td><td></td><td></td><td>8</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td>11</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td>12</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td>13</td><td></td></tr></table>		Fc	SL	W	記 号	備 考	普通 コンク リート	・18			1		・21			2		◎27	15	185	3		◎27	18	185	4		・			6		・			7		軽量 コンク リート	・			8		・			11		・			12		・			13		12 マスコンクリート	適用箇所 ・図示による・（ ） ・部材断面最小寸法が壁部材で80cm以上、 マット状部材で100cm以上でかつセメントの水和熱による温度上昇で有害なひび割れが入るおそれがある部分に適用する。 ひび割れ 温度解析等により有害なひび割れが発生しないことを確認する。 有害なひび割れが発生しないことの確認の後、監督職員の承認を受けることで中床熟ポルトランドセメント以外とすることができる。 セメントの種類 ・中床熟ポルトランドセメント ・普通ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント 混和材料 ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書6.13.2(2)(7)による・（ ） 混和材の種類 ※標準仕様書6.13.2(2)(4)による・（ ） スランプ ※15cm・（ ） 構造体強度補正值（s） ※標準仕様書表6.13.1による・（ ）	7 鉄骨工事	① 鉄骨製作工場 鉄骨製作工場の加工能力 鉄骨製作工場認定制度に基づき、指定性能評価機関（（株）日本鉄骨評価センター又は、（株）全国鉄骨評価機構）の評価を受け、大臣認定を取得した下記のグレード以上の鉄骨製作工場とし、事前に監督職員の承諾を受ける。 ・Sグレード・Hグレード◎Mグレード・Rグレード・（ ） ◎適用する・適用しない（7.1.3）（7.1.4） 材質等（表7.11による）（7.2.1） 表7.1 鋼材種及び使用箇所 <table><tr><th>規 格</th><th>鋼 材 名</th><th>使 用 箇 所</th></tr><tr><td>一般構造用圧延鋼材 JIS G 3101</td><td>◎SS400・SS490</td><td>小梁・間柱・耐風梁</td></tr><tr><td>溶接構造用圧延鋼材 JIS G 3106</td><td>・SM400A・SM490A</td><td></td></tr><tr><td>建築構造用圧延鋼材 JIS G 3136</td><td>・SN400A◎SN400B・SN490B</td><td>剛接合を含む二次部材 大梁・ダイアフラム</td></tr><tr><td></td><td>・SN490C</td><td>通しダイアフラム</td></tr><tr><td>溶接構造用遠心力鋳鋼管 JIS G 5201</td><td>・SCW490-GF</td><td></td></tr><tr><td>建築構造用冷間成形角形鋼管</td><td>・BCR295・UBCR365 ・BCP235・BCP325</td><td></td></tr><tr><td>一般構造用角形鋼管 JIS G 3466</td><td>◎STKR400・STKR490</td><td>柱</td></tr><tr><td>建築構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3475</td><td>・STKM400B・STKM490B</td><td></td></tr><tr><td>一般構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3444</td><td>◎STK400・STK490</td><td>柱</td></tr><tr><td>一般構造用軽量形鋼 JIS G 3350</td><td>◎SSC400</td><td>鋼縁</td></tr><tr><td>建築構造用TMCP鋼板</td><td>・TMCP325B・TMCP325C ・TMCP355B・TMCP355C</td><td></td></tr><tr><td>建築構造用TMCP鋼板</td><td>・</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・</td><td></td></tr></table>	規 格	鋼 材 名	使 用 箇 所	一般構造用圧延鋼材 JIS G 3101	◎SS400・SS490	小梁・間柱・耐風梁	溶接構造用圧延鋼材 JIS G 3106	・SM400A・SM490A		建築構造用圧延鋼材 JIS G 3136	・SN400A◎SN400B・SN490B	剛接合を含む二次部材 大梁・ダイアフラム		・SN490C	通しダイアフラム	溶接構造用遠心力鋳鋼管 JIS G 5201	・SCW490-GF		建築構造用冷間成形角形鋼管	・BCR295・UBCR365 ・BCP235・BCP325		一般構造用角形鋼管 JIS G 3466	◎STKR400・STKR490	柱	建築構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3475	・STKM400B・STKM490B		一般構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3444	◎STK400・STK490	柱	一般構造用軽量形鋼 JIS G 3350	◎SSC400	鋼縁	建築構造用TMCP鋼板	・TMCP325B・TMCP325C ・TMCP355B・TMCP355C		建築構造用TMCP鋼板	・			・		⑥ アンカーボルト 種類 ◎構造用アンカーボルト ・SNR400B・SNR490B・SS400・SS490 ◎ABR400◎ABR490◎ABM400◎ABM490 ◎建方用アンカーボルト ◎SS400・（ ） アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ◎標準仕様書表7.2.3(i)による・（ ） ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等（7.3.2） ◎図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1～1 縁端距離、ボルト間隔） ・（ ） ⑦ 溶接材料 溶接材料 ◎標準仕様書 7.2.5(1)、(2)による・図示による・（ ） ⑧ ターンバックル 種類 建築用ターンバックルボルト ◎羽子板ボルト・（ ） 建築用ターンバックル鋼 ◎割枠式・（ ） ねじの呼び ◎図示による・（ ） ⑨ 床構造用 デッキプレート 材質、形状及び寸法（7.2.7） 鉄骨部材への溶接方法（7.7.8） ◎構造用（デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法） ※合成スラブ・その他（ ） 形状（山高さmm） ・50・75・（120） 板厚（mm） ・1.2・1.6・（ ） 材料 ・SDP1T・SDP2・SDP1TG・※SDP26 めっき量 ※Z12・Z27・無し 鉄骨部材との溶接方法 ※焼抜接溶接・アークスポット溶接・隅肉溶接 ◎型特用（デッキプレート単独の構法） 形状 ◎フラットタイプ・山高さ mm 板厚（mm） ◎0.8◎1.0◎1.2・1.4・1.6 材料 ◎SGCC・SGHC・（ ） めっき量 ◎Z12・Z27・無し 鉄骨部材との溶接方法 ◎アークスポット溶接・隅肉溶接 10 スタッド 種類等 表7.4 スタッド <table><tr><th>呼び名</th><th>呼び長さ（mm）</th><th>適 用 箇 所</th></tr><tr><td>・10</td><td rowspan="4">・80・100・120</td><td rowspan="4"></td></tr><tr><td>・13</td></tr><tr><td>・16</td></tr><tr><td>・19</td></tr><tr><td>・22</td><td rowspan="2">・80・100・130・150</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>・25</td></tr></table> 11 レール及びその付属品 形状及び寸法等・図示による・（ ） ⑫ 柱底均しモルタル モルタルの種類（7.2.9）（表7.2.5） ◎無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料、割合等 ◎標準仕様書7.2.9(2)による・（ ） ・標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル ⑬ 製作精度 鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6〔鉄骨精度検査基準〕に加えて、次による 通しダイアフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ◎平12建告第1464号第二号イ(2)による・（ ） アンダーカットの寸法 ◎平12建告第1464号第二号イ(3)による・（ ） 食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 ◎「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・（ ） 14 鉄骨の仮組 ※行方・行わない（7.3.10） 仮組を行う範囲・図示による・（ ） ⑭ 溶接技能者の 技量付加試験 ◎行方（ただし、A判定有資格者は免除）・行わない（7.6.3） 試験の要領・図示による・（ ） ⑮ 溶接接合 開先の形状（7.6.4） ◎図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1～2） 鋼製エンドタブを切断する箇所及び切断範囲（7.6.7） エンドタブを切断する箇所（ ）左記以外は、切断不要 切断面の仕上げ ◎標準仕様書7.6.7(1)(b)(b)②による・（ ） スカラップの形状（7.6.7） ◎ノンスカラップ工法・複合円型スカラップ工法・その他（図示による）（DK） ・その他（図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1～4）） 低応力高サイクル疲労を受ける部位（7.6.7） ・有り（箇所） ・無し	呼び名	呼び長さ（mm）	適 用 箇 所	・10	・80・100・120		・13	・16	・19	・22	・80・100・130・150		・25
	Fc	SL	W	記 号	備 考																																																																																																																			
普通 コンク リート	・18			1																																																																																																																				
	・21			2																																																																																																																				
	◎27	15	185	3																																																																																																																				
	◎27	18	185	4																																																																																																																				
	・			6																																																																																																																				
	・			7																																																																																																																				
軽量 コンク リート	・			8																																																																																																																				
	・			11																																																																																																																				
	・			12																																																																																																																				
	・			13																																																																																																																				
規 格	鋼 材 名	使 用 箇 所																																																																																																																						
一般構造用圧延鋼材 JIS G 3101	◎SS400・SS490	小梁・間柱・耐風梁																																																																																																																						
溶接構造用圧延鋼材 JIS G 3106	・SM400A・SM490A																																																																																																																							
建築構造用圧延鋼材 JIS G 3136	・SN400A◎SN400B・SN490B	剛接合を含む二次部材 大梁・ダイアフラム																																																																																																																						
	・SN490C	通しダイアフラム																																																																																																																						
溶接構造用遠心力鋳鋼管 JIS G 5201	・SCW490-GF																																																																																																																							
建築構造用冷間成形角形鋼管	・BCR295・UBCR365 ・BCP235・BCP325																																																																																																																							
一般構造用角形鋼管 JIS G 3466	◎STKR400・STKR490	柱																																																																																																																						
建築構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3475	・STKM400B・STKM490B																																																																																																																							
一般構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3444	◎STK400・STK490	柱																																																																																																																						
一般構造用軽量形鋼 JIS G 3350	◎SSC400	鋼縁																																																																																																																						
建築構造用TMCP鋼板	・TMCP325B・TMCP325C ・TMCP355B・TMCP355C																																																																																																																							
建築構造用TMCP鋼板	・																																																																																																																							
	・																																																																																																																							
呼び名	呼び長さ（mm）	適 用 箇 所																																																																																																																						
・10	・80・100・120																																																																																																																							
・13																																																																																																																								
・16																																																																																																																								
・19																																																																																																																								
・22	・80・100・130・150																																																																																																																							
・25																																																																																																																								
② セメント	種類（6.3.1） 表6.2 セメント <table><tr><th>種 類</th><th>使 用 箇 所</th></tr><tr><td rowspan="4">○ポルトランドセメント JIS R 5210</td><td>◎普通 ・早強 ・中床熱 ・低熱</td></tr><tr><td>・高炉セメント JIS R 5211 ・シリカセメント JIS R 5212</td></tr><tr><td>・A種 ・B種</td></tr><tr><td>・A種 ・B種</td></tr><tr><td rowspan="2">・フライアッシュセメント JIS R 5213</td><td>・A種 ・B種</td></tr><tr><td>・A種 ・B種</td></tr><tr><td rowspan="2">・エコセメント JIS R 5214</td><td>・普通 ・</td></tr><tr><td>・</td></tr></table> ・再生骨材Hを使用する適用箇所（ ）（6.3.1） 湿潤養生の期間（6.7.2） ◎JASS 5 鉄筋コンクリート工事 2022による・（ ）日以上 型枠の最小存置期間（6.8.4） ◎JASS 5 鉄筋コンクリート工事 2022による・（ ） ③ 骨材 フェロニッケルスラグ骨材、鋼スラグ細骨材及び電気炉酸化スラグ骨材（6.3.1） ・使用する 適用箇所（ ） アルカリシリカ反応性による区分（6.3.1） ◎A・B（6.3.1(2)(4)(a)に於いては②） ④ 混和材料 ○混和剤（6.3.1） 混和剤の種類 ◎標準仕様書 6.3.1(4)(a)による・（ ） ○混和材（6.3.1） 混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4)(b)による・（ ） 標準仕様書6.3.2(4)(f)の①～③以外の混和材料（6.3.2） 表6.3 混和材料 <table><tr><th>混 和 材 料</th><th>記 号</th><th>備 考</th></tr><tr><td>◎高性能AE減水剤</td><td>A</td><td></td></tr><tr><td>・膨張剤（材）</td><td>B</td><td></td></tr><tr><td>・躯体防水剤（材）</td><td>C</td><td></td></tr><tr><td>・防せい剤</td><td>D</td><td></td></tr></table> AE減水剤は全ての構造体コンクリートに適用する（高性能AE減水剤を適用する場合は適用しない） ⑤ 打継ぎの位置、 ひび割れ誘発目地、 打継目地 （この項目特記なき限り建築工事特記仕様書による） ⑥ コンクリートの仕上り （この項目特記なき限り建築工事特記仕様書による） ⑦ 打増し厚さ （打放し仕上げ部） ⑧ 型式 （この項目特記なき限り建築工事特記仕様書による） 9 軽量コンクリート 適用箇所（6.10.1） ・図示による・（ ） 種類（6.10.1）（表6.10.1） ※1種・2種 気乾単位容積重量 ・1.8～2.1 t/m ³ ・（ ） t/m ³ スランプ ※21cm・（ ） ⑩ 寒中コンクリート 適用期間（6.11.1） ・図示による◎（12/7～2/17） 構造体強度補正值（S）（6.11.2） ◎標準仕様書6.11.2(3)(7)による・積算温度を基に定める（ ） ⑪ 暑中コンクリート 構造体強度補正值（S）（6.12.2） ◎SN/m ³ ・（ ）	種 類	使 用 箇 所	○ポルトランドセメント JIS R 5210	◎普通 ・早強 ・中床熱 ・低熱	・高炉セメント JIS R 5211 ・シリカセメント JIS R 5212	・A種 ・B種	・A種 ・B種	・フライアッシュセメント JIS R 5213	・A種 ・B種	・A種 ・B種	・エコセメント JIS R 5214	・普通 ・	・	混 和 材 料	記 号	備 考	◎高性能AE減水剤	A		・膨張剤（材）	B		・躯体防水剤（材）	C		・防せい剤	D		13 無筋コンクリート コンクリートの種類（6.14.1） ◎普通コンクリート・（ ） 設計基準強度 ※表6.4による（6.14.1） スランプ ※表6.4による（6.14.1） 適用箇所（6.14.1） ◎標準仕様書 6.14.1(4)による・図示による・（ ） ・標準仕様書表6.2.1以外のコンクリートを用いる場合（ ）（6.14.1） 14 流動化コンクリート 適用箇所・図示による・（ ）（6.15.1） ⑮ コンクリートの単位 水量測定（6.5.1） ○行方・行わない 実施要領 (1)単位水量の測定は、150mlに1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2)単位水量の上限值は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1)測定した単位水量が、計画調査書の設計値（以下、「設計値」という。） ±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。 その後設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3)設計値±20kg/m ³ を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。さらに、設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (4)単位水量管理についての記録を書面（計画調査書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等）と写真により提出する。 (5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法（電子レンジ法）、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。 ⑯ その他 ◎パラベット立上がりコンクリートは原則として一体打ちとする。（DK）	表6.4 雑コンクリート <table><tr><th>種 類</th><th>Fc</th><th>γ</th><th>SL</th></tr><tr><td>土間コンクリート</td><td>◎18・21</td><td>◎2.3・</td><td>◎15・18</td></tr><tr><td>ラップルコンクリート</td><td>※18・21</td><td>※2.3・</td><td>※15・18</td></tr><tr><td>街きよ、緑石、側溝類の コンクリート及びこれらの 基礎コンクリート</td><td>◎18・21</td><td>◎2.3・</td><td>◎15・18</td></tr><tr><td>間知石積み基礎及び 表込めコンクリート</td><td>※18・21</td><td>※2.3・</td><td>※15・18</td></tr><tr><td>捨コンクリート</td><td>◎18・21</td><td>◎2.3・</td><td>◎15 ※18</td></tr><tr><td>機械室等で用いる配管理設用 コンクリート</td><td>◎18・21</td><td>◎2.3・</td><td>◎15 ※18</td></tr><tr><td>防水層の保護コンクリート</td><td>◎18・21</td><td>◎2.3・</td><td>◎15 ※18</td></tr><tr><td>コンクリート舗装の コンクリート</td><td>※18・21</td><td>※2.3・</td><td>※15・18</td></tr></table>	種 類	Fc	γ	SL	土間コンクリート	◎18・21	◎2.3・	◎15・18	ラップルコンクリート	※18・21	※2.3・	※15・18	街きよ、緑石、側溝類の コンクリート及びこれらの 基礎コンクリート	◎18・21	◎2.3・	◎15・18	間知石積み基礎及び 表込めコンクリート	※18・21	※2.3・	※15・18	捨コンクリート	◎18・21	◎2.3・	◎15 ※18	機械室等で用いる配管理設用 コンクリート	◎18・21	◎2.3・	◎15 ※18	防水層の保護コンクリート	◎18・21	◎2.3・	◎15 ※18	コンクリート舗装の コンクリート	※18・21	※2.3・	※15・18	図6.1 構造体コンクリートの適用区分																																																				
種 類	使 用 箇 所																																																																																																																							
○ポルトランドセメント JIS R 5210	◎普通 ・早強 ・中床熱 ・低熱																																																																																																																							
	・高炉セメント JIS R 5211 ・シリカセメント JIS R 5212																																																																																																																							
	・A種 ・B種																																																																																																																							
	・A種 ・B種																																																																																																																							
・フライアッシュセメント JIS R 5213	・A種 ・B種																																																																																																																							
	・A種 ・B種																																																																																																																							
・エコセメント JIS R 5214	・普通 ・																																																																																																																							
	・																																																																																																																							
混 和 材 料	記 号	備 考																																																																																																																						
◎高性能AE減水剤	A																																																																																																																							
・膨張剤（材）	B																																																																																																																							
・躯体防水剤（材）	C																																																																																																																							
・防せい剤	D																																																																																																																							
種 類	Fc	γ	SL																																																																																																																					
土間コンクリート	◎18・21	◎2.3・	◎15・18																																																																																																																					
ラップルコンクリート	※18・21	※2.3・	※15・18																																																																																																																					
街きよ、緑石、側溝類の コンクリート及びこれらの 基礎コンクリート	◎18・21	◎2.3・	◎15・18																																																																																																																					
間知石積み基礎及び 表込めコンクリート	※18・21	※2.3・	※15・18																																																																																																																					
捨コンクリート	◎18・21	◎2.3・	◎15 ※18																																																																																																																					
機械室等で用いる配管理設用 コンクリート	◎18・21	◎2.3・	◎15 ※18																																																																																																																					
防水層の保護コンクリート	◎18・21	◎2.3・	◎15 ※18																																																																																																																					
コンクリート舗装の コンクリート	※18・21	※2.3・	※15・18																																																																																																																					

竣工年月日	..	..		竣工箇所 株式会社 大建設 一般建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号			DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造		
監理者印		..					PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE	構造特記仕様書（2）	DWG. NO	NS (A1) NS (A3)	S-102
施工者印		..											
		..											

⑪ 溶接部の試験

溶接部の外観試験
平成12年建設省告示第1464号第二号に関する試験
試験の方法
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル(鉄骨製作管理技術者登録機構)」3.5.2 受入検査による。
・抜き取り検査① ※抜き取り検査②
・()
JASS 6 付則 6 の付表 3「溶接」に関する試験方法等
試験の方法
・JASS 6 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。
外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。
・()
表7.5 溶接部の検査 (7.6.12) (DK)

検査方法	検査箇所	検査率又は検査数		備考	
		社内	第三者		
※外観検査	全溶接部	※100%	工場溶接部	※30% ・	
			現場溶接部	※100% ・	
※超音波探傷試験	完全溶け込み溶接部	※100% ・	工場溶接部	検査水準 ※第6 Ⅱ AQL (%) ・2.5 ※4.0	JISZ3060
			現場溶接部	※100%	
・マクロ試験		・		・	
・浸透探傷試験		・		・	

注) 特記なき限り、第三者機関が行う外観検査箇所はその他の試験(超音波探傷試験、マクロ試験、浸透探傷試験等)と同一試験箇所において実施する。
溶接部の試験は、技能資格者が行う。
溶接部の不合格箇所は、全て補修し、再試験を実施する。
板厚6mm以下の溶接部は外観検査のみとする。

(この項目特記なき限り建築工事特記仕様書による)

(この項目特記なき限り建築工事特記仕様書による)

構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)
Ⓔ図示による ()
構造用アンカーフレーションの形状及び寸法 (7.10.3)
Ⓔ監督職員の承諾を得る ・図示による ()
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.10.3) (表7.10.1)
建方(及び付属鉄骨)用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
種別 ⒺA種 ・B種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 (7.10.3) (表7.10.2)
厚さ Ⓔ50mm ・図示による
種別 ⒺA種 ・()

⑫ 軽量形鋼構造 (7.11.2)
ボルト接合方法
Ⓔ普通ボルト接合 ()

⑬ 溶融亜鉛めっき
4 高力ボルトによる

23 クレーンガーダーの建方精度 (DK)
以下のレール据付精度を満足させるようにクレーンガーダーの建方精度を確保すること。
表7.6 走行レール据付精度

	項目	許容誤差
1	レールスパン	25mm未満 ±10mm以内 25～40mm以下 ±15mm以内
	左右の水平差	スパンの1/500以内
2	左右の水平差	スパンの1/500以内
3	走行レールとガーダーとの芯ずれ	0.5tw以内 (tw: ガーダーウェブ厚)
4	勾配	1/500以内

注) 上記の他、各クレーンメーカーの仕様にも適合すること。

⑭ 試験・検査 (DK)
(1)材料試験 Ⓔ規格証明書の提出 ・行う
(2)監督職員による現況検査 ※行う Ⓔ行わない
(3)監督職員による仮組検査 Ⓔ行う ・行わない
(4)監督職員による製品検査 Ⓔ行う ・行わない
(5)スタッド溶接打撃曲げ試験 Ⓔ行う ・行わない

⑬ 錆止め塗装

⑭ 耐火被覆

⑮ アンカーボルトの設置等

⑯ 軽量形鋼構造

⑰ 溶融亜鉛めっき

23 クレーンガーダーの建方精度

⑱ 試験・検査

建築設備の構造安全性等

令第129条の2の3についての法適合確認 (DK)
・■はチェックした項目を示す。
・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

	項目	チェック欄
1	建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。	■
2	屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水槽等」)は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。	■
3	煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。	□
4	煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。	□
5	建築物に設ける給水、排水その他配管設備(給湯設備※を除く)は、以下の構造方法による。	
	風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。	■
	建築物の部分を通過して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。	■
	管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。	■
	管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。	■
6	法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあつては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。	■
7	給湯設備※は風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。	■

※「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

竣工年月日
監理者印
施工者印

株式会社
大建設
一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号

後にここに
株式会社
大建設
一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号

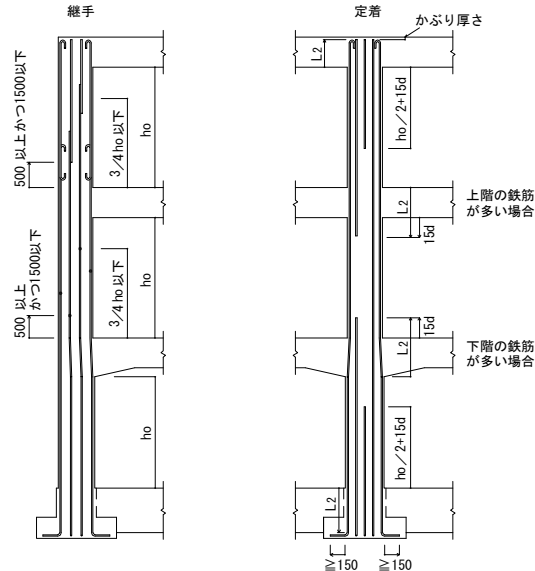
DATE
2025 . 3 . 14
PROJ. NO
0-2023-120
DWG. TITLE
構造特記仕様書 (3)
SCALE
NS (A1)
NS (A3)

【役場】
構造
S-103

7. 柱

A. 柱主筋の継手、定着及び余長

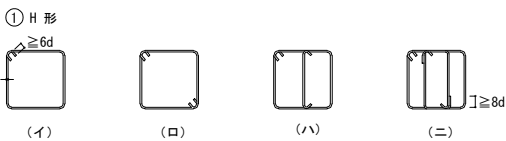
- (1) 継手中心位置は、梁上端から 500mm 以上、1500mm 以下かつ 3/4 ho 以下とする。
(2) 継手、定着及び余長は、下図による。



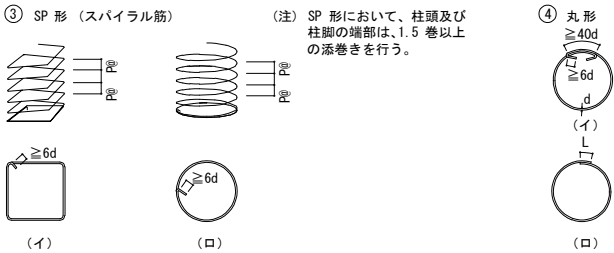
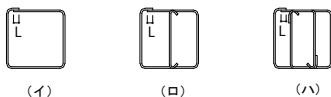
- 注) 1) 2. (1)で定めた鉄筋にはフックをつける。
2) 隣合う継手の位置は3. Bによる。
3) 継手長さは、図示による。

B. 帯筋の形状

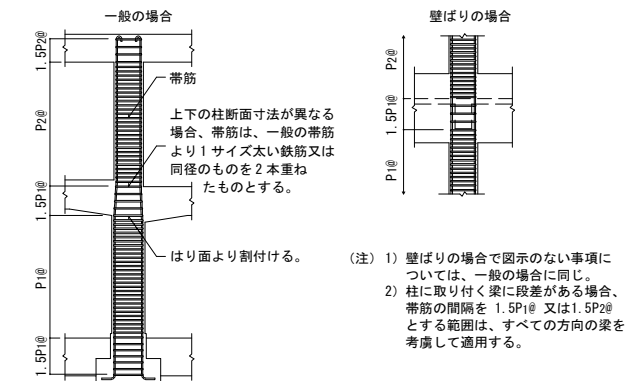
- (1) 帯筋組立ての形はH形とする。
(2) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
(3) 溶接する場合の溶接長さLは、両面重ねアーク溶接の場合は5d以上、片面重ねアーク溶接の場合は10d以上とする。
(4) フック及び継手の位置は、交互とする。



- ② W-I形 (注) 溶接は、鉄筋の組立て前に行う。



C. 帯筋の割付け

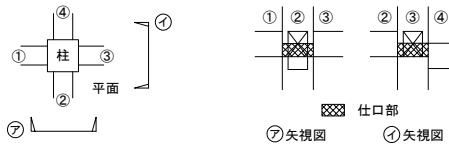


- (注) 1) 壁ばりの場合で図示のない事項については、一般の場合に同じ。
2) 柱に取り付け梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1又は1.5P2とする範囲は、すべての方向の梁を考慮して適用する。

D. 柱の仕口部（柱・梁接合部）

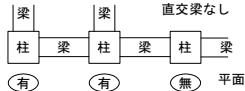
- (1) 仕口部帯筋は、図示による。図示なき場合は、仕口部帯筋の帯筋比は0.3%以上とする。ただし、基礎梁接合部は0.2%以上とする。

- (2) 柱の仕口部の範囲は図示による。図示なき場合は、柱に取り付け全ての梁せいが重なる範囲を仕口部とする。



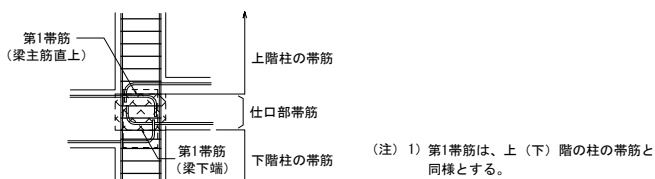
柱の仕口部の範囲

- (3) 直交梁がない場合、柱の仕口部帯筋範囲は図示による。図示なき場合は、仕口部帯筋は適用しない。



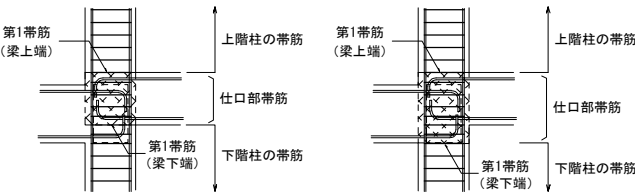
柱仕口部範囲の有無

- (4) 柱の仕口部帯筋の範囲は、下図による。



仕口部帯筋の範囲と第1帯筋位置

- (5) 上(下)階柱の帯筋比より、仕口部帯筋比が多い場合は7. D. (4)によらず、下図による。ただし、上階柱の帯筋が下階柱の帯筋より多い場合は、図示による。



仕口部帯筋が上階柱帯筋より多い場合

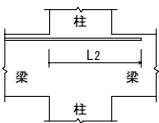
仕口部帯筋が下階柱帯筋より多い場合

8. 大梁

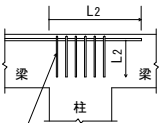
A. 大梁主筋の継手及び定着

1. 一般事項

- (1) 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、(2)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず、梁内に定着する場合は、右図による。

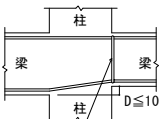


- (2) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。なお、定着の方法は、3. C. (2)による。
上端筋 - 曲げ降ろす。
下端筋 - 原則として曲げ上げる。



梁主筋拘束筋 □型
あばら筋と同径とし、間隔は200とする。

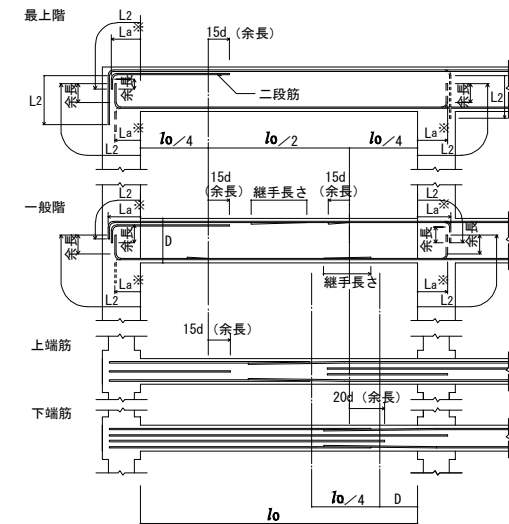
- (3) 梁主筋の引き通し、折り曲げ定着にかかわらず最上階のT形接合部には、梁主筋拘束筋を配筋すること。



吊上げ筋は、一般のあばら筋より1サイズ太い鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。

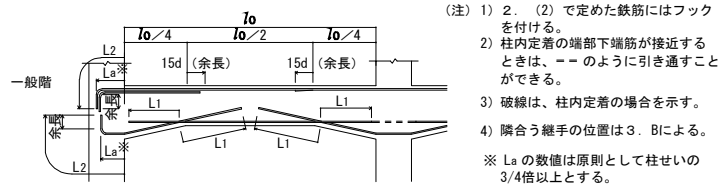
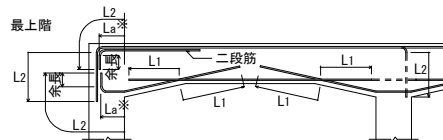
- (4) 段違い梁は、右図によることができる。

2. ハンチのない場合の重ね継ぎ手、定着及び余長



- (注) 1) 2. (2)で定めた鉄筋にはフックをつける。
2) 破線は、柱内定着の場合を示す。
3) 隣合う継手の位置は3. Bによる。
※ Laの数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
4) 継手長さは、図示による。

3. ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1) 2. (2)で定めた鉄筋にはフックをつける。
2) 柱内定着の端部下端筋が接近するときは、--のように引き通すことができる。
3) 破線は、柱内定着の場合を示す。
4) 隣合う継手の位置は3. Bによる。
※ Laの数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

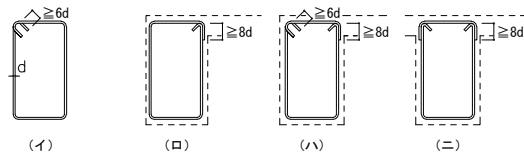
B. あばら筋、腹筋及び幅止め筋

1. 一般事項

- (1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。ただし、L2定着の場合の継手は図示による。図示なき場合は、圧接又はL1重ね継手とする。
(2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10@1,000程度とする。

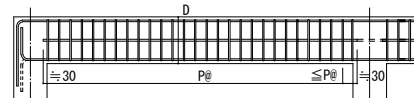
2. あばら筋組立ての形及びフックの位置

- (1) 形は、(イ)とする。ただし、L形梁の場合は(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合には(ロ)~(ニ)とすることができる。ただし、置きスラブの場合は(イ)と同様とする。
(2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブのつく側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合はスラブのつく側を90°折曲げとする。

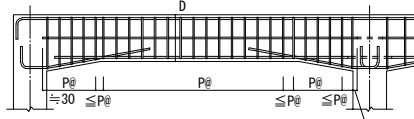


3. あばら筋の割付け

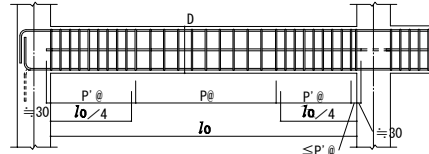
(1) 間隔が一樣でハンチのない場合



(2) 間隔が一樣でハンチのある場合

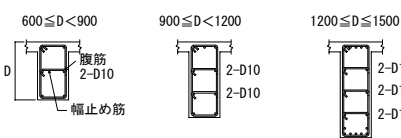


(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



- (注) 1) あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2) 図のP1, P2は、図示されたあばら筋の間隔を示す。

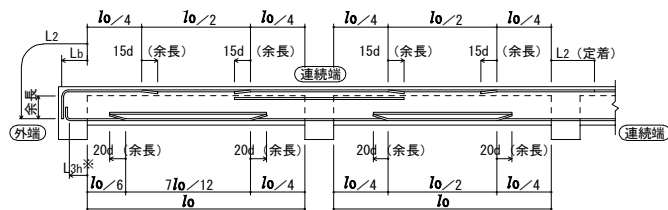
4. 腹筋及び幅止め筋



9. 小梁及び片持梁

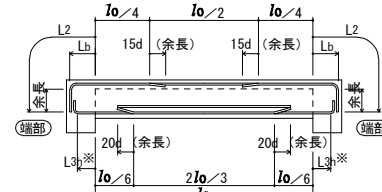
A. 小梁主筋の継手、定着及び余長

(1) 連続小梁



- (注) 図示のない事項は「8. 大梁」の項による。
※ L3hを確保できない場合は、3. C. (2)によることができる。

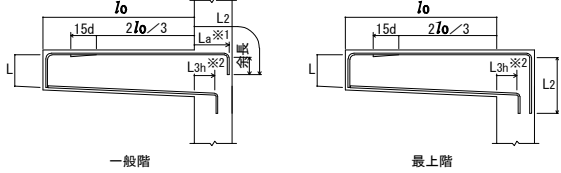
(2) 単独小梁



- (注) 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。図示のない事項は「8. 大梁」の項による。
※ L3hを確保できない場合は、3. C. (2)によることができる。

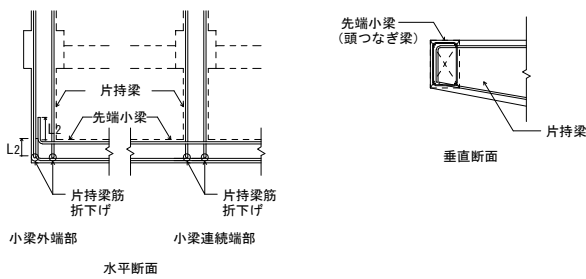
B. 片持梁主筋の定着及び余長

1. 先端に小梁のない場合



- (注) 1) 図示のない事項は、「8. 大梁」の項による。
2) 先端の折曲げの長さは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
※1 Laの数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
※2 L3hを確保できない場合は、3. C. (2)によることができる。

2. 先端に小梁がある場合



- (注) 1) 図示のない事項は、上記1.による。
2) 先端小梁終端部の主筋は片持梁内に水平定着する。
3) 先端小梁の連続端は片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

A. 一般事項

(1) 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とする。

(2) 幅止め筋は、縦、横とも D10@1,000 程度とする。

(1) 柱への定着

原則通り筋とする
定着又は通してもよい

$L \geq 2h$ 以上かつ
柱中心線を越える

$8d$ かつ
150 以上

定着又は
通してもよい

$\leq P\phi$

主筋位置

$L/2$

柱主筋位置

$\leq P\phi$

柱主筋位置

$L/2$

$L/2$

(2) 梁への定着

上層と下層の縦筋が異なるときは
あき重ね継手にしてもよい。

定着又は通してもよい

$8d$ かつ
150 以上

$L \geq 2h$ 以上かつ
梁中心線を越える
梁主筋位置

$\leq P\phi$

主筋位置

$L/2$

梁主筋位置

$\leq P\phi$

梁主筋位置

$L/2$

定着又は
通してもよい

$\leq P\phi$

梁主筋位置

$L/2$

梁主筋位置

$\leq P\phi$

配筋種別	壁厚 t (mm)	壁 配 筋	階段の配筋種別
KW1	180	縦筋 D13@200 (ダブル)	KA1
		横筋 D10@200 (ダブル)	
KW2	200	縦筋 D13@150 (ダブル)	KA2
		横筋 D10@200 (ダブル)	

図1 多層建物の構造概略図

(注) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げるにより開口部を避けて配筋できる場合は補強を省略することができる。

縦筋は D10 とし、間隔は 200mm
〔横筋は D10 とし、間隔は壁横筋と同じ〕

Figure 10 shows two reinforcement details for column-beam joints. (a) Reinforcement detail for column-beam joint (梁柱节点). It shows a cross-section of a column and beam. The column has a width of 2-D13. The beam has a width of L2. The reinforcement includes 2-D13 bars in the column and 2-D13 bars in the beam. The label '先端補強筋 2-D13' points to the reinforcement bars in the beam. (b) Reinforcement detail for column-beam joint (梁柱节点). It shows a cross-section of a column and beam. The column has a width of 2-D13. The beam has a width of L2. The reinforcement includes 2-D13 bars in the column and 2-D13 bars in the beam. The label '先端補強筋 2-D13' points to the reinforcement bars in the beam. The label '4-D13' points to the reinforcement bars in the column.

Figure 1 illustrates the reinforcement details for slabs. The diagrams show the placement of reinforcement bars (D13, D16) and the relationship between the slab thickness (Lb), the column width (L2), and the remaining length (余長). The diagrams are labeled as follows:

- (a) 一般スラブ (General Slab)
- (b) 柱 (Column)
- (c) 梁 (Beam)
- (d) 耐圧スラブ (Pressure Slab)

(1) 片持スラブの配筋

(a) $L \leq 600$

(b) $L > 1000$

Figure 10 illustrates the reinforcement details for a column-beam joint. The left diagram shows a standard joint with reinforcement bars (2-D13) and dimensions L2 and 100mm. The right diagram shows a joint with additional reinforcement (先端壁の縦筋の径及び間隔に合わせる) and dimensions L2 and 100mm.

垂れ壁のある場合

Figure 10 consists of two diagrams, (a) and (b), illustrating reinforcement details for column joints.

(a) Reinforcement detail for column joint (出隅部分の補強配筋). This diagram shows a cross-section of a column joint. The column has a width I_1 and height I_2 . The joint has a width $I_1/2$ and height I_2 . The reinforcement includes:

- 出隅部分の補強配筋 (Reinforcement for the corner part): Vertical bars of length L_1 and horizontal bars of length L_3 .
- 一般スラブ配筋 (General slab reinforcement): Horizontal bars of length L_1 .
- 出隅部分の補強筋 (Reinforcement for the corner part): Vertical bars of length L_1 .
- 補強筋の定着 (Reinforcement anchorage): Vertical bars of length L_3 .

 A note states: 注) $I_1 \geq I_2$ とする (Note: Assume $I_1 \geq I_2$).

(b) Reinforcement detail for column joint (出隅部分). This diagram shows a cross-section of a column joint. The column has a width I_1 and height I_2 . The joint has a width $I_1/2$ and height I_2 . The reinforcement includes:

- 出隅部分 (Corner part): Vertical bars of length L_1 and horizontal bars of length L_3 .
- 出隅受け部 (Corner support part): Vertical bars of length L_1 and horizontal bars of length L_3 .
- 柱又は梁に L_1 定着する (Anchored to column or beam with L_1): Vertical bars of length L_1 .

 A note states: 注) $I_1 \geq I_2$ とする (Note: Assume $I_1 \geq I_2$).

Figure 10 shows two cross-sectional views of a reinforced concrete slab. The left view is labeled '中間部' (Intermediate Section) and the right view is labeled '端部' (End Section). Both views show a slab with reinforcement bars (スラブ筋) and stirrups (同材質、同間隔). The dimensions are indicated as follows: L2, D13, and a. A note at the bottom indicates $a \leq 300\text{mm}$.

Figure 10 illustrates the reinforcement details for intermediate and end joints of a precast concrete beam-column joint. The diagram shows two cross-sections: '中間部' (Intermediate Section) on the left and '端部' (End Section) on the right. Both sections show a concrete beam with reinforcement bars (D13) and stirrups (L2). The intermediate section shows a joint with a '土間コンクリート補強筋' (Ground concrete reinforcement bar) and a '重ね継手' (Lap joint). The end section shows a joint with a '土間コンクリート補強筋' (Ground concrete reinforcement bar) and a '重ね継手' (Lap joint). The reinforcement bars are labeled 'D13' and the stirrups are labeled 'L2'. The joint width is labeled 'a' and the total width is labeled 'L2'. The reinforcement bars are labeled '土間コンクリート補強筋' (Ground concrete reinforcement bar) and the stirrups are labeled 'L2'.

$a \leq 300\text{mm}$

(a) $H \leq 70$ の場合

(b) $70 < H \leq 150$ の場合

Figure 1 shows a cross-section of a wall and floor slab. The wall has a thickness of L_2 . The reinforcement consists of main bars (主筋) and distribution bars (配筋). The distance from the wall centerline to the reinforcement is L_3 . The total length of the reinforcement is L . The reinforcement is shown in a cross-section of the wall and floor slab.

(注) 1.) 壁配筋は、1 O. C. による。
 2.) 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
 3.) スラブ配筋筋の継手及び定着の長さは、3. C. (1) の L_3 (スラブ) とする。

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
許容スパン (mm)	$L \leq 1500$	$L \leq 2000$

配筋種別	スラブ厚さ t (mm)	上端筋、下端筋とも (全域)	許容スパン (mm)
KB1	150	D13@200	$l_0 \leq 3000$
KB2	150	D13@150	$l_0 \leq 3500$
KB3	150	D13@100	$l_0 \leq 4000$
KB4	180	D13, D16@150	$l_0 \leq 4500$
KB5	180	D16@150	$l_0 \leq 5000$
KB6	180	D16@125	$l_0 \leq 5500$
KB7	200	D16@100	$l_0 \leq 6000$

(注) 許容スパンの値は、鉄筋コンクリート手摺り腰壁等、重い手摺りがある場合は適用できない。

(注) --- は、一般部分のあばら筋を示す。

13. 梁貫通孔補強筋は、監督職員の承諾を受けて、既製品と入れ替える事ができる。

A-A 面 (二方向打増し)

200 < a ≤ 300 軸方向補助筋 D19@300

壁配筋	補強筋	
	a	b
シングル	5-D13	3-D13
ダブル	10-D13	6-D13

(1) 壁に配管類などを埋め込む場合、管径は壁板内外配筋の中間に収まる寸法とし、配管類に対するかぶり厚さ及び配管類間のあきは、30mm 以上とする。

溶接接合

1. 一般事項

1.1 溶接方法

溶接方法は原則としてアーク溶接とし、溶接方法の種類は、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、エレクトロスラグ溶接及びアークスタッド溶接とする。

1.2 溶接継手

溶接継手の種類は、完全溶込み溶接、隅肉溶接、部分溶込み溶接及びフレア溶接とし、完全溶込み溶接の継手形状の種類は、突合せ継手、T形継手及びかど継手とする。

1.3 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類記号

分 類	記号
溶接方法	
アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接	H
セルフシールドアーク半自動溶接	
サブマージアーク自動溶接	A
エレクトロスラグ溶接	E
溶接継手	
完全溶込み溶接	
突合せ継手	B
T形継手	T
隅肉溶接	L
部分溶込み溶接	F
フレア溶接	P
溶接面	
片面溶接	FL
両面溶接(注)	2

(注) 両面溶接とは、裏はつりの有無にかかわらず、鋼材の表側と裏側の両面より溶接を行うことをいう。

1.4 溶接の補助記号

区 分	補助記号
現 場 溶 接	旗
全 周 溶 接	○
全 周 現 場 溶 接	○旗
断続溶接の長さ及び間隔	L-P

1.5 溶接記号の記載方法

溶接記号の記載方法は下図またはJISによる。ただし、溶接工法又は溶接面の指定を行わない場合は、溶接継手のみの記入とする。なお、JISによる場合の、完全溶け込み溶接に対する溶接継手の記号は、で代表させる場合がある。

(注) 基準線及び引出線は、溶接記号(JIS Z 3021)に準ずる。

(記載例)

溶接記号の記載は、下図に従い、溶接方法、溶接継手及び溶接面の記号を記入する。

1.6 その他

- 設計図書に記載なき場合は、本基準図に従うものとする。
- 本基準図に記載なき場合は、「鉄骨工事技術指針(日本建築学会編)」による。
- 精度に関しては「鉄骨精度測定指針(日本建築学会編)」によるとともに、告示12-1464第二号イ(3)の規定も満足すること。
- 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し、監督職員の承認を得ること。
- 本鉄骨基準図に示す溶接形状、開先角度、ルート間隔及びルートフェース等は標準を示すもので、鉄骨加工業者が、施工設備、経験により、独自の基準を有する場合は、「鉄骨工事施工要領書」にその基準及びその根拠を示すデータ、検査結果、検査要領等を添付し、監督職員の承認を得た場合に限り、その基準による事ができる。

2. 完全溶込み溶接開先標準

(単位: mm)

(アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)		(サブマージアーク自動溶接)	
HB1(片面溶接)	HB2(両面溶接)	AB1(片面溶接)	AB2(両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	

突合せ継手(B)

HT1(片面溶接)	HT2(両面溶接)	AT1(片面溶接)	AT2(両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	

T形継手(T)

HT1(片面溶接)	HT2(両面溶接)	AT1(片面溶接)	AT2(両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	

ハンチ部等の溶接

ハンチ部等のT形継手において、溶接板が直交しない場合の開先標準は、下図による。(単位: mm)

(アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)		
HT1(片面溶接)	HT2(両面溶接)	
$6 < t \leq 40$	$6 < t \leq 19$	$19 < t \leq 40$
$1/4t \leq S \leq 10$	$1/4t \leq S \leq 10$	$1/4t \leq S \leq 10$

3. 隅肉溶接基準

(単位: mm)

隅肉溶接(F)

(アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)

F1(片面溶接)	
$t \leq 16$	
F2(両面溶接)	
$t \leq 16$	$16 < t \leq 40$

表3.1 隅肉溶接のサイズ (単位: mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12

tは、t1, t2の薄い方の板厚とする。

t	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	36	40	
S	10	11	11	11	12	13	13	14	14	15	16	16	17	17	18	18	19	21	24

注) 1) 隅肉溶接の長さ

設計図書(図面及び仕様書)に示す断続隅肉溶接長さは、右図の有効長さ(Le)とし、隅肉のサイズ(S)の10倍以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点(La)及びクレーター(Lb)を除いた部分の長さとする。

(La及びLb≧S)

4. 部分溶込み溶接開先標準

(単位: mm)

部分溶込み溶接(P)

(アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)

P1(片面溶接)	P2(両面溶接)
$12 \leq t \leq 40$	$16 \leq t \leq 40$
t D $1/4t \leq S \leq 10$	$D=(t-2)/2$ $1/4t \leq S \leq 10$

注) 1) 部分溶込み溶接のうち片面溶接においては、原則として開先をとらない側に補強隅肉溶接を行う。

5. フレア溶接基準

(単位: mm)

フレア溶接(FL)

(アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)

FL1(丸鋼等片面溶接)	FL2(丸鋼等両面溶接)	FL3(軽量形鋼V形溶接)	FL4(軽量形鋼V形溶接)
	$t \geq 3$ のとき $S=t$ $t < 3$ のとき $S=3$		$t \geq 3$ のとき $S=t$ $t < 3$ のとき $S=3$

6. その他の溶接基準

6.1 スタッド溶接

- スタッド溶接はアークスタッド溶接方式の直接溶接とし、溶接姿勢は下向きを原則とする。
- スタッド溶接用材料はJIS B1198(頭付きスタッド)の規格品とする。
- スタッド溶接は、デッキプレート上から行ってはならない。ただし、デッキプレート厚1.6mm以下で、あらかじめ施工試験で良好な溶接が得られることが確認された場合は、この限りではない。
- スタッドの間隔、ゲージ等の寸法

項 目	寸 法
間 隔	(p) 呼び名の7.5倍以上かつ600mm以下
最小ゲージ	(g) 呼び名の5倍以上
へりあき	(e1) 40mm以上
呼び長さ	(L) 呼び名の4倍以上。デッキプレートが介在する場合は、呼び名の4倍以上で、かつ、デッキプレート高さ(Hd)に30mmを加えたもの以上とする。
コンクリートかぶり厚	(dc) 30mm以上。土に接する部分及び外壁仕上なしの部分は、40mm以上とする。

(柱 部) (はり部)

6.2 鋼管分岐継手

鋼管分岐継手における支管は、主管外径より径径のものを使用し、その開先標準は下図による。ただし、自動機械により開先加工を行う場合は、これ以外の形状をとることができる。

適用管厚 $3.2\text{mm} \leq t \leq 12\text{mm}$
交角 $30^\circ \leq \theta \leq 150^\circ$

支管
主管

D-D 断面図

主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。

A部断面 B部断面 C部断面

6.3 焼抜き栓溶接

1) 焼抜き栓溶接

表6.2 焼抜き栓溶接		
項目	JIS Z 3801 基本級以上	
溶接工資格	JIS D 4316, 5016に定める低水素系被覆アーク溶接棒 φ4mm	
溶接機	交流アーク溶接機AW300A以上 エンジン溶接機280A以上	
附属設備	ケーブル類：38mm以上	
電源容量	溶接機1台につき24KVA	
デッキ板厚 (mm)	1.2～1.6	
はりフランジ板厚 (mm)	6～9未満	9以上
溶接電流 (A)	230～250	270～300
溶接電圧 (V)		
アークタイム (sec)	5～8 (溶接時間10～18)	
余盛り径 (mm)	25～30	

2) 自動焼抜き栓溶接

表6.3 自動焼抜き栓溶接		
項目	JIS Z 3841 基本級以上	
溶接棒及び溶接材料	ワイヤ：YGW11, 12 φ1.2 ガス：CO ₂	
溶接機	専用溶接機 (350A)	
附属設備	ブッシュフィーダー、ケーブル類 アークスポットガン、ノズル、レギュレータ	
電源容量	溶接機1台につき18KVA (エンジン発電機35KVA以上)	
デッキ板厚 (mm)	1.2	1.6
はりフランジ板厚 (mm)	6～9未満	9以上
溶接電流 (A)	300～320	300～320
溶接電圧 (V)	33～35	33～35
アークタイム (sec)	3.0～4.0× 1度打ち	3.5～4.0× 2度打ち
余盛り径 (mm)	25±3	

6.4 BOX柱角溶接

1) 鉄骨柱の場合

完全溶込み溶接 (UT対象範囲)

部分溶込み溶接
または完全溶込み溶接

完全溶込み溶接 (UT対象範囲)

2) コンクリート充填鋼管柱の場合

完全溶込み溶接 (UT対象範囲)

完全溶込み溶接

完全溶込み溶接 (UT対象範囲)

注) 1) 溶接全線を完全溶込み溶接とする場合でもUT対象は、仕口まわりの範囲のみとする。
2) コンクリート充填鋼管柱の圧入工法で、板厚が厚い場合、又は施工時の内圧に対する必要のど厚を考慮した場合は、仕口まわりを除き、部分溶込み溶接とすることができる。
3) *寸法は、300mmかつ柱せいの半分以上とする。

共通事項

柱幅は400mm～1000mmとする。

スキムプレート厚は22mm～60mmとし、材質はC種とする。

内ダイアフラム厚は22mm～70mmとし、スキムプレート厚の4サイズアップ以下とする。材質は梁フランジ材と同等以上のものを用い、板厚は同レベルに集まる梁フランジのうち最厚のもの以上かつ9mm以上とする。

裏当て金の材質はSN490Bとする。

7. 鉄骨加工要領

7.1 溶接材料

1) 溶接棒等の種類は下表より、母材の種類及び寸法並びに溶接条件に相当したものを選定する。

種類	規格番号	規格名称等
被覆アーク溶接棒	JIS Z3211	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒
	JIS Z3214	耐候性鋼用被覆アーク溶接棒
ガスシールドアーク溶接用ワイヤ	JIS Z3312	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ
	JIS Z3313	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
	JIS Z3315	耐候性鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ
	JIS Z3320	耐候性鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
セルフシールドアーク溶接用ワイヤ	JIS Z3313	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
サブマージアーク溶接用材料	JIS Z3183	炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶着金属の品質区分
	JIS Z3351	炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接ソリッドワイヤ
	JIS Z3352	サブマージアーク溶接及びエレクトロスラグ溶接用フラックス
エレクトロスラグ溶接用材料	JIS Z3353	軟鋼及び高張力鋼用のエレクトロスラグ溶接ワイヤ及びフラックス
		上に掲げるもののほか、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた溶接材料

- 2) 使用する溶接棒の最大径は1層目4mm、2層目以降は6mmとする。
- 7.2 加工
- 1) 切断
- ：ガス切断による場合は、自動ガス切断とする。
- 厚さ13mm以下の鋼板は、せん断による切断とすることができる。
- 切断面には、有害な凹凸、まくれ、切欠き、スラグの付着等がないものとする。
- 2) 開先加工
- ：自動ガス切断、又は機械加工とする。
- 3) 孔あけ
- ：ドリル孔あけとする。

7.3 組立

1) 490N/㎡級以上、又は厚さ25mm以上かつ400N/㎡級の組立溶接を被覆アーク溶接で行う場合は、低水素系溶接棒を使用する。

2) 組立溶接の最小ビード長さは、表7.2により、組み立てた部材の形状が保持できるよう適切な間隔で溶接する。

表7.2 組立溶接の最小ビード長さ (単位：mm)		
板厚	本溶接を被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接、又はセルフシールドアーク溶接で行う面所のビード長さ	本溶接をサブマージアーク溶接で行う箇所のビード長さ
t≤6	30	50
t>6	40	70

(注) 板厚が異なる場合は、厚い方の板厚とする。

3) 予熱

：材料の種類、板厚及び母材の温度などにより、適当な予熱を行う。(溶接線を中心に片側100mmずつ行う)

7.4 裏はつり

完全溶込み溶接で部材の両面から溶接する場合は、表面から溶接を行った後、健全な溶着部分が現れるまで裏はつりを行い、裏はつり部を十分に清掃した後、裏溶接を行う。ただし、サブマージアーク溶接で、溶接施工試験等により十分な溶込みが得られることを確認した場合は、裏はつりを省略することができる。

- 7.5 裏当て金
- 1) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジ内側に設置し、取付方法は、下図に
- よる断続隅肉溶接とし、溶接間隔は溶接部に支障を与えない程度とする。
- 2) 裏当て金の材質は、原則として母材と同等以上とする。

FB (t×25mm)

FI

表7.3 裏当て金の厚さ (単位：mm)	
溶接工法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

表7.4 溶接のサイズ (単位：mm)	
裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

エンドタブの組立溶接は3箇所全て梁部材には溶接せず裏当て金内とする

フランジに直接、組立溶接してはならない

エンドタブの組立溶接は裏当て金に溶接する

裏当て金の組立溶接は板幅の1/4を中心に長さ50mm

裏当て金とエンドタブの組立溶接位置

エンドタブの組立溶接は裏当て金に溶接する

裏当て金の組立溶接は板幅1/4を中心に長さ50mm

7.6 エンドタブ

エンドタブの材質は、母材と同等以上のものとし、形状は同厚・同間先のものを用い、長さは、下図及び表7.5のとおりとする。ただし、溶接部の品質が十分に確保できると判断される場合は、監督職員の承諾を受けて、その他の工法とすることができる。

エンドタブ

裏当て金

10mm以上

ℓ

表7.5 エンドタブの長さ (単位：mm)	
溶接工法	ℓ
被覆アーク溶接	35 以上
ガスシールドアーク溶接	35 以上
サブマージアーク溶接	70 以上

- エンドタブを切断する場合は下記による。
- 1) エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から、1～5mmを残して、部材断面を欠損しないように直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合には、交差部をアール状に加工する。
- 2) 切断面は、グラインダーにより粗さ100μmRz程度以下及びノッチ深さ1mm程度以下に仕上げる。

7.7 柱梁完全溶込み溶接部の形状

柱梁接合部のうち梁端溶接部の梁フランジを完全溶込み溶接する際の形状は以下による。

1) ノンスカラップ工法

a) 柱通しの場合

b) 梁通しの場合

(裏当て金形式)

(裏当て金形式)

(ガウジング形式)

ただし、仕口専用ポジションが必要

2) 複合円型スカラップ工法

a) 柱通しの場合

b) 梁通しの場合

(裏当て金形式)

(ガウジング形式)

(裏当て金形式)

(ガウジング形式)

3) 現場溶接の場合の梁端形状

a) ストレートカット形状

裏当て金

柱フランジ

ロールH・ビルトH

シャーププレート

高力ボルト

10mm以上

r=10

7 35°

50

r=10

b) 上端ノンスカラップ、下端スカラップ形式

裏当て金

柱フランジ

ロールH・ビルトH

シャーププレート

高力ボルト

5mm程かわす

7 35°

15

r=10

40

r=10

7.8 スニップカット

溶接の交差部をスニップカット (Sc) で、処理する場合の標準寸法は、鋼板の板厚に応じて表7.6によるものとし、スニップカット部は、溶接により埋めることとする。ただし、既製形鋼のスニップカットはSc=r+2により求めるものとする。

表7.6 スニップカット (単位：mm)				
t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

スニップカット

t Sc

7.9 余盛り

突合せ継手、かど継手、隅肉溶接及びフレア溶接の溶接部には、余盛りを行う。その高さの上限は、表7.7による。

表7.7 余盛り高さ (単位：mm)		
溶接継手	溶接方法	余盛りの限度
突合せ継手 かど継手	手溶接	3
	半自動溶接	4
隅肉溶接 フレア溶接	自動溶接	4
	手溶接	3
	半自動溶接	

7.10 溶接板の段差

板厚が異なる場合の突合せ継手の溶接部の形状は、次による。

1) 低応力高サイクル疲労を受ける部位は特記により、その形状は、厚い方の材を1/2.5以下の傾斜に加工し、開先部分で薄い方と同一の高さにする。

1/2.5以下

t1

t2

2) 1) 以外で板厚差による段違いが薄い方の板厚の1/4を超える場合、又は10mmを超える場合は、T継手に準じた高さの余盛りを設ける。

3) 板厚差による段違いが薄い方の板厚の1/4以下かつ10mm以下の場合は、溶接表面が薄い方の材から厚い方の材へ滑らかに移行するように溶接する。

7.11 開先精度

開先角度の精度は0°～+5°とし、ルート間隔精度は±1.5mmとする。

8. ボルト接合

8.1 ボルト孔の径

表8.1 ボルト孔の径 (単位: mm)

ボルトの種類	ねじの呼び	M12	M16	M20	M22	M24	M27	M30
高力ボルト (F10T、S10T)		14.0						
溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T相当)	※1		18.0	22.0	24.0	26.0	30.0	33.0
超高力ボルト (SHTB)	※1							
溶融亜鉛めっき超高力ボルト (12GSHTB)	※1							
普通ボルト	※2	13.0	17.0	21.5	23.5	25.5		

※1 国土交通大臣認定条件による。
※2 母屋、胴縁類の取付用ボルトの場合は、ボルトの径+1.0mmとすることができる。

8.2 ボルトの締付け長さに加える長さ

表8.2 ボルトの締付け長さに加える長さ (単位: mm)

ボルトの種類	ねじの呼び	M12	M16	M20	M22	M24	M27	M30
高力六角ボルト (F10T、F8T相当)		25	30	35	40	45	50	55
トルシア形高力ボルト (S10T)	※1		25	30	35	40	45	50
超高力六角ボルト (SHTB、12GSHTB)	※1		35	40	45	50		
トルシア形超高力ボルト (SHTB)	※1		30	35	40	45		

※1 国土交通大臣認定条件による。

8.3 縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、表8.3の値を標準とする。ただし引張材の接合部分において、せん断を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、ボルト軸径の2.5倍以上とする。

表8.3 縁端距離、ボルト間隔 (単位: mm)

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

8.4 千鳥打ちのゲージ及び間隔

千鳥打ちのゲージ及び間隔は、表8.4の値を標準とする。

表8.4 千鳥打ちのゲージ、間隔 (単位: mm)

ゲージ g	千鳥打ちの間隔 (Pt)	
	ねじの呼び	
	M16、M20、M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	—	40

8.5 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表8.5の値を標準とする。

表8.5 形鋼のゲージ、ボルトの最大軸径 (単位: mm)

A又はB		g1	g2	最大軸径	B		g1	g2	最大軸径	B		g1	g2	最大軸径
40	22			10	100※2	56			16	40	24	10		
45	25			12	125	75			16	50	30	12		
50	28			16	150	90			22	65	35	20		
60	35			16	175	105			22	70	40	20		
65	35			20	200	120			24	75	40	22		
70	40			20	250	150			24	80	45	22		
75	40			22	300※1	150	40		24	90	50	24		
80	45			22	350	140	70		24	100	55	24		
90	50			24	400	140	90		24					
100	55			24										
125	50	35		24										
130	50	40		24										
150	55	55		24										
175	60	70		24										
200	60	90		24										

※1 H形鋼のB=300は、千鳥打ちとした時のゲージ標準である。
※2 H形鋼のB=100のg1及び最大軸径の値は、強度上支障がない場合で、最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

9. 継手部詳細

9.1 柱の継手

a) 十字形柱

(フランジ・ウェブ共 高力ボルト接合)

(フランジ・高力ボルト接合 ウェブ・溶接接合)

b) H形柱

(フランジ・ウェブ共 高力ボルト接合)

(フランジ・溶接接合 ウェブ・高力ボルト接合)

c) 鋼管柱

X-X 断面図

丸形鋼管柱

9.2 はりの継手

(フランジ・ウェブ共 高力ボルト接合)

(フランジ・溶接接合 ウェブ・高力ボルト接合)

9.3 縦ステフナ

a) 十字形柱及びH形柱の仕口部に設ける縦ステフナは、下図を標準とし、縦ステフナの幅は、取付く柱フランジと同一とし、材質は、上下柱フランジのうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等のものを用い、板厚は、いずれか最厚のもの以上とする。

b) 鋼管柱の仕口部に設ける柱の形状は、下図を標準とし、柱の大きさは、上下柱のうち大きいものとし、材質は、上下柱材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等のものとする。

10. 仕口パネルその他

10.1 仕口パネル

仕口パネルの範囲は、下図を標準とし、材質は、取付く梁及び柱のウェブ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等のものを用い、板厚は、いずれか厚いもの以上かつ9mm以上とする。

10.2 水平ステフナ

a) 十字形柱及びH形柱の仕口部に設ける水平ステフナの形状及び大きさは、下図を標準とし、材質は、梁フランジ材と同等のものを用い、板厚は、梁フランジ厚以上かつ9mm以上とする。なお、梁幅が300mm以上の場合は、スニップカットの代わりにスカラップとすることができる。

b) 鋼管柱の仕口部に設けるダイアフラムの形状及び大きさは下図を標準とする。通しダイアフラムの場合の材質はC種とし、取付く梁フランジ材及び柱材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等のものを用い、板厚は、同レベルに集まる梁フランジ板厚の2サイズアップ以上 (又はフランジ板厚+6mm以上)、かつ柱の板厚以上とする。また、内ダイアフラムの場合の材質は、取付く梁フランジ材と同等のものを用い、板厚は、同レベルに集まる梁フランジ板厚の1サイズアップ以上 (又はフランジ板厚+3mm以上)、かつ9mm以上とする。ダイアフラム中心部には、最上部を除いて空気穴 (直径30mm程度) を設ける。ただし、スニップカットの代わりにスカラップを設ける場合には、空気穴を省略することができる。

10.3 縦ステフナ

a) 十字形柱及びH形柱の仕口部に設ける縦ステフナは、下図を標準とし、縦ステフナの幅は、取付く柱フランジと同一とし、材質は、上下柱フランジのうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等のものを用い、板厚は、いずれか最厚のもの以上とする。

b) 鋼管柱の仕口部に設ける柱の形状は、下図を標準とし、柱の大きさは、上下柱のうち大きいものとし、材質は、上下柱材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等のものとする。

10.4 はり及び柱のしぼり

a) はり通し及び柱通しのしぼりの限度及び位置の標準は、下図により、梁ハンチ部にリブプレートをつけるものとし、板厚はウェブと同厚以上とする。ただし、リブプレートの大きさはスリプ等の納りを考慮して小さくすることができる。

b) 柱のフランジ幅、フランジ板厚及びウェブ板厚の異なる場合のしぼりの限度及び位置の標準は、下図による。

c) 柱脚部のしぼりの限度及び位置の標準は、下図による。

10.5 はりの段差

柱に取り付くはりに段差を設ける場合の寸法 (Δe) は、溶接性を考慮して、150mm以上かつ6t以上 (tは柱の板厚) を確保する。ただし、溶接及び超音波探傷検査に支障がない場合は、この限りではない。

a) 十字柱

b) H形柱

c) 鋼管柱

10.6 バンドプレート

バンドプレートは、特に柱・はり接合部においては配筋上の支障となりやすいので、取り付けないこととする。ただし、ウェブ厚が薄く、溶接、運搬及び建方の際に変形のおそれのある場合又は施工上タラップとして必要な場合は、施工性を考慮して下図の位置及び大きさで取り付けることとする。

10.7 ウェブ継手現場溶接用隔板

現場で柱ウェブ材を溶接する場合の隔板の標準は下図により、材質は上下柱ウェブ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものを用いるものとし、板厚は上下柱ウェブ材の厚さ以上、かつ12mm以上とする。

10.8 フィラープレート (SS400)

表10.1 フィラープレート厚 (単位: mm)

継手	T3又はT4	フィラープレート厚
≦ 1	無	
≦ 2	1.6	
≦ 3	2.3	
≦ 5	4.5	
≦ 7	6	
≦ 10	9	
≦ 13	12	
≦ 17	16	
≦ 20	19	
≦ 23	22	

(注) 1. フィラープレートは1mmを超えるはだすきに対して挿入する。
2. フィラープレートの厚みは1.6mm以上とする。

竣工年月日
監理者印
施工者印

株式会社
大建設
一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ノ)404号

図にこころを
2025. 3. 14
0-2023-120

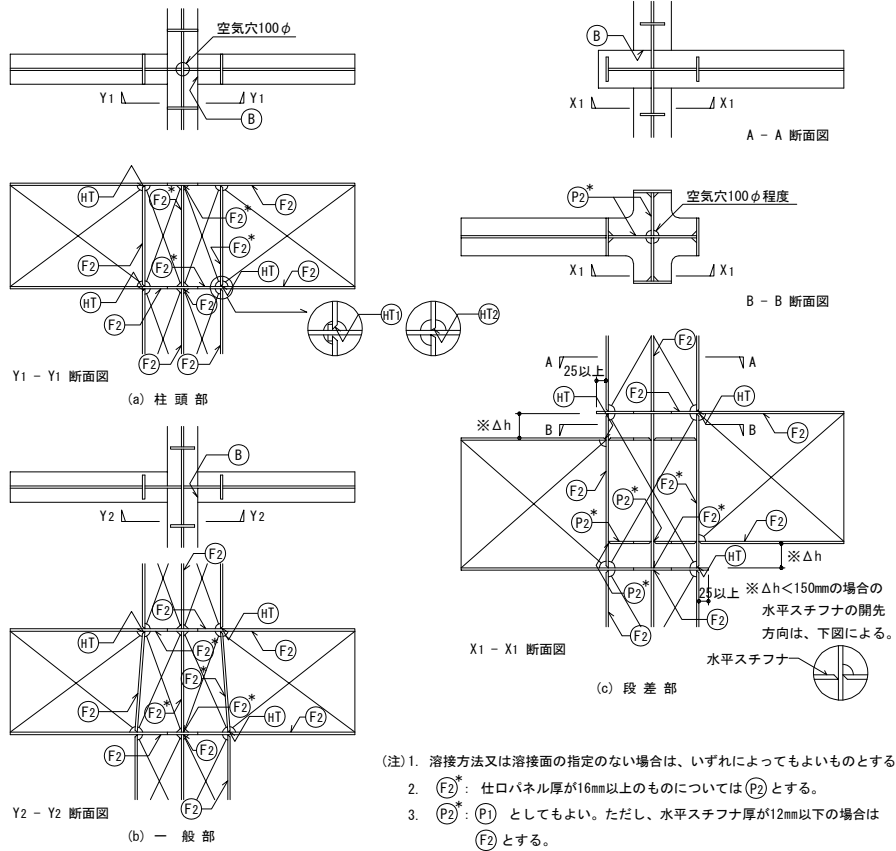
DATE
PROJ. NO
DNG. TITLE
鉄骨標準詳細図 (1)

【役場】
構造
NS (A1)
NS (A3)
S-110

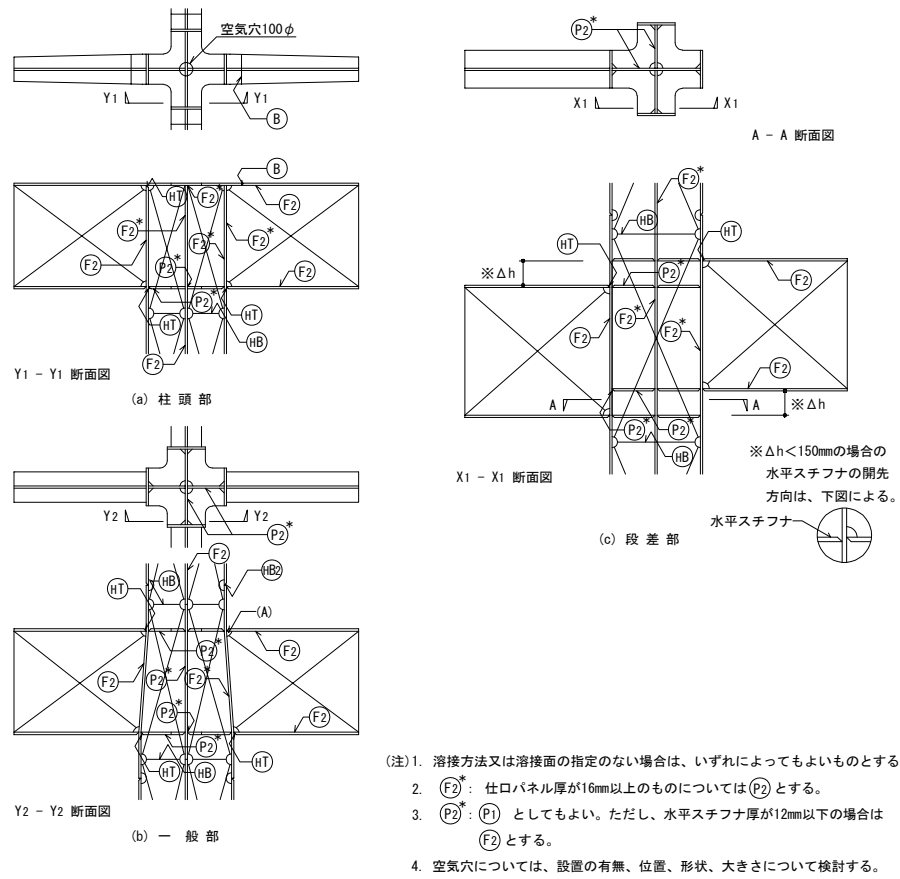
11. 仕口パネルその他仕口部詳細図

11.1 十字形柱

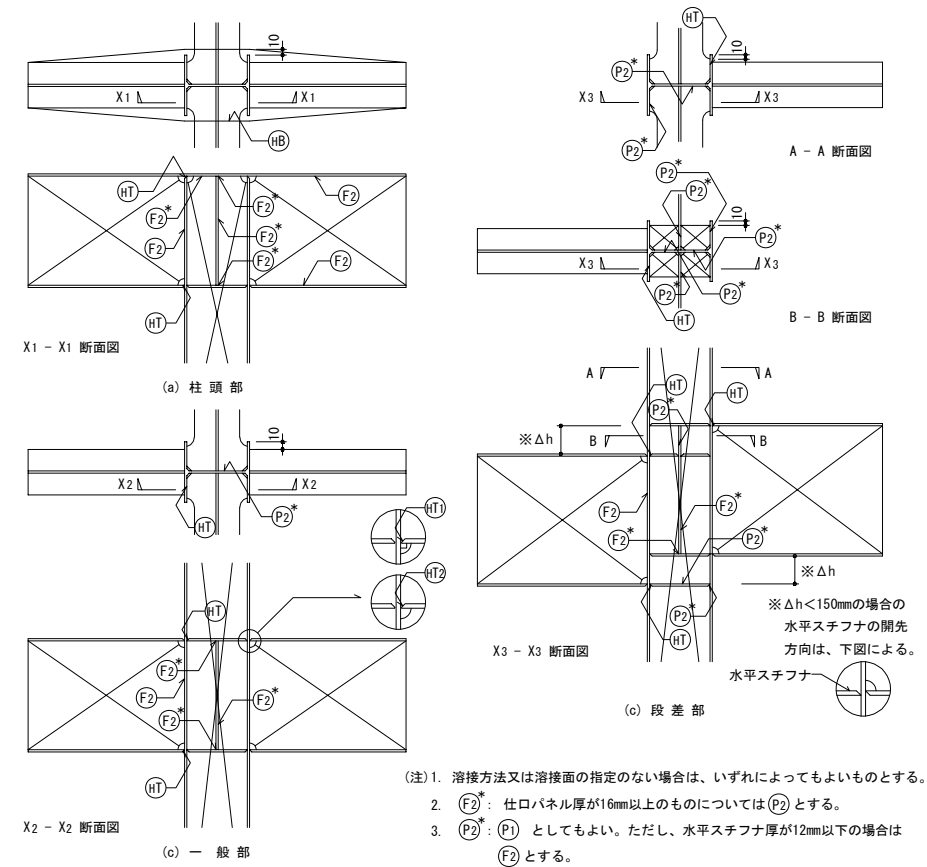
はり通し



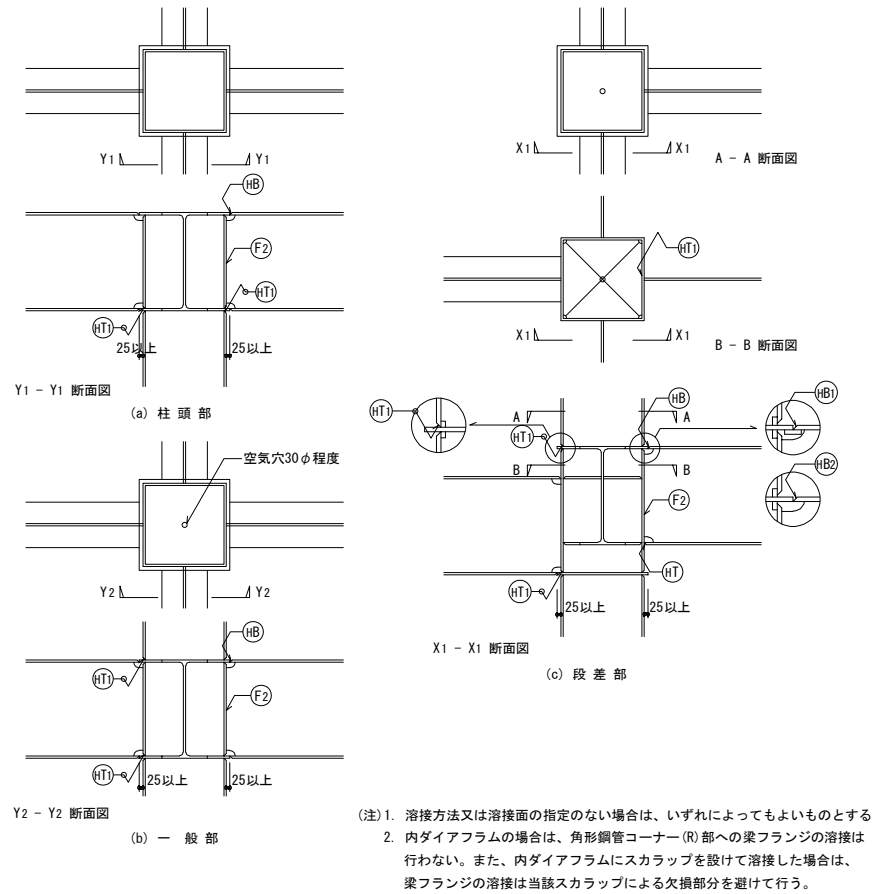
柱通し



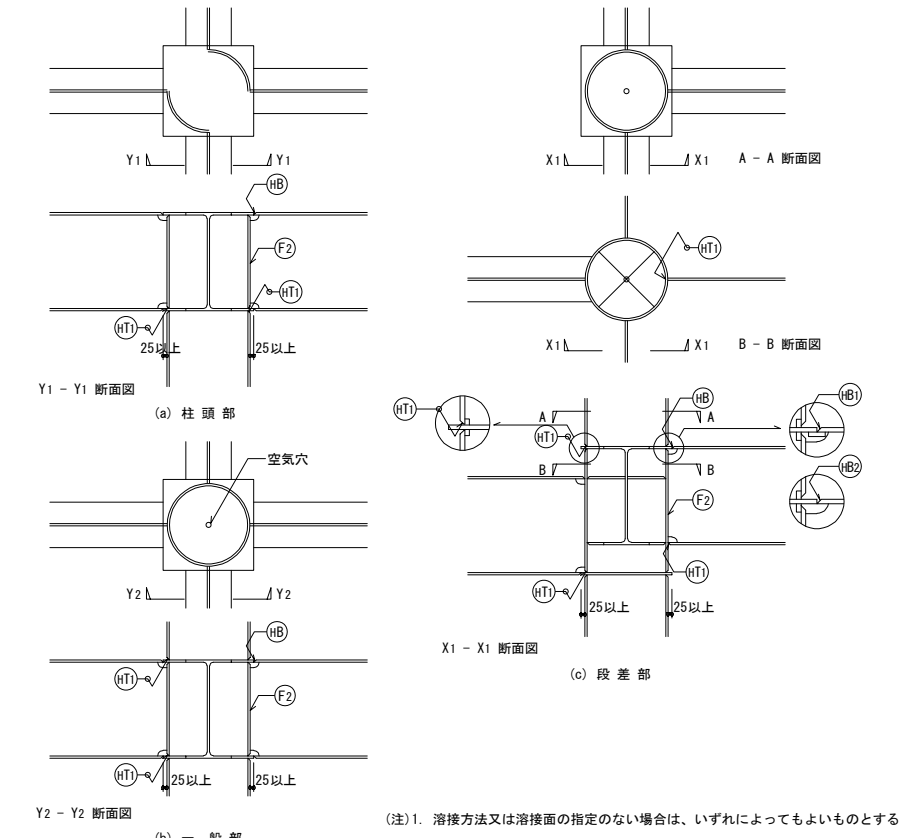
11.2 H形柱



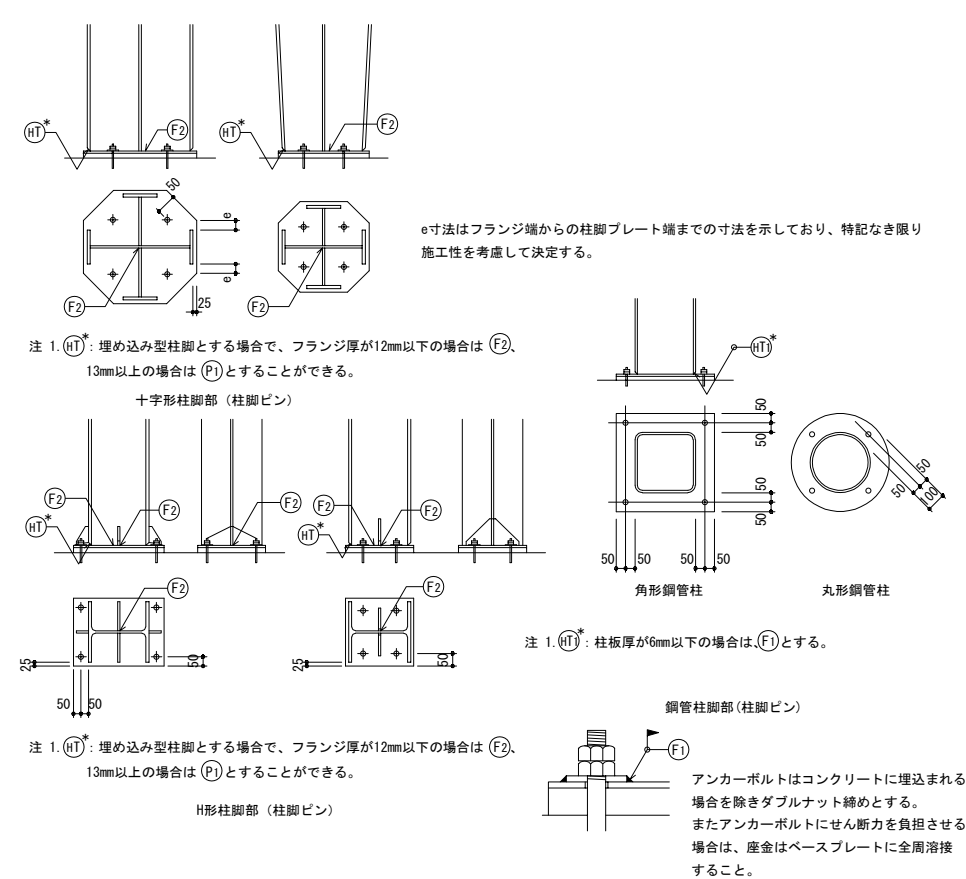
11.3 角形鋼管柱



11.4 鋼管柱

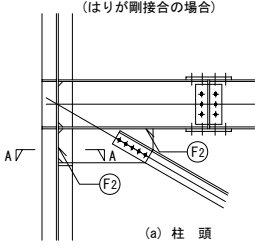


11.5 柱脚部詳細図

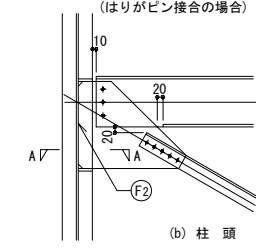


12. 各部詳細

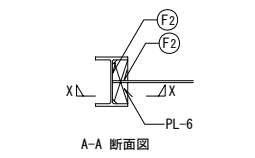
12.1 鉛直ブレースの仕口部
(はり剛接合の場合)



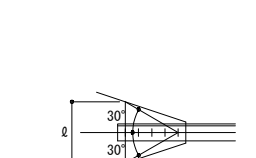
(a) 柱頭



(b) 柱頭



A-A 断面図

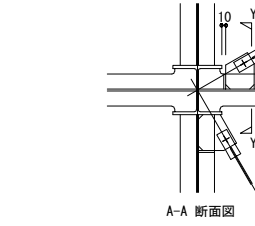


(d) ガセットプレートの形状

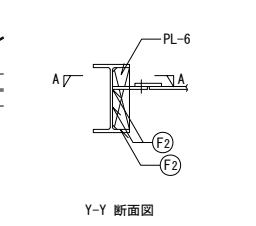
(注) 1. 柱、はり及びブレースのゲージラインは、原則として一致させる。
2. ガセットプレートの幅は、材端ボルト位置で図(d)に示すℓの長さを確保する。
ただし、それによりゲージラインが不一致となる場合はこの限りではない。

12.2 水平ブレースの仕口部

a) H形柱



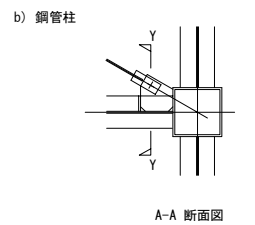
A-A 断面図



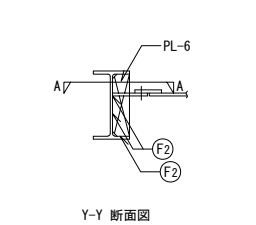
Y-Y 断面図

(注) 1. 柱、はり及びブレースのゲージラインは、原則として一致させる。

b) 鋼管柱



A-A 断面図

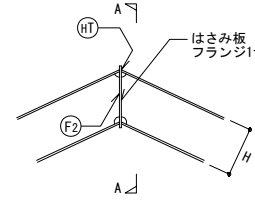


Y-Y 断面図

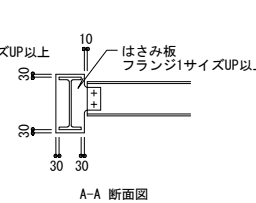
(注) 1. 柱、はり及びブレースのゲージラインは、原則として一致させる。

12.3 山形ラーメン棟部

山形ラーメン棟部分の溶接方法の標準は、下図による。
はさみ板は、ラメラティアのおそれを考慮して、ヘリあきを30mmとし、材質は、C種とする。取付く梁フランジ材の強度及び溶接性の最も優れたものと同等以上とする。
また、大スパンの場合等で精度が問題となるときは、監督職員の手承認を受けて、高力ボルト接合等、他のディテールを探ることができる。



A-A 断面図



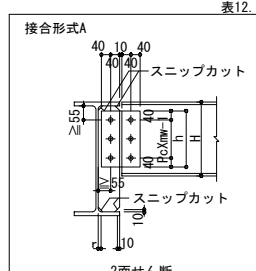
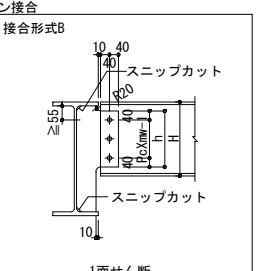
A-A 断面図

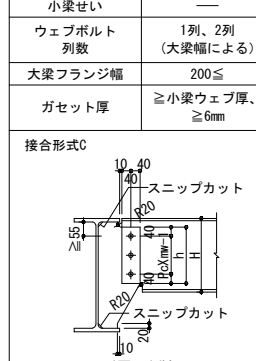
(注) 1. はさみ板は、小梁のガセットプレートと兼用は可とする。

12.4 小ばり接合

a) ピン接合

表12.1 ピン接合

接合形式A		接合形式B	
	2面せん断		1面せん断
小梁せい	—	小梁せい	≦600
ウェブボルト列数	1列、2列 (大梁幅による)	ウェブボルト列数	≦2列
大梁フランジ幅	200≦	大梁フランジ幅	—
ガセット厚	≧小梁ウェブ厚、 ≧6mm	ガセット厚	小梁ウェブ厚の 1サイズUP

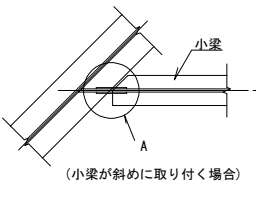


1面せん断

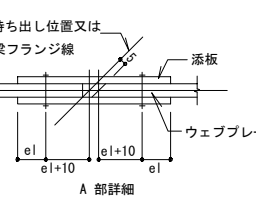
共通事項

大梁せい≧小梁せい
ガセット厚、添板厚(接合形式A)≧6mm
ウェブボルトの配置は、最小ボルト本数を2本、せい方向ピッチを60、90、120mmの3種類とし、小梁のせい方向の中心振り分けとする。

小梁せい	≦600
ウェブボルト列数	≦2列
大梁フランジ幅	—
ガセット厚	小梁ウェブ厚の 1サイズUP



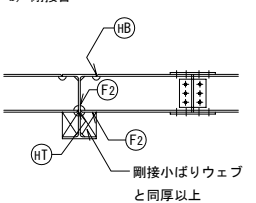
(小梁が斜めに取付く場合)



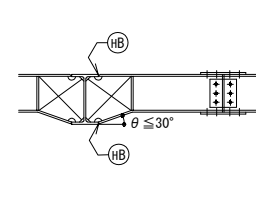
A 部詳細

(注) 1. 一面せん断の場合もこれに準ずる。
2. elは縁端距離を示す。

b) 剛接合

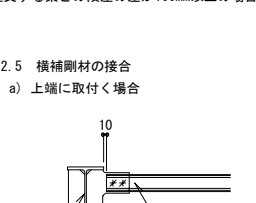


剛接合



剛接合

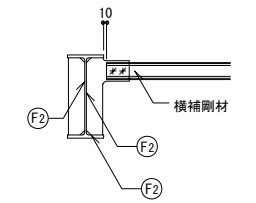
(直交する梁との段差の差が100mm以上の場合)



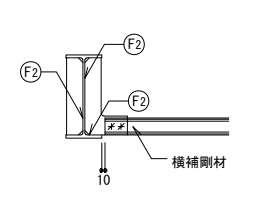
(直交する梁との段差が100mm未満の場合)

12.5 横補剛材の接合

a) 上端に取付く場合

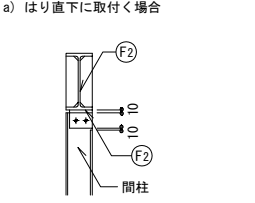


b) 下端に取付く場合



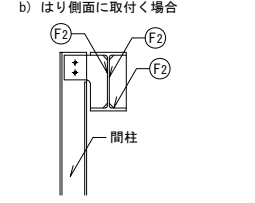
12.6 間柱の接合

a) はり直下に取付く場合



間柱

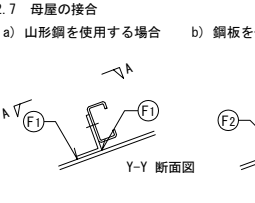
b) はり側面に取付く場合



間柱

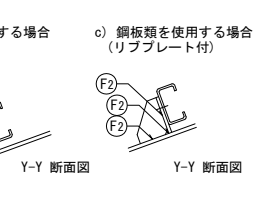
12.7 母屋の接合

a) 山形鋼を使用する場合



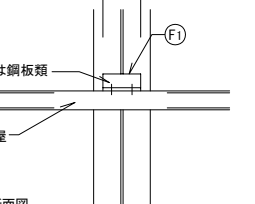
Y-Y 断面図

b) 鋼板を使用する場合

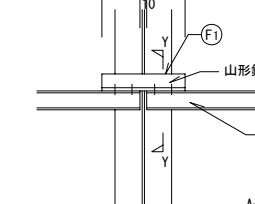


Y-Y 断面図

c) 鋼板類を使用する場合(リブプレート付)

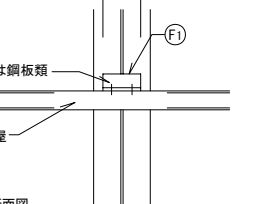


Y-Y 断面図



A-A 断面図

(母屋を継ぐ場合)

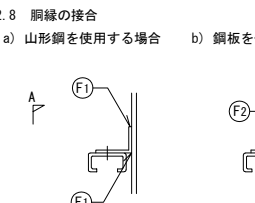


A-A 断面図

(母屋を引通す場合)

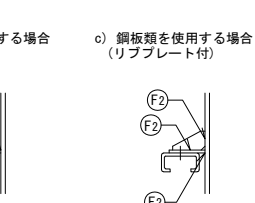
12.8 胴縁の接合

a) 山形鋼を使用する場合



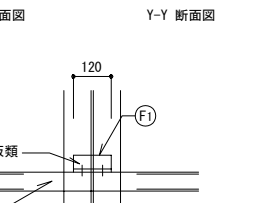
Y-Y 断面図

b) 鋼板を使用する場合

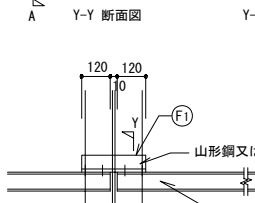


Y-Y 断面図

c) 鋼板類を使用する場合(リブプレート付)

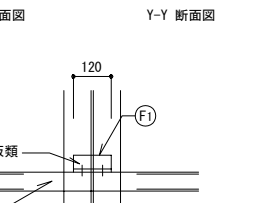


Y-Y 断面図



A-A 断面図

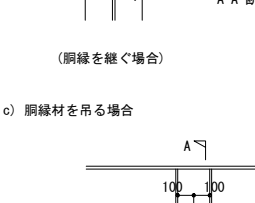
(胴縁を継ぐ場合)



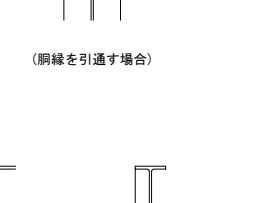
A-A 断面図

(胴縁を引通す場合)

c) 胴縁材を吊る場合



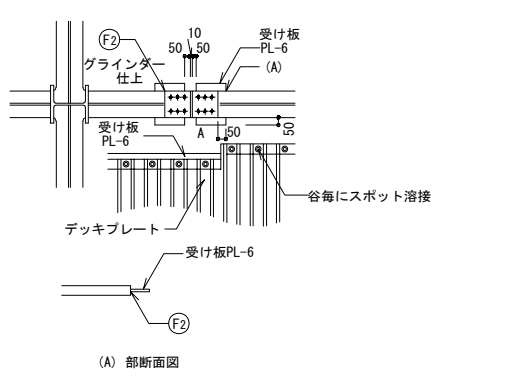
A-A 断面図



A-A 断面図

ダブルナット締め又は溶接

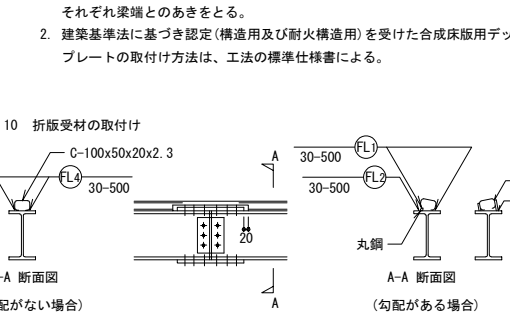
12.9 デッキプレートの取付け



(A) 部断面図

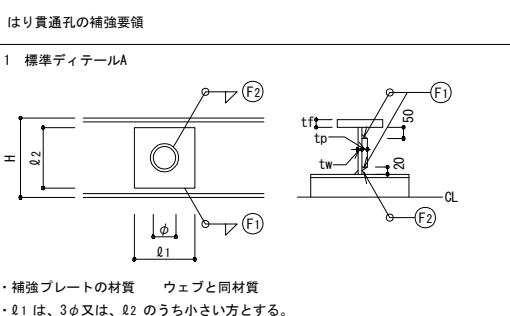
(注) 1. デッキプレート受板は、仮置時の破損を避けるため柱側で50mm、梁側10mmそれぞれ梁端とのあきをとる。
2. 建築基準法に基づき認定(構造用及び耐火構造用)を受けた合成床版用デッキプレートの取付け方法は、工法の標準仕様書による。

12.10 折版受材の取付け



A-A 断面図

(勾配がない場合)

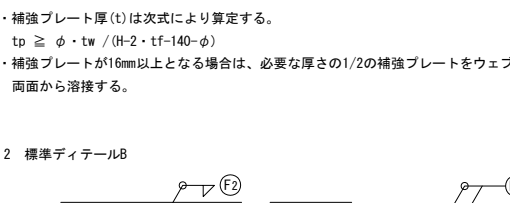


A-A 断面図

(勾配がある場合)

13. はり貫通孔の補強要領

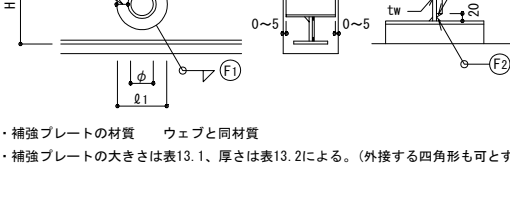
13.1 標準ディテールA



標準ディテールA

・補強プレートの材質 ウェブと同材質
・ℓ1は、3φ又は、ℓ2のうち小さい方とする。
・ℓ2は、次式により算定する。
ℓ2 = H - 2・tf - 100
・補強プレート厚(t)は次式により算定する。
tp ≧ φ・tw / (H - 2・tf - 140 - φ)
・補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な厚さの1/2の補強プレートをウェブ両面から溶接する。

13.2 標準ディテールB



標準ディテールB

・補強プレートの材質 ウェブと同材質
・補強プレートの大きさは表13.1、厚さは表13.2による。(外接する四角形も可とする。)

表13.1 補強プレートの大きさ(A) (単位: mm)

孔径(φ)	A寸法	
	片面	両面
75	40	—
100	55	30
125	125	60
150	150	75
175	175	85
200	200	100
225	—	110
250	—	125
275	—	135
300	—	150

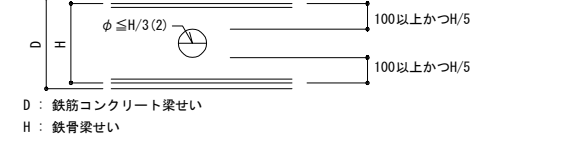
(注) 1. 適用範囲はφ≦H/3とする。
2. 貫通孔が200mmを超える場合及び片面では補強プレートが納まらない場合に両面補強とする。

表13.2 補強プレートの厚さ(tp) (単位: mm)

ウェブ・プレート厚	補強プレート厚(tp)	
	φ≦100	φ≧125
tw≦6	6	6
6<tw≦9	9	6
9<tw≦12	12	9
12<tw≦16	—	9
16<tw≦19	—	12
19<tw≦22	—	12
22<tw≦25	—	16

13.3 共通事項

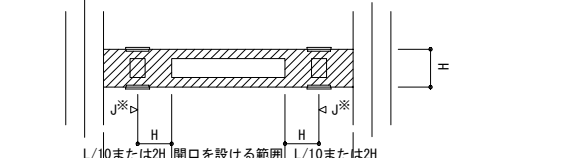
φ≦H/5かつ孔の位置がせいの中央H/3に納まっている場合は補強不要とする。
・貫通孔の大きさ 鉄骨鉄筋コンクリート造: φ≦D/3 かつ φ≦H/2
鉄骨造: φ≦H/2
・せい方向の孔の位置 フランジの外端から100mm以上かつH/5以上あける。



共通事項

D: 鉄筋コンクリート梁せい
H: 鉄骨梁せい

・長さ方向の孔の位置



長さ方向の孔の位置

※ノンブラケットタイプの場合は、Jを柱面に読み替える

・連続する貫通孔 貫通孔間隔は、鉄骨造において両側の貫通孔径の平均値の2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造において両側の貫通孔径の平均値の3倍以上を確保する。離すことの出来ない場合は、包絡する外接円を貫通孔と見なして補強する。

13.4 鋼管スリーブ

鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の鋼管スリーブは、表13.3による。
鉄骨造の場合は鋼管スリーブは不要とする。

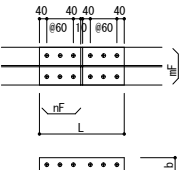
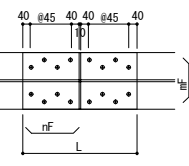
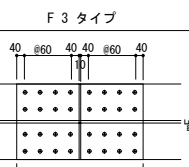
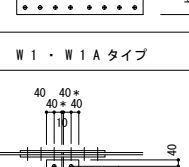
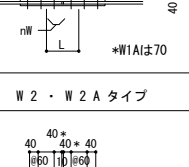
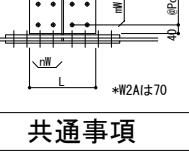
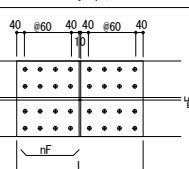
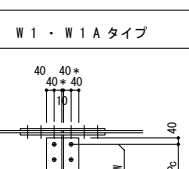
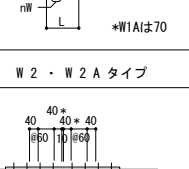
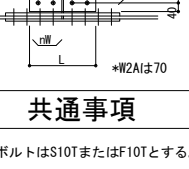
表13.3 鋼管スリーブ

スリーブ径	鋼管(STK400)	スリーブ径	鋼管(STK400)
50φ	φ60.5 x 3.2	200φ	φ216.3 x 5.8
65φ	φ76.3 x 3.2	250φ	φ267.4 x 6.6
80φ	φ89.1 x 4.2	300φ	φ318.5 x 6.9
100φ	φ114.3 x 4.5	350φ	φ355.6 x 7.9
125φ	φ139.8 x 5.0	400φ	φ406.4 x 7.9
150φ	φ165.2 x 5.0	450φ	φ457.2 x 7.9
175φ	φ190.7 x 5.3		

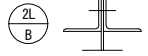
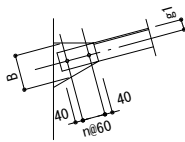
13.5 梁貫通孔の補強は、監督職員の手承認を受けて、表13.4の既製品と入れ替える事ができる。

表13.4 既製品の梁貫通孔

製品名	メーカー名
・ハイリングⅢ	センクシア
・フリードーナツエイト	旭化成建材
・フリードーナツゼロ	岡部
・OSリング	日本ファブテック
・EGリング	

シリーズ		部 材	梁 継 手 (SCSS-H97準拠) (H)												柱 継 手 (SCSS-H97準拠) (H)												凡 例	
			400N/mm ² 級用						490N/mm ² 級用						400N/mm ² 級用						490N/mm ² 級用							
			フランジ継手			ウェブ継手			フランジ継手			ウェブ継手			フランジ継手			ウェブ継手			フランジ継手			ウェブ継手				
径	タイプ	高力ボルト n F × m F	外面添板 (t × L) 内面添板 (t × b)	タイプ	高力ボルト m W × n W	Pc	添板 (t × b × L)	径	タイプ	高力ボルト n F × m F	外面添板 (t × L) 内面添板 (t × b)	タイプ	高力ボルト m W × n W	Pc	添板 (t × b × L)	径	タイプ	高力ボルト n F × m F	外面添板 (t × L) 内面添板 (t × b)	タイプ	高力ボルト m W × n W	Pc	添板 (t × b × L)					
細幅系列	200x100	H-200x100x 5.5x 8	M16	F1	2 × 2	16 x 290	W1	2 × 1	60	6x140x170	M16	F1	3 × 2	16 x 410	W2	2 × 2	60	6x140x290	M16	F1	2 × 2	16 x 290	W2	2 × 2	60	6x140x290	F 1 タイプ	
	250x125	H-248x124x 5x 8	M16	F1	3 × 2	12 x 410	W2	2 × 2	90	6x170x290	M16	F1	4 × 2	12 x 530	W2	2 × 2	90	6x170x290	M16	F1	3 × 2	12 x 410	W2	2 × 2	90	9x170x290		
		H-250x125x 6x 9	M16	F1	3 × 2	12 x 410	W2	2 × 2	90	6x170x290	M16	F1	4 × 2	12 x 530	W2	2 × 2	90	6x170x290	M16	F1	4 × 2	12 x 530	W2	2 × 3	60	9x140x410		
	300x150	H-298x149x 5.5x 8	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 59	W1	2 × 1	120	6x200x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 59	W1	3 × 1	60	6x200x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 59	W2	2 × 2	120	6x200x290		
		H-300x150x 6.5x 9	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 60	W1	2 × 1	120	6x200x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 60	W1	3 × 1	60	6x200x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 60	W2	2 × 2	120	6x200x290		
	350x175	H-346x174x 6x 9	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 69	W1	3 × 1	90	6x260x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 69	W1	3 × 1	90	6x260x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 69	W1	4 × 1	60	6x260x170		
		H-350x175x 7x 11	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W1	3 × 1	90	6x260x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W1	3 × 1	90	6x260x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W1	4 × 1	60	6x260x170		
	400x200	H-396x199x 7x 11	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 79	W1	4 × 1	60	6x260x170	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 79	W2	3 × 2	90	9x260x290	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 79	W2	3 × 2	90	9x260x290		
		H-400x200x 8x 13	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W1	4 × 1	60	9x260x170	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W2	3 × 2	90	9x260x290	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W2	4 × 2	60	9x260x290		
	450x200	H-446x199x 8x 12	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W1	5 × 1	60	9x320x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 79	W2	3 × 2	120	9x320x290	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W1	5 × 1	60	9x320x170		
		H-450x200x 9x 14	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W1	5 × 1	60	9x320x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 80	W2	3 × 2	120	9x320x290	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W1	5 × 1	60	9x320x170		
	500x200	H-496x199x 9x 14	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W1	5 × 1	60	9x320x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 79	W1	6 × 1	60	9x380x170	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W1	6 × 1	60	9x380x170		
		H-500x200x 10x 16	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W1	5 × 1	60	9x320x170	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 80	W1	6 × 1	60	9x380x170	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W1	6 × 1	60	9x380x170		
	600x200	H-596x199x 10x 15	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W2	4 × 2	120	9x440x290	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 79	W2	6 × 2	60	12x380x290	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 79	W2	5 × 2	90	9x440x290		
		H-600x200x 11x 17	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W2	4 × 2	120	9x440x290	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 80	W2	6 × 2	60	12x380x290	M20	F1	3 × 2	12 x 410 12 x 80	W2	5 × 2	90	9x440x290		
中幅系列	148x100	H-148x100x 6x 9	M16	F1	2 × 2	16 x 290	W2	1 × 2	-	6x 80x290	M16	F1	3 × 2	16 x 410	W2	1 × 3	-	6x 80x410	M16	F1	2 × 2	16 x 290	W2	1 × 3	-	9x 80x410		
	200x150	H-194x150x 6x 9	M16	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 60	W1A	2 × 1	60	6x140x230	M16	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 60	W2A	2 × 2	60	6x140x350	M16	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 60	W2A	2 × 2	60	6x140x350		
	250x175	H-244x175x 7x 11	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W1	2 × 1	60	9x140x170	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W2	2 × 2	60	9x140x290	M20	F1	2 × 2	9 x 290 9 x 70	W2	2 × 2	60	9x140x290		
	300x200	H-294x200x 8x 12	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W1	3 × 1	60	9x200x170	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W2	2 × 2	120	6x200x290	M20	F1	3 × 2	9 x 410 9 x 80	W1	3 × 1	60	9x200x170		
	350x250	H-340x250x 9x 14	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 100	W2	3 × 2	60	9x200x290	M20	F1	5 × 2	12 x 650 12 x 100	W2	3 × 2	60	9x200x290	M20	F1	4 × 2	12 x 530 12 x 100	W2	3 × 2	60	12x200x290		
	400x300	H-390x300x 10x 16	M22	F2	3 × 2	12 x 350 12 x 110	W1	3 × 1	90	9x260x170	M22	F2	4 × 2	12 x 440 12 x 110	W2	3 × 2	90	9x260x290	M22	F2	3 × 2	12 x 350 12 x 110	W1	4 × 1	60	9x260x170		
	450x300	H-440x300x 11x 18	M22	F2	4 × 2	12 x 440 12 x 110	W1	5 × 1	60	9x320x170	M22	F2	5 × 2	12 x 530 12 x 110	W1	5 × 1	60	9x320x170	M22	F2	4 × 2	12 x 440 12 x 110	W1	5 × 1	60	9x320x170		
	500x300	H-482x300x 11x 15	M22	F2	4 × 2	12 x 440 12 x 110	W1	5 × 1	60	12x320x170	M22	F2	5 × 2	12 x 530 12 x 110	W1	6 × 1	60	9x380x170	M22	F2	4 × 2	12 x 440 12 x 110	W1	6 × 1	60	9x380x170		
		H-488x300x 11x 18	M22	F2	4 × 2	12 x 440 12 x 110	W1	5 × 1	60	12x320x170	M22	F2	5 × 2	12 x 530 12 x 110	W1	6 × 1	60	9x380x170	M22	F2	4 × 2	12 x 440 12 x 110	W1	6 × 1	60	9x380x170		
	600x300	H-582x300x 12x 17	M22	F2	4 × 2	12 x 440 16 x 110	W1	7 × 1	60	9x440x170	M22	F2	5 × 2	12 x 530 16 x 110	W2	5 × 2	90	9x440x290	M22	F2	4 × 2	12 x 440 16 x 110	W1	7 × 1	60	12x440x170		
		H-588x300x 12x 20	M22	F2	4 × 2	12 x 440 16 x 110	W1	7 × 1	60	9x440x170	M22	F2	5 × 2	12 x 530 16 x 110	W2	5 × 2	90	9x440x290	M22	F2	4 × 2	12 x 440 16 x 110	W1	7 × 1	60	12x440x170		
	700x300	H-692x300x 13x 20	M22	F2	5 × 2	19 x 530 19 x 110	W1	9 × 1	60	9x560x170	M22	F2	7 × 2	19 x 710 19 x 110	W2	6 × 2	90	12x530x290	M22	F2	5 × 2	19 x 530 19 x 110	W1	9 × 1	60	9x560x170		
		H-700x300x 13x 24	M22	F2	5 × 2	19 x 530 19 x 110	W1	9 × 1	60	9x560x170	M22	F2	7 × 2	19 x 710 19 x 110	W2	6 × 2	90	12x530x290	M22	F2	5 × 2	1						

山形鋼継手

	軸 プ レ ース ・ 床 プ レ ース										床 プ レ ース				繰りボルト	G1
																
	部 材	径	2面継手				径	1面継手				径	1面継手			
高力ボルト			ガセットプレート		高力ボルト			ガセットプレート		高力ボルト			ガセットプレート			
		数量	継手	最小B	厚さ		数量	継手	最小B	厚さ		数量	継手	最小B	厚さ	
L - 65 x 65 x 6	M16	5	G1	165	9	M16	5	G1	90	9	M20	2	G1	80	9	L ≤ 600
L - 75 x 75 x 6	M16	5	G1	190	9	M16	5	G1	95	9	M20	2	G1	100	9	L ≤ 700
L - 75 x 75 x 9	M20	5	G1	205	12	M16	5	G1	125	9	M20	3	G1	120	9	L ≤ 800
L - 90 x 90 x 7	M20	5	G1	205	12	M20	5	G1	125	9	M20	3	G1	120	9	L ≤ 800
L - 90 x 90 x 10	M20	5	G1	270	12	M20	5	G1	165	9	M20	4	G1	140	9	L ≤ 900
L - 100 x 100 x 7	M20	5	G1	225	12	M20	4	G1	135	9	M22	3	G1	140	9	L ≤ 900
L - 100 x 100 x 10	M20	6	G1	305	12	M20	5	G1	185	9	M22	4	G1	160	9	L ≤ 900
L - 100 x 100 x 13	M20	8	G1	385	12	M20	6	G1	185	12	M22	5	G1	200	9	L ≤ 900
特 記 事 項																
・ 適用範囲の母材の鋼種は、SS400、SM400、SN400とする。 ・ プレートの鋼種は母材と同等とする。 ・ 高力ボルトは、S10TまたはF10Tとする。 ・ 軸ブレース継手は、建築構造設計指針“最新版”（東京都建築構造行政連絡会）による。																

脚柱柱間

部 材	アンカーボルト				ベースプレート	
	径	数量	P1	P2	厚さA x B	
H-150x 75x 5x 7	M16	2	100		PL-12x200x180	
H-175x 90x 5x 8	M16	2	100		PL-12x225x180	
H-198x 99x 4.5x 7 H-200x100x 5.5x 8	M16	2	100		PL-12x250x180	
H-248x124x 5x 8 H-250x125x 6x 9	M20	2	110		PL-16x300x220	
H-298x149x 5.5x 8 H-300x150x 6.5x 9	M24	2	120		PL-19x350x240	
H-346x174x 6x 9 H-350x175x 7x 11	M24	2	120		PL-19x400x240	
H-396x199x 7x 11 H-400x200x 8x 13	M20	4	120	200	PL-16x450x240	
H-446x199x 8x 12 H-450x200x 9x 14	M20	4	120	225	PL-16x500x240	
H-496x199x 9x 14 H-500x200x 10x 16	M24	4	120	250	PL-19x550x240	
H-596x199x 10x 15 H-600x200x 11x 17	M24	4	120	300	PL-19x650x240	
H-148x100x 6x 9	M16	2	100		PL-12x200x180	

	高力ボルト	T	e1	f	P	La	Lb	R	G.PL	S	Ls	Ld *1
M12	1-M16	6	40	12		40		17	6	6	60	42
M14	1-M16	6	40	12		50		17	6	6	61	43
M16	1-M16	6	45	14		55		17	9	8	80	56
M18	1-M20	9	50	16		60		21.5	9	8	80	56
M20	1-M20	9	50	16		75		21.5	9	8	97	65
M22	1-M22	9	55	18		85		23.5	12	10	100	70
M24	2-M20	9	50	20	60		85	21.5	12	10	112	76
M27	2-M20	9	50	22	60		90	21.5	12	10	145	93
M30	2-M22	12	55	28	60		95	23.5	12	10	177	109

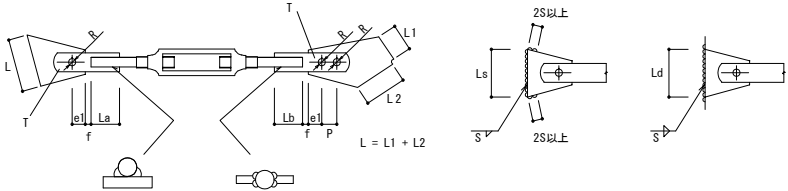
(mm)

・高力ボルトは、原則としてS10TまたはF10Tとし、溶融亜鉛めっき処理を行う場合は、溶融亜鉛めっきボルト（F8T相当）とする。

・継手は建築構造設計指針“最新版”（東京都建築構造行政連絡会）による。

JIS建築用ターンバックル筋かい (TB)

特記なきはJIS・A・5540（建築用ターンバックル） 5541（建築用ターンバックル胴）による。



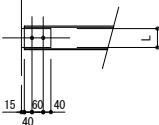
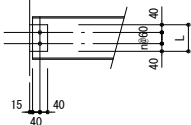
*1 $L = L1 + L2$ の場合は、 $Ld + 2S$ とする。

	高力バルト	T	e1	f	P	La	Lb	R	G.PL	S	LS	Ld *1
M12	1-M16	6	40	12		40		17	6	6	60	42
M14	1-M16	6	40	12		50		17	6	6	61	43
M16	1-M16	6	45	14		55		17	9	8	80	56
M18	1-M20	9	50	16		60		21.5	9	8	80	56
M20	1-M20	9	50	16		75		21.5	9	8	97	65
M22	1-M22	9	55	18		85		23.5	12	10	100	70
M24	2-M20	9	50	20	60		85	21.5	12	10	112	76
M27	2-M20	9	50	22	60		90	21.5	12	10	145	93
M30	2-M22	12	55	28	60		95	23.5	12	10	177	109

(mm)

- ・高力ボルトは、原則としてS10TまたはF10Tとし、溶融亜鉛めっき処理を行う場合は、溶融亜鉛めっきボルト（F8T相当）とする。
- ・継手は建築構造設計指針「最新版」（東京都建築構造行政連絡会）による。

溝形鋼継手

部 材	径	ウ ェ ブ			G1	G2
		高力ボルト		ガセットプレート		
		数量	継手			
□ -100x 50x 5	M16	2	G1	PL- 6x100		
□ -125x 65x 6	M20	2	G1	PL- 9x100		
□ -150x 75x 6.5	M16	2	G2	PL- 9x140		
□ -150x 75x 9	M20	2	G2	PL- 9x140		
□ -180x 75x 7	M20	2	G2	PL- 9x140	特 記 事 項	・適用範囲の母材の鋼種は、SS400、SM400、SM400とする。 ・プレートの鋼種は母材と同等とする。 ・高力ボルトは、S10TまたはF10Tとする。 ・継手耐力は、SCSS-H97に準拠する。 ・継手耐力は、母材せん断耐力の 50%以上とする。
□ -200x 80x 7.5	M22	2	G2	PL- 9x140		
□ -200x 90x 8	M22	2	G2	PL- 9x140		
□ -250x 90x 9	M20	3	G2	PL- 9x200		
□ -250x 90x 11	M20	3	G2	PL- 12x200		

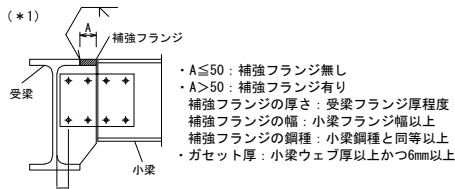
小梁繼手

シリーズ	部 材	WEB				WEB							
		高力ボルト				添 板		高力ボルト				ガセットプレート	
		径	数量	継手	@P	厚さ x W x L	径	数量	継手	@P	厚さ x W x L		
150x 75	H-150x 75x 5x 7	M16	2 x 2	W1	60	2PL- 9 x 290 x 120	M16	2	WG1	60	PL- 9 x 150 x 120		
175x 90	H-175x 90x 5x 8	M16	2 x 2	W1	60	2PL- 9 x 290 x 140	M16	2	WG1	60	PL- 9 x 150 x 140		
200x100	H-198x 99x 4.5x 7 H-200x100x 5.5x 8	M16	2 x 4	W3	60	2PL- 9 x 290 x 140	M16	4	WG3	60	PL- 9 x 150 x 140	W 2 (* 1)	
250x125	H-248x124x 5x 8 H-250x125x 6x 9	M16	2 x 4	W3	90	2PL- 9 x 290 x 170	M16	3	WG2	60	PL- 9 x 90 x 200		
300x150	H-298x149x 5.5x 8 H-300x150x 6.5x 9	M20	2 x 3	W2	60	2PL- 6 x 170 x 200	M20	3	WG2	60	PL- 9 x 90 x 200		
350x175	H-346x174x 6x 9 H-350x175x 7x 11	M20	2 x 4	W2	60	2PL- 6 x 170 x 260	M20	4	WG2	60	PL- 9 x 90 x 260		
400x200	H-396x199x 7x 11 H-400x200x 8x 13	M20	2 x 6	W3	90	2PL- 9 x 290 x 260	M20	5	WG2	60	PL- 9 x 90 x 320		
450x200	H-446x199x 8x 12 H-450x200x 9x 14	M20	2 x 5	W2	60	2PL- 9 x 170 x 320	M20	6	WG2	60	PL- 9 x 90 x 380		
500x200	H-496x199x 9x 14 H-500x200x 10x 16	M20	2 x 5	W2	60	2PL- 9 x 170 x 320	M20	7	WG2	60	PL- 9 x 90 x 440	W 3 (* 1)	
600x200	H-596x199x 10x 15 H-600x200x 11x 17	M20	2 x 7	W2	60	2PL- 9 x 170 x 440	M20	8	WG2	60	PL- 9 x 90 x 500		
150x100	H-148x100x 6x 9	M16	2 x 2	W1	60	2PL- 9 x 290 x 100	M16	2	WG1	60	PL- 12 x 150 x 100		
200x150	H-194x150x 6x 9	M20	2 x 2	W2	60	2PL- 6 x 170 x 140	M20	4	WG3	60	PL- 9 x 150 x 140		
250x175	H-244x175x 7x 11	M20	2 x 4	W3	60	2PL-12 x 290 x 140	M20	3	WG2A	60	PL- 9 x 90 x 190		
300x200	H-294x200x 8x 12	M20	2 x 3	W2	60	2PL- 9 x 170 x 200	M20	3	WG2	60	PL- 9 x 90 x 200	W 4 (* 1)	
350x250	H-340x250x 9x 14	M22	2 x 6	W3	60	2PL-12 x 290 x 200	M22	4	WG2	60	PL- 9 x 90 x 260		
400x300	H-390x300x 10x 16	M22	2 x 4	W2	60	2PL- 9 x 170 x 260	M22	6	WG3	90	PL- 9 x 150 x 260		
450x300	H-440x300x 11x 18	M22	2 x 5	W2	60	2PL- 9 x 170 x 320	M22	5	WG2	60	PL- 9 x 90 x 320		
500x300	H-482x300x 11x 15 H-488x300x 11x 18	M22	2 x 6	W2	60	2PL- 9 x 170 x 380	M22	6	WG2	60	PL- 9 x 90 x 380		
600x300	H-582x300x 12x 17 H-588x300x 12x 20	M22	2 x 7	W2	60	2PL-12 x 170 x 440	M22	8	WG2	60	PL- 9 x 90 x 500		
700x300	H-700x300x 13x 24	M22	2 x 9	W2	60	2PL- 9 x 170 x 560						WG1	
800x300	H-800x300x 14x 26	M22	2 x 12	W3	90	2PL-12 x 290 x 530							
900x300	H-900x300x 16x 28	M22	2 x 16	W3	90	2PL-12 x 290 x 710							
100x100	H-100x100x 6x 8	M16	2 x 2	W1	60	2PL-12 x 290 x 65	M16	2	WG1	60	PL- 16 x 150 x 65		
125x125	H-125x125x 6.5x 9	M16	2 x 2	W1	60	2PL-12 x 290 x 90	M16	2	WG1	60	PL- 12 x 150 x 90		
150x150	H-150x150x 7x 10	M20	2 x 2	W1	60	2PL-12 x 290 x 100	M20	2	WG1	60	PL- 12 x 150 x 100	WG2 (WG2A)	
175x175	H-175x175x 7.5x 11	M20	2 x 2	W1	60	2PL- 9 x 290 x 120	M20	2	WG1	60	PL- 12 x 150 x 120		
200x200	H-200x200x 8x 12	M20	2 x 2	W2	60	2PL- 9 x 170 x 140	M20	4	WG3	60	PL- 12 x 150 x 140		
250x250	H-250x250x 9x 14	M20	2 x 4	W4	60	2PL-12 x 290 x 160	M20	3	WG2A	60	PL- 9 x 90 x 190		
300x300	H-300x300x 10x 15	M22	2 x 3	W2	60	2PL- 9 x 170 x 200	M22	6	WG3	60	PL- 12 x 150 x 200		
350x350	H-350x350x 12x 19	M22	2 x 6	W3	60	2PL-16 x 290 x 200	M22	8	WG3	60	PL- 9 x 150 x 260		
400x400	H-400x400x 13x 21	M22	2 x 6	W3	90	2PL-12 x 290 x 260	M22	10	WG3A	60	PL- 9 x 150 x 310	WG3 (WG3A)	
	H-414x405x 18x 28 H-428x407x 20x 35	M22	2 x 8	W3	60	2PL-16 x 290 x 260							

特記事項

- ・適用範囲の母材の鋼種は、SS400、SM400、SN400とする。
- ・プレートの鋼種は母材と同等とする。
- ・高力ボルトは、S10TまたはF10Tとする。
- ・継手耐力はSCSS-H97に準拠し、ボルト欠損を考慮した有効断面に対する全強接合とする。

- ・D継手耐力は、母材せん断耐力の100%以上とする。
- ・G継手耐力は、母材せん断耐力の 50%以上とする。



竣工年月日	..	..	接にごころを  株式会社 大建設 一般建築士事務所 大阪府知事登録 第(ノ)404号 <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td>DATE</td> <td>2025. 3. 14</td> <td>PROJ. TITLE</td> <td>防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事</td> <td>【役場】 構造物</td>			DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造物
PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE				継手基準図 (2)	NS (A1) NS (A3)	DWG. NO	S-114	
監理者印	..	..								
施工者印	..	..								

場所打ち一体式PC工事特記仕様書

1. 総 則

適 用 範 囲	本仕様書は、本工事のうち、場所打ち一体式プレストレストコンクリート（P C）、プレストレスト鉄筋コンクリート（P R C）造（以下、P C と総称）について適用する。 本仕様書または設計図書に指示されていない事項は下記によること。また、これらに指示されていない事項は、監理者の指示による。 ・建築基準法、同施行令 ・国総研・建築研究所監修 「プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例」（2009年版） ・日本建築学会 「プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説」（2022年版） ・日本建築学会 「プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種P C）構造設計・施工指針・同解説」（2003年版） ・日本建築学会 「建築工事標準仕様書・同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事」（2022年版）
構 造 方 式	本構造の方式は、鉄筋コンクリート（以下、R C）部材にP C鋼材を組み合せた場所打ち一体式P C造である。
プレストレス導入方式	プレストレス導入はボステンション方式であり、その方式については“6. 緊張”の項に示す。
P C工事施工業者	P C工事の施工については、下記専業社のうち、一社の責任施工とする。 オリエンタル白石株式会社、株式会社 建研、ピーエス・コンストラクション株式会社 ただし、施工の範囲は、P C鋼材の配置、緊張、グラウトまでの材工一式とする。
施 工 計 画	施工の順序・方法・工程などの施工計画は工事着手前によく検討し、その計画書を監理者に提出して承認を受ける。

2. 材 料

鉄筋

鉄筋は、JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）の規格に適合するものを使用する。

PC鋼材

PC鋼材は、JIS G 3536（PC鋼棒及びPC鋼より線）またはJIS G 3109（PC鋼棒）に適合し、有害な傷の無いものを使用しなければならない。

種 類	PC鋼より線			
記 号	SWPR7BL			
呼 び 名	7－15. 2φ			
断 面 積	971 mm ²			
引 張 荷 重	1, 827 kN			
降 伏 荷 重	1, 554 kN			
伸 び	3. 5 %以上			

セメント

1）セメントは、JIS R 5210（ポルトランドセメント）に規定する普通ポルトランドセメントを原則とする

2）その他のセメントを使用する場合は、監理者の指示を受けること。

混和材料

コンクリート中に表面活性剤等の混和材料を用いる場合は、その品質、使用量について監理者の指示を受けること。

3. 型 枠

組立て・取外し	1）コンクリートは、打込みの際にセメントペーストが漏れることのないように留意すること。 2）柱・梁等の型枠については、十分な耐力を持つように留意しなければならない。 3）P C造部分の型枠組立て順序については、P C鋼材の配置に影響されて決定することが多いので注意しなければならない。 4）型枠の締付けは、フォームタイ、及びボルト等により、十分強固にしなければならない。 5）P C定着具が取り付く柱型枠の締め付け金物、バタ角、単管等は、P C鋼材位置を避けて配置する。 6）事前にセパレーターの配置計画を行い、P C鋼材（シース）に当たらないようにする。 7）P C造部分の支保工は、横つなぎ・筋交い等を十分に入れ、横力に対して安全な構造としなければならない。 8）型枠存置期間は、J A S S 5によるものとする。
---------	---

4. 配筋・配線

鉄 筋	1）鉄筋は正確に配置し、コンクリート打設の際にくずれぬよう、強固に組み立てなければならない。 2）小梁下端筋やスラブ筋とP C鋼材が交差する場合は、P C鋼材を優先とする。
P C 鋼 材	1）P C鋼材（シース）は、支持金物等により、正確かつ強固に取りつけること。 2）梁端の定着具は、型枠の内面に正確かつ強固に取り付けること。 3）P C鋼材を露天に放置して、錆等で損傷させてはならない。 4）グラウト用孔、及び排気孔は、十分に注意して取り扱い、コンクリート打設時に損傷することのないよう細心の注意をす。 5）P C鋼材の加工・組み立てを行なう場合、加熱または溶接を行なってはならない。 6）P C鋼材定着具の露出部分は、プレストレス導入後すみやかにモルタル等で完全に保護しなければならない。 7）P C鋼材の配置後、コンクリート打設に先立ち、監理者の検査を受けなければならない。

5. コンクリート

品質

1) コンクリートの品質は、下記とする。

設計基準強度	27	N/mm2
プレストレス導入時強度	27	N/mm2

2) コンクリート強度試験用供試体の採取、及び養生は下記による。

この供試体はプレストレス導入時強度確認用として、別途採取すること。

ただし、他の供試体で強度を確認できた場合は、試験を省略することができる。

	プレストレス導入前	合計
現場養生	3本	3本

- ・プレストレス導入時強度の確認は、現場養生（現場水中養生、または、現場封かん養生）によること。
- ・プレストレス導入時強度試験は、一般構造図に記載された方法と同じとする。

打設

1) PC鋼材、鉄筋、型枠、及び定着具が、移動したり損傷したりしないよう注意する。

2) PC鋼材のシース内には、セメントペーストが入ってはならない。

3) シースには、パイブレーターが直接触れないように細心の注意を払うこと。

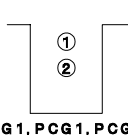
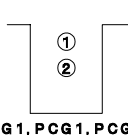
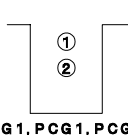
4) PC鋼材定着部の割裂補強筋は、コンクリート打設前に完全に配置しなければならない。

5) コンクリートの打込みは、打設場所にできる限り近づけて垂直に打ち込み、“片押し打ち”は避けなければならない。

6) 原則として、PC造部分におけるコンクリートの打継ぎは、行なってはならない。ただし、やむを得ない場合は打ち継ぎ位置について監理者と協議の上、レイタンス処理など十分に行った後、コンクリート打設を行うこと。

7) PC造部分以外に低強度のコンクリートを打設する際は、そのコンクリートがPC造部分内にこぼれないよう留意する。

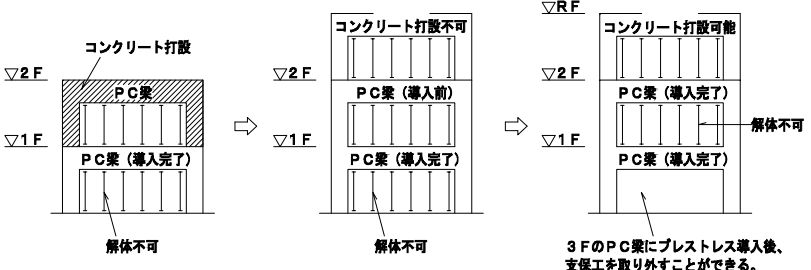
6. 緊 張

準 備	緊張装置は、事前にキャリブレーションを行ない、常に正常な状態にあるよう管理し、コンクリートが所定の強度（プレストレス導入時強度）に達したことを確認のうえ、監理者の指示によりプレストレス導入作業を行なうこと。				
順 序	1）プレストレス導入順序は、P C梁に対して局部的に完了せず、構造全体にわたって進めなければならない。 原則として、下記の要領でプレストレスを導入すること。 <table><tr><td>最初に各通り①を緊張（片引き） 次に、各通り②を緊張（片引き） 緊張方向はKEYPLAN参照。</td><td></td></tr><tr><td>PG1, PCG1, PCG2</td><td></td></tr></table> 2）多層の建築物において、特記なき限り、P C梁は直上階のコンクリート打設前にプレストレスを導入すること。	最初に各通り①を緊張（片引き） 次に、各通り②を緊張（片引き） 緊張方向はKEYPLAN参照。		PG1, PCG1, PCG2	
最初に各通り①を緊張（片引き） 次に、各通り②を緊張（片引き） 緊張方向はKEYPLAN参照。					
PG1, PCG1, PCG2					
緊 張 力	1）現場におけるP C鋼材の施工時緊張力は、下記による。 <table><tr><td>呼 び 名</td><td>施工時緊張力</td></tr><tr><td>7－SWPR7BL15. 2φ</td><td>1274 kN</td></tr></table> 2）緊張の管理は、緊張装置の圧力計（マノメーター）、及び事前に計算によって求めたP C鋼材の伸び量とによって入念に行なうこと。	呼 び 名	施工時緊張力	7－SWPR7BL15. 2φ	1274 kN
呼 び 名	施工時緊張力				
7－SWPR7BL15. 2φ	1274 kN				

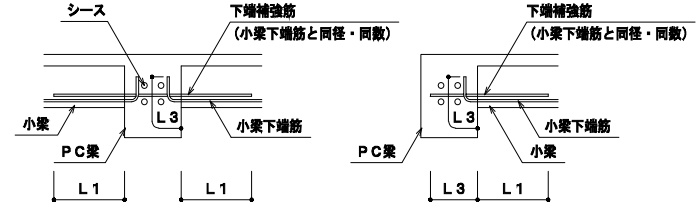
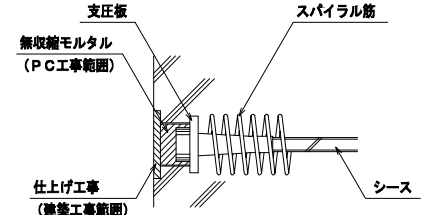
7. グ ラ ウ ト

調 合	1）グラウトの使用材料は、超低粘性プレミックスタイプ（太平洋ハイジェクター又は、同等品）とし、4週圧縮強度は30N/mm ² 以上とする。 2）その他の材料を使用する場合は、監理者と協議のうえ、決定すること。
作 業	グラウト作業は、下記の要領で行なうこと。 1）排出口から一様なグラウトが排出されるまで、注入口よりグラウト注入を続ける。 2）排出口から一様なグラウトが排出されたのを確認した後に排出口を閉じ、グラウトポンプの圧力がある程度上げて注入口を閉じる。 3）グラウトが凍結する恐れのある時期は、原則として作業を行なわない。

8. 支 保 工

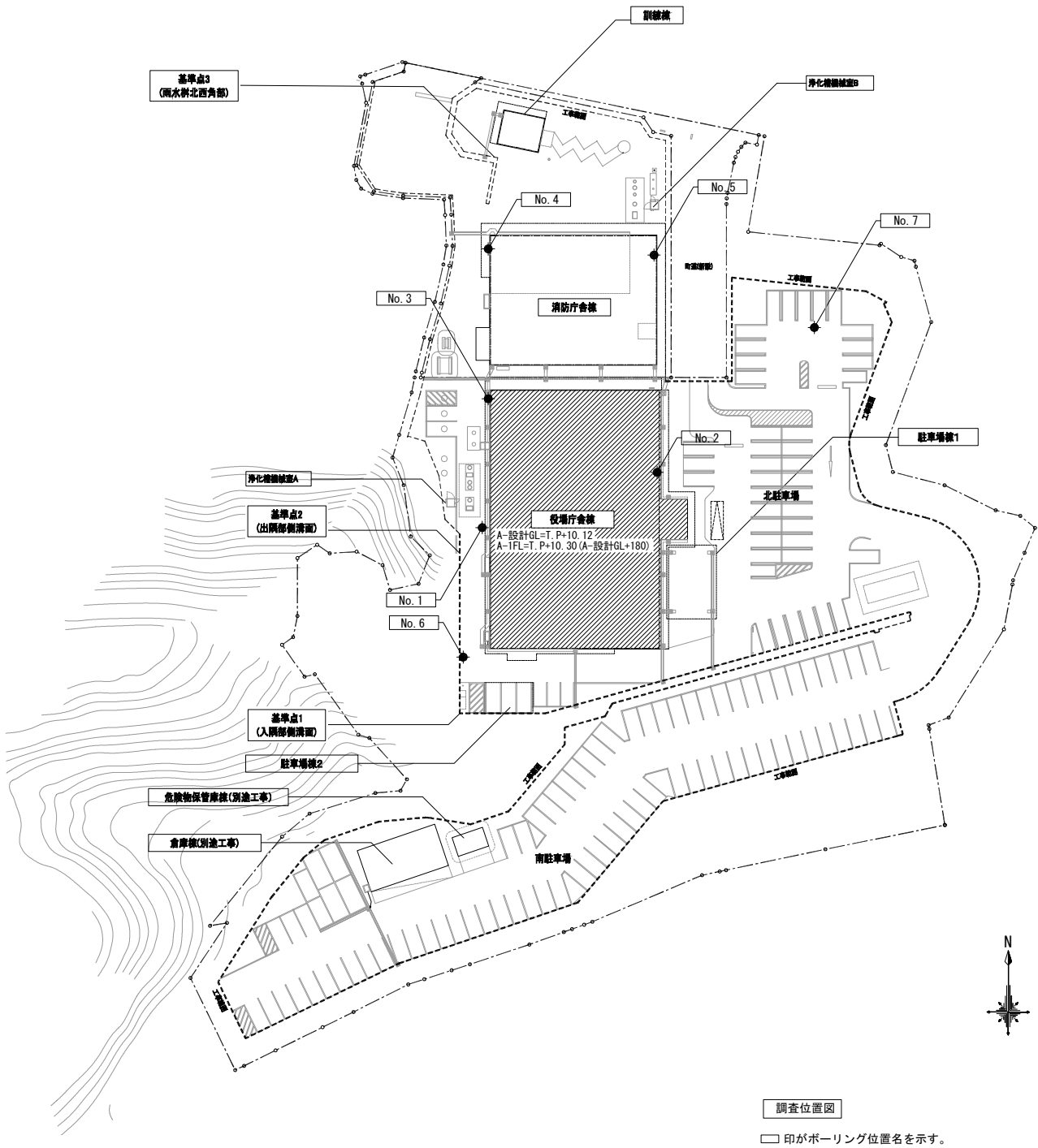
計 画	P C梁は、通常の梁に比べて負担重量が大きいため、変形、耐力等を十分に検討し計画すること。 1）P C梁の支保工取り外しは、監理者の承諾を得て行うが、プレストレスの導入が完了するまでは絶対に取り外さないこと。 2）多層の建築物では、原則として、必ず2層分の支保工を使用し、コンクリート打設荷重をプレストレス導入が完了している2梁で支持すること。（下図参考） 
-----	---

9. そ の 他

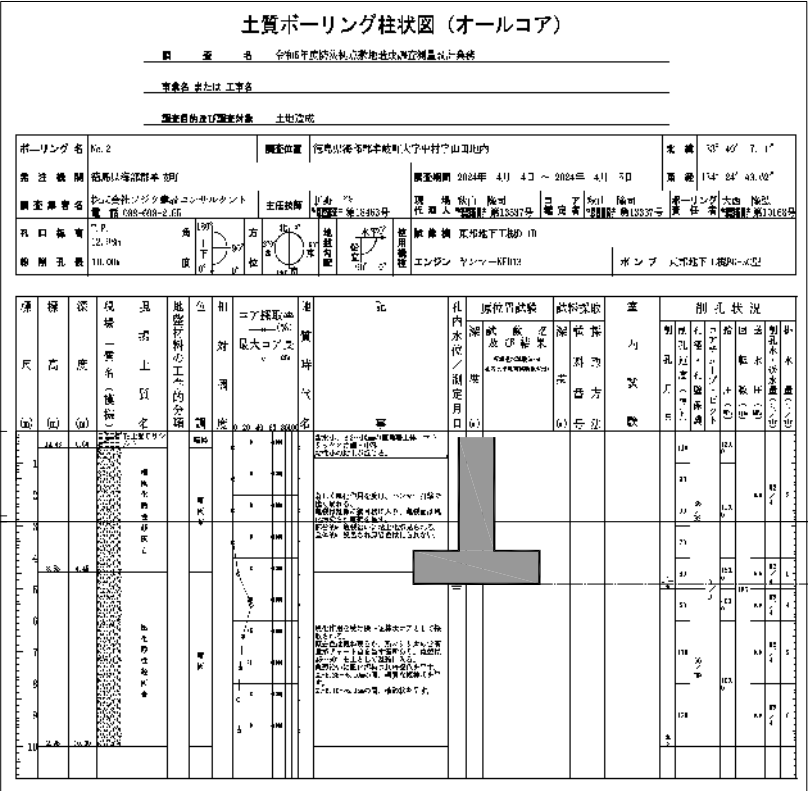
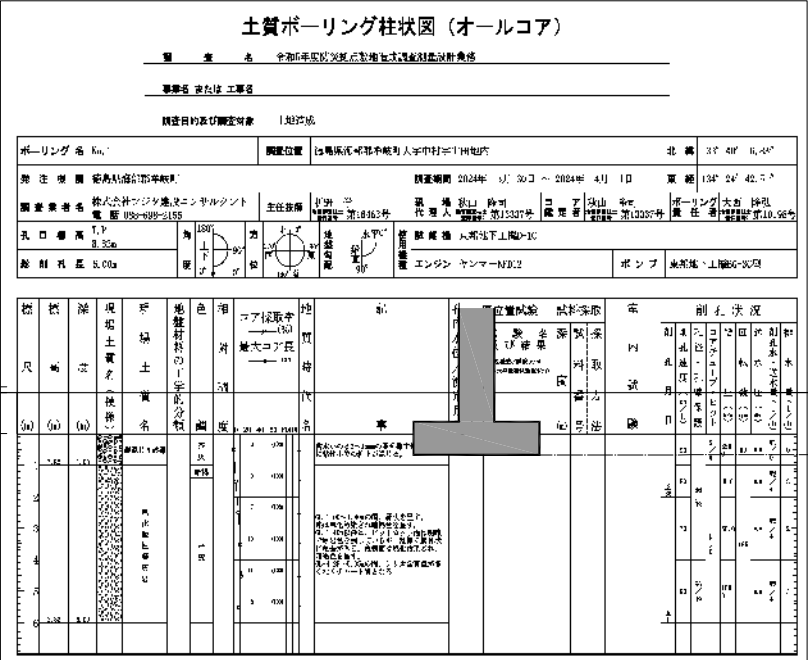
小 梁 配 筋	P C梁に直交する小梁について、下端筋がシースにあたる場合は、原則として下図のように配筋すること。 
スラブ 貫通孔	スラブ補強筋配置位置には、原則としてスラブ貫通孔を設けないこと。
P C梁 貫通孔	1）P C梁に貫通孔を設ける場合には、事前に監理者と協議の上、計画すること。なお、梁貫通孔位置では断面検討を行い、貫通孔補強筋を適宜配置すること。 2）貫通孔補強筋に既製品を使用する場合は、第三者機関による技術評価を取得したP C造に適用可能な補強工法を使用すること。 例）ダイヤレンP C工法（コーリョー建版株式会社）
定着端部の処理	P C鋼材定着具の穴埋めについて、工事範囲は下記の通りとする。 

竣工年月日	.. .	.. .	竣工場所	大阪府大阪市東淀川区	図にこころを	DATE	2025 . 3 . 14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造
監理者印			設計者印		株式会社 大建設計	PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE	プレストレストコンクリート工事 特記仕様書	DWG. NO
施工者印			監理者印		一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(シ)404号	SCALE	NS (A1) NS (A3)		S-115	

竣工年月日	・	・		株式会社 大建設 一般建築士事務所 大阪府知事登録 第(シ)404号			DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE 防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造	
監理者印	・	・					PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE 地盤アンカー工事特記仕様書	NS (A1) NS (A3)	DWG. NO S-118
施工者印	・	・									
	・	・									

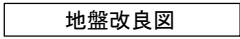


調査位置図
印がボーリング位置名を示す。



[illegible][illegible][illegible][illegible]

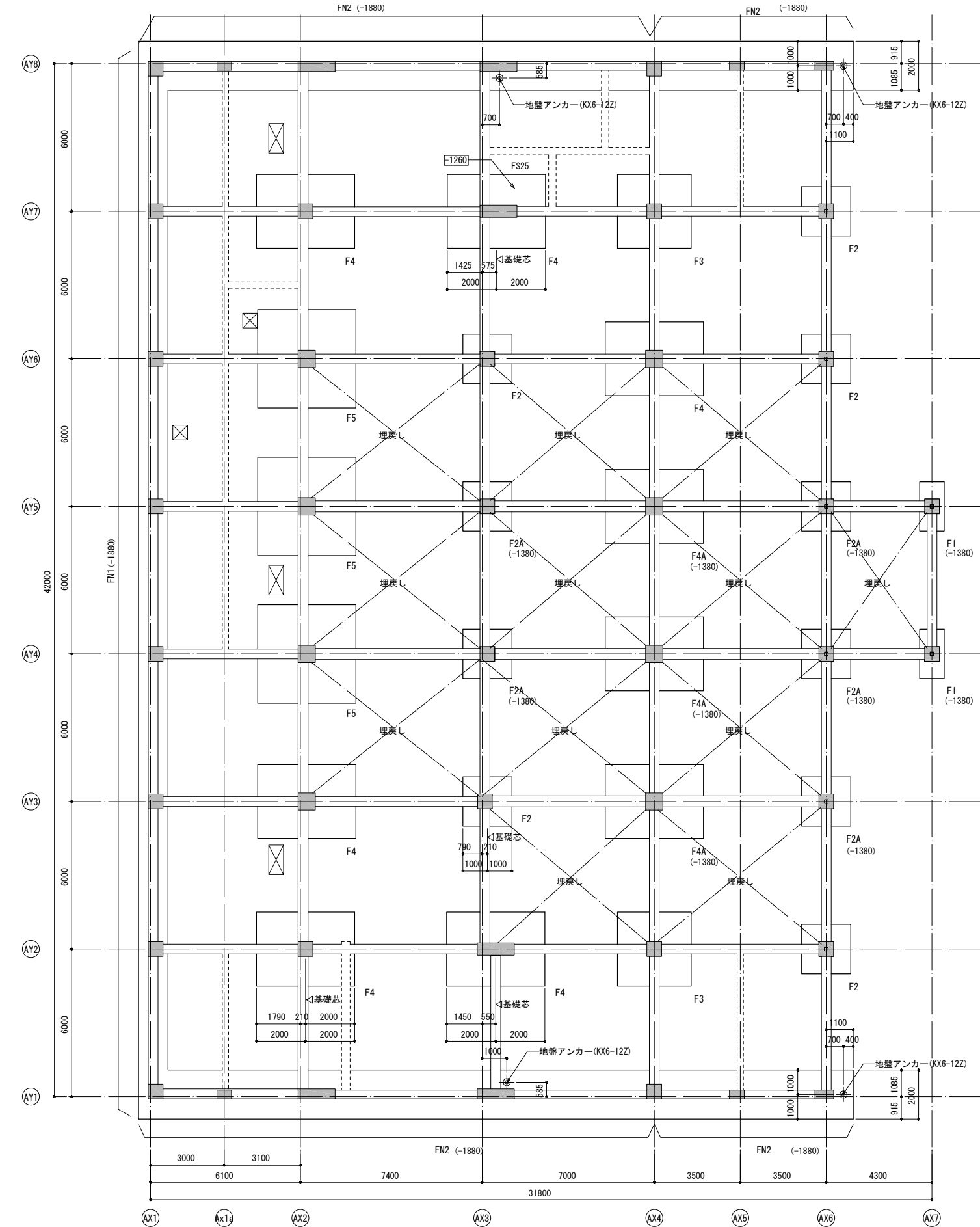
竣工年月日	..	..		 株式会社 大建設 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(シ)404号			DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造物	
監理者印	..	..										
	..	..										
施工者印	..	..						PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE	土質柱状図 (2) SCALE NS (A1) NS (A3)	DWG. NO



6. <印は柱状改良芯を示す。

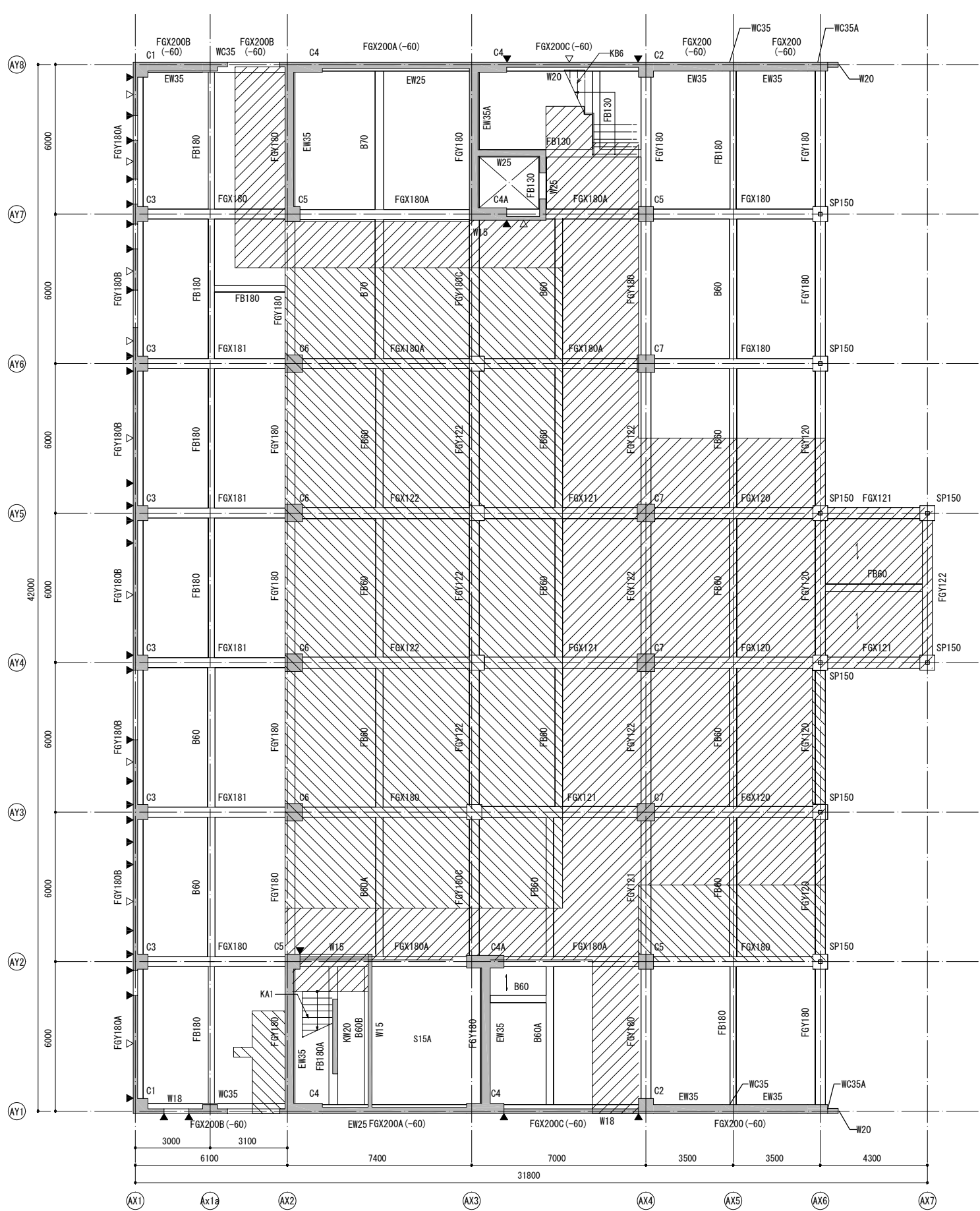
7. 柱状改良に関して、施工の際には試験施工を実施し、土質性状と電流値トルク値の相関関係を調査する。支持層の確認は全ての位置で行い、所定の掘削速度が保持できない、または貫入できない地点にて判断する。

竣工年月日	・	・	・	株式会社 大建設 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号	DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE 防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造	
監理者印	・	・	・		PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE 地盤改良図	1:100 (A1) SCALE 1:200 (A3)	DWG. NO S-121
施工者印	・	・	・						
	・	・	・						



基礎伏図

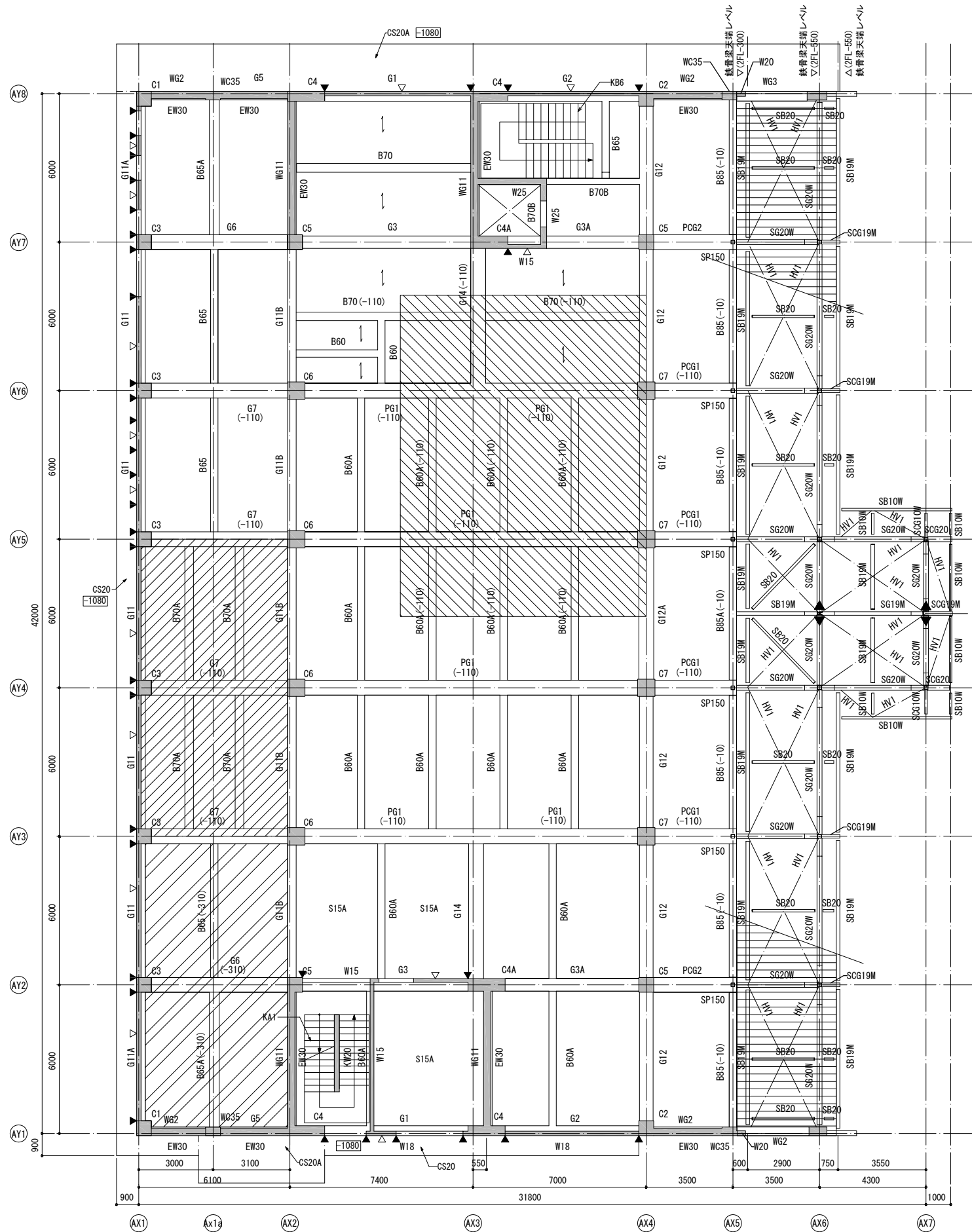
- 特記なき限り下記による。
- A-設計GL=A-1FL-180(T.P+10.120)とする。
 - 基礎下端レベルは、A-設計GL-1980とする。
()内数値は、A-設計GLからの基礎下端レベルを示す。
 - スラブ符号は、FS20とする。
底版天端レベルは、A-1FL-1780とする。
- 内数値はA-1FLからの底版天端レベルを示す。
- 印は、人通路を示す。(径は意匠図による)
 - 印は釜場を示す。
 - 水勾配は増打ちとする。



1階伏図

- 特記なき限り下記による。
- A-1FL=A-設計GL+180とする。
 - スラブ符号はS15とする。
 - スラブ天端レベルは、A-1FL-10とする。
範囲は、A-1FL-40とする。
範囲は、A-1FL-110とする。
内数値は、A-1FLからのスラブ天端レベルとする。
- 印はスラブの主筋方向を示し特記なき限り←方向とする。
- 梁天端レベルはA-1FL-260とする。
()内数値は、A-1FLからの梁天端レベルを示す。
スラブ天端には床仕上げまで増打ちを施す。
 - 壁符号はW18とする。
 - 印は鉛直スリットを▽印は水平スリットを示す。

竣工年月日	2025	3	14	株式会社 大建設 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号	技にこころを	DATE	2025	3	14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造
監理者印					PRJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE	基礎・1階伏図	DWG. NO	S-122		
施工者印								1:100 (A1) SCALE 1:200 (A3)				

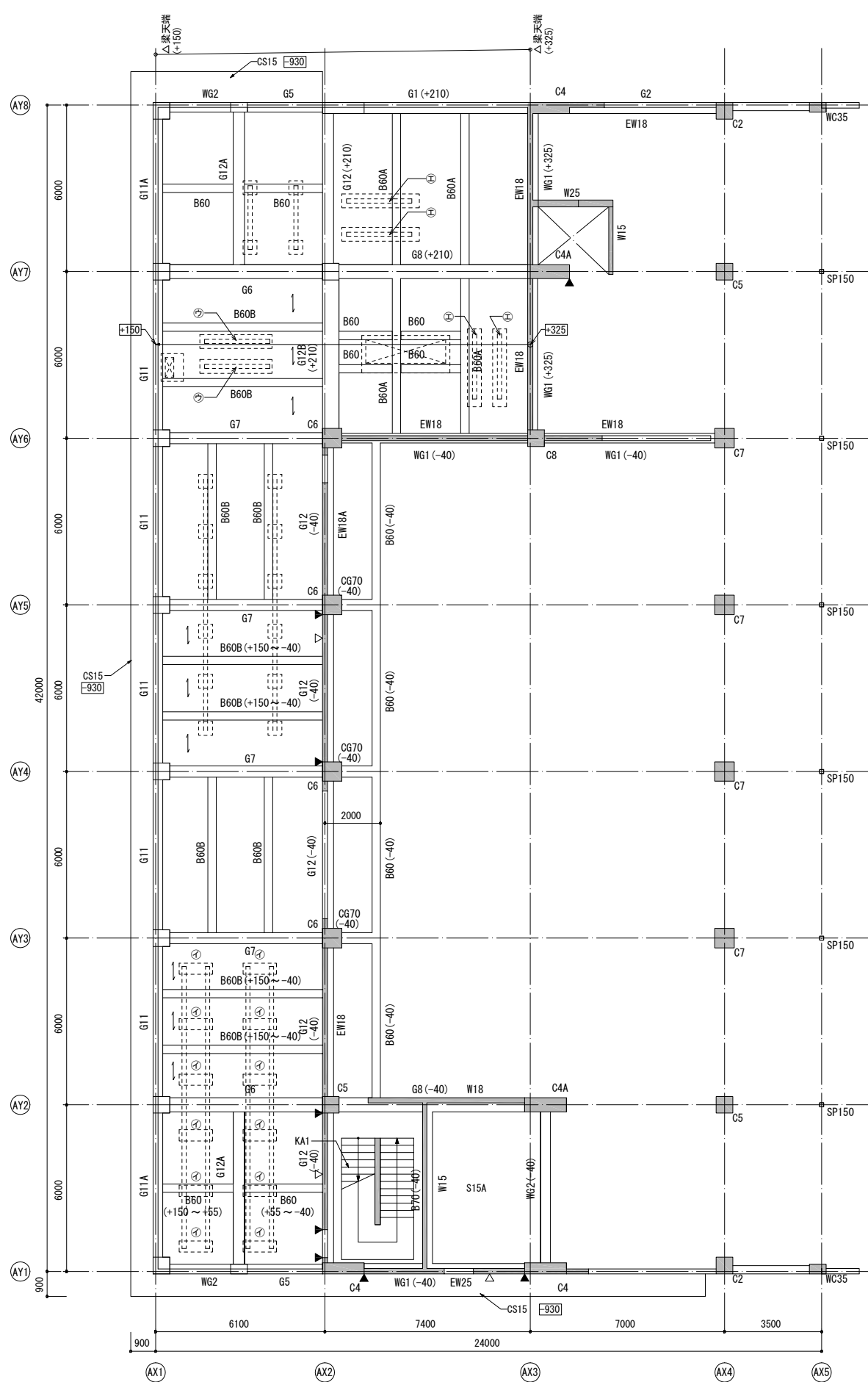


特記なき限り下記による。

1. スラブ符号はS15とする。
2. スラブ天端レベルは、A-2FL-10とする。
 範囲は、A-2FL-40とする。
 範囲は、A-2FL-110とする。
 範囲は、A-2FL-310とする。

3. 梁天端レベルはA-2FL-40とする。
 ()内数値は、A-2FLからの梁天端レベルを示す。
 ・梁天端にはスラブ天端レベルに至るまで増打ちを施す。
4. ← 印はスラブの主筋方向を示し特記なき限り←方向とする。
5. 壁符号はW18とする。

6. ▼印は鉛直スリットを▽印は水平スリットを示す。
7. 鉄骨造梁の天端レベル：軸組図参照
8. ◀▶印は剛接合を示す。



特記なき限り下記による。

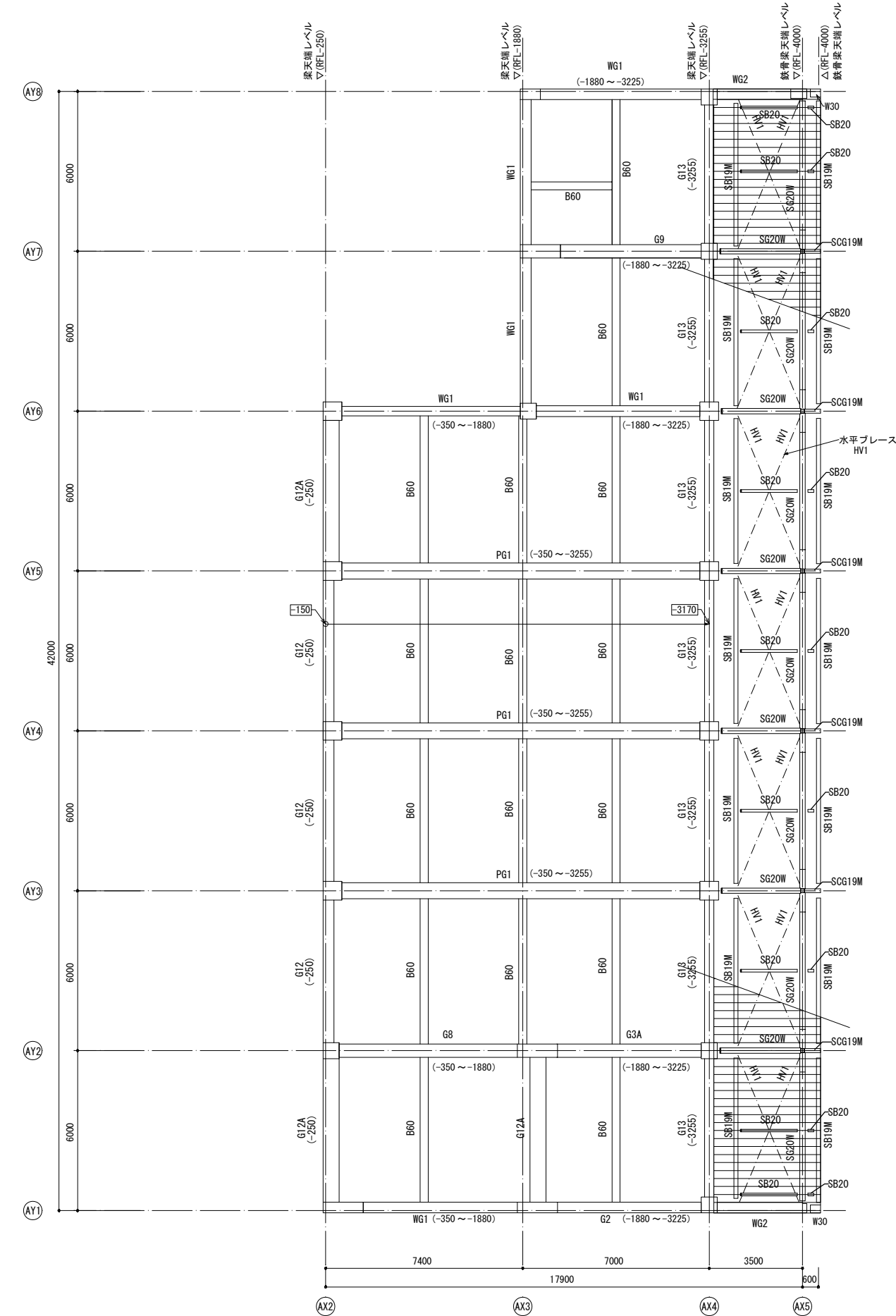
1. スラブ符号はS15とする。
2. スラブ天端レベルは、A-3FL-10とする。

±n

内数値は、A-3FLからのスラブ天端レベルとする。
3. ()内数値は、A-3FLからの梁天端レベルを示す。
梁天端にはスラブ天端レベルに至るまで増打ちを施す。

4. 壁符号はW18とする。
5. $\longleftrightarrow$ 印はスラブの主筋方向を示し特記なき限り $\longleftarrow$ 方向とする。
6. 設備基礎符号は㊦とする。

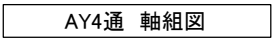
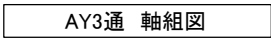
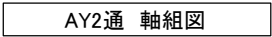
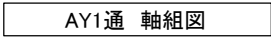
竣工年月日	..	..		 株式会社 大建設計 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号	我にこころを			DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE 防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造
監理者印	..	..			PROJ. NO.						
施工者印	..	..						PROJ. TITLE	0-2023-120	DWG. TITLE 2階・3階伏図 SCALE 1:200 (A3)	DWG. NO. S-123



R階伏図

- 特記なき限り下記による。
- スラブ符号はS15とする。
 - ±内数値は、A-RFLからのスラブ天端レベルとする。
梁天端にはスラブ天端レベルに至るまで増打ちを施す。
印はスラブの主筋方向を示し特記なき限り方向とする。
 - ()内数値は、A-RFLからの梁天端レベルを示す。
 - 鉄骨造梁の天端レベル：軸組図参照

竣工年月日	..	..		技にこころを	DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造
監理者印		..			PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE	R階伏図	DWG. NO
施工者印		..		一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号				1:100 (A1) SCALE 1:200 (A3)	S-124

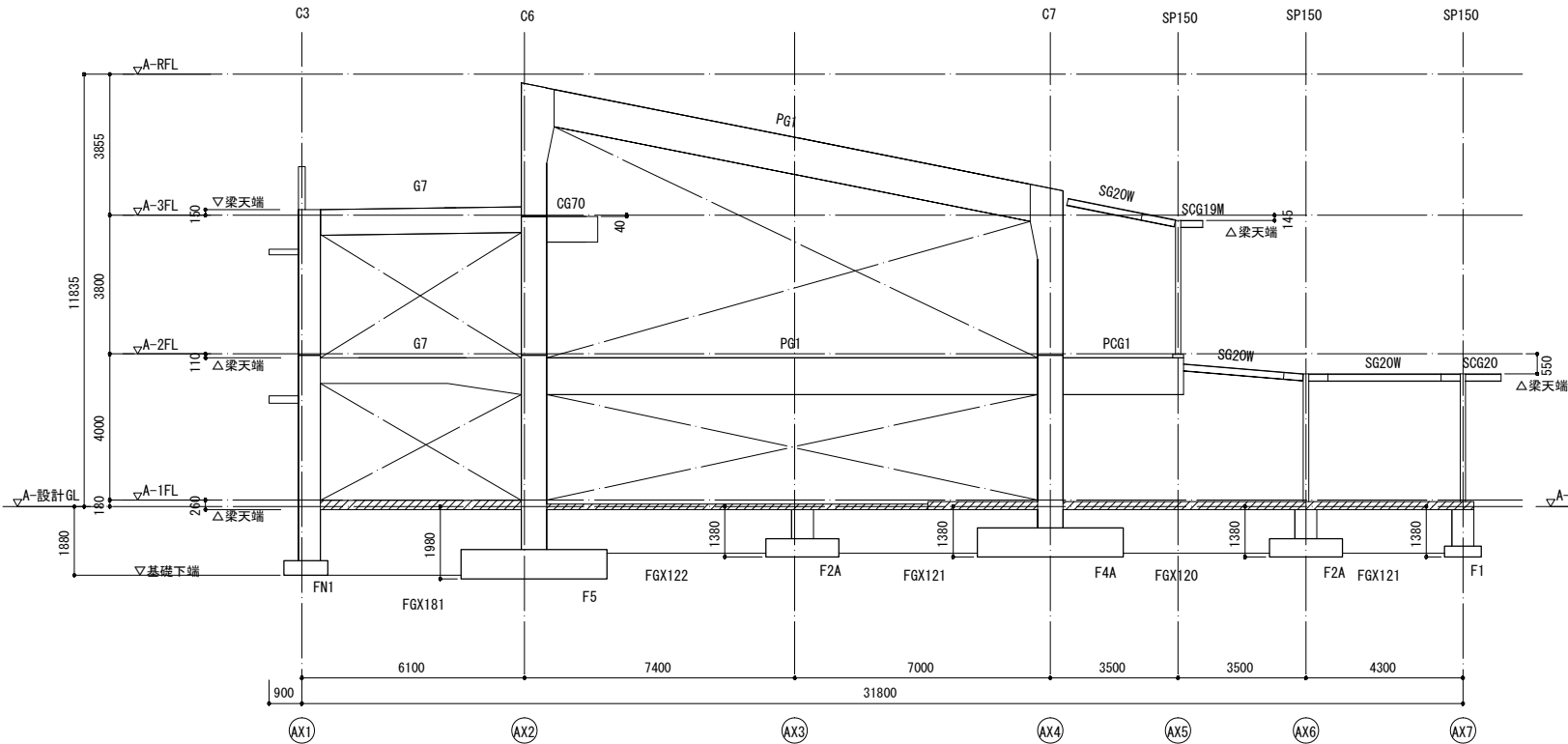


1. 印は、コンクリート増打を示す。

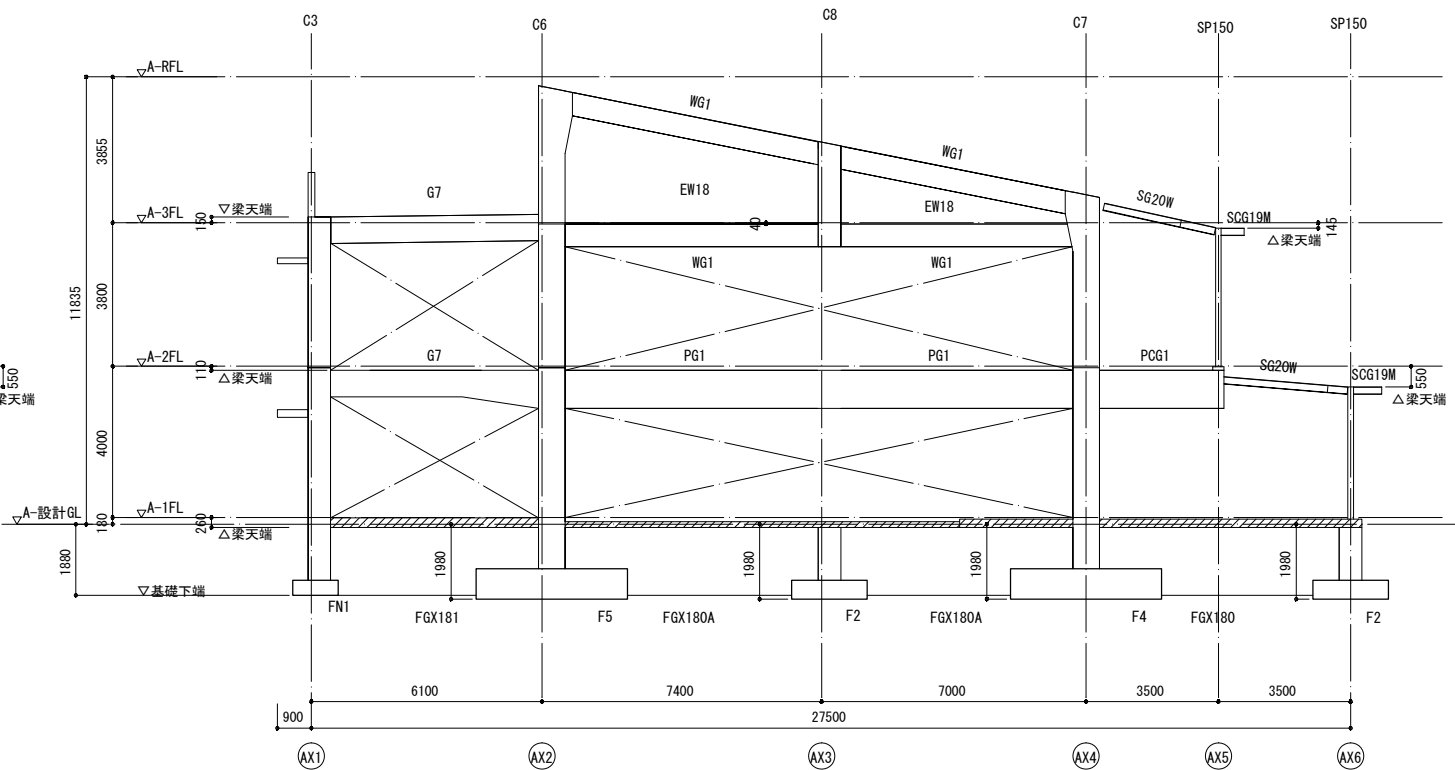
2. ▼印は鉛直スリットを、 印は水平スリットを示す。

3. 鉄骨大梁現場継手位置は柱芯から1000とする。

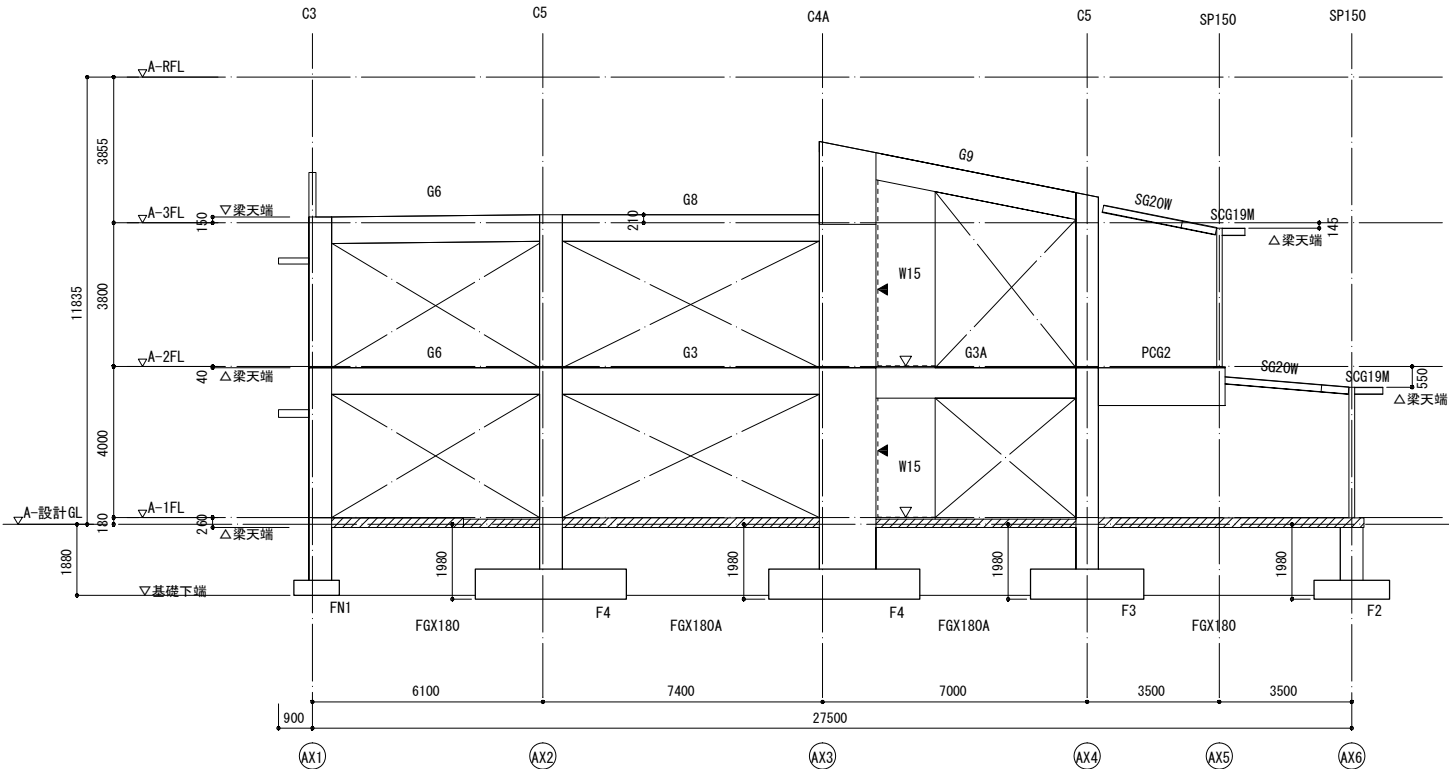
[illegible]



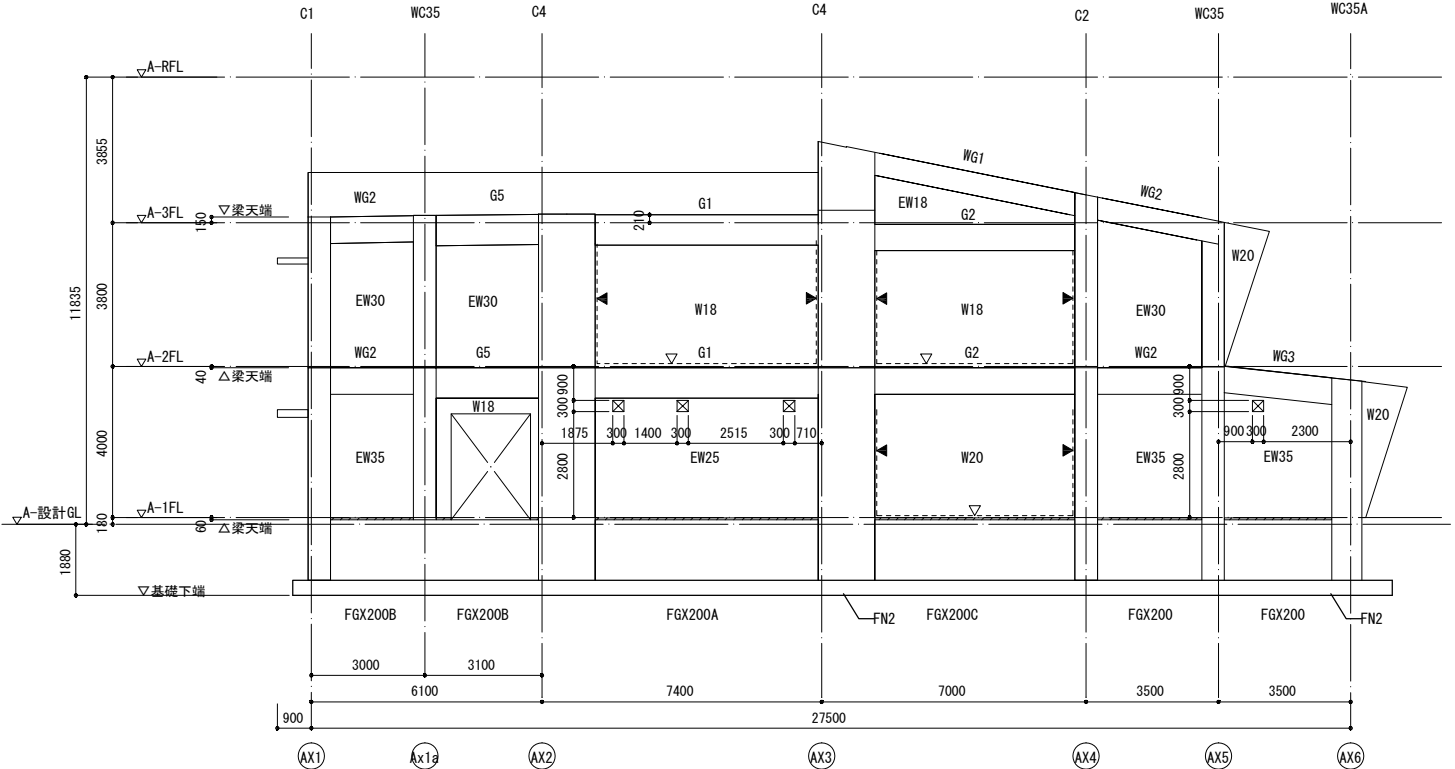
AY5通 軸組図



AY6通 軸組図



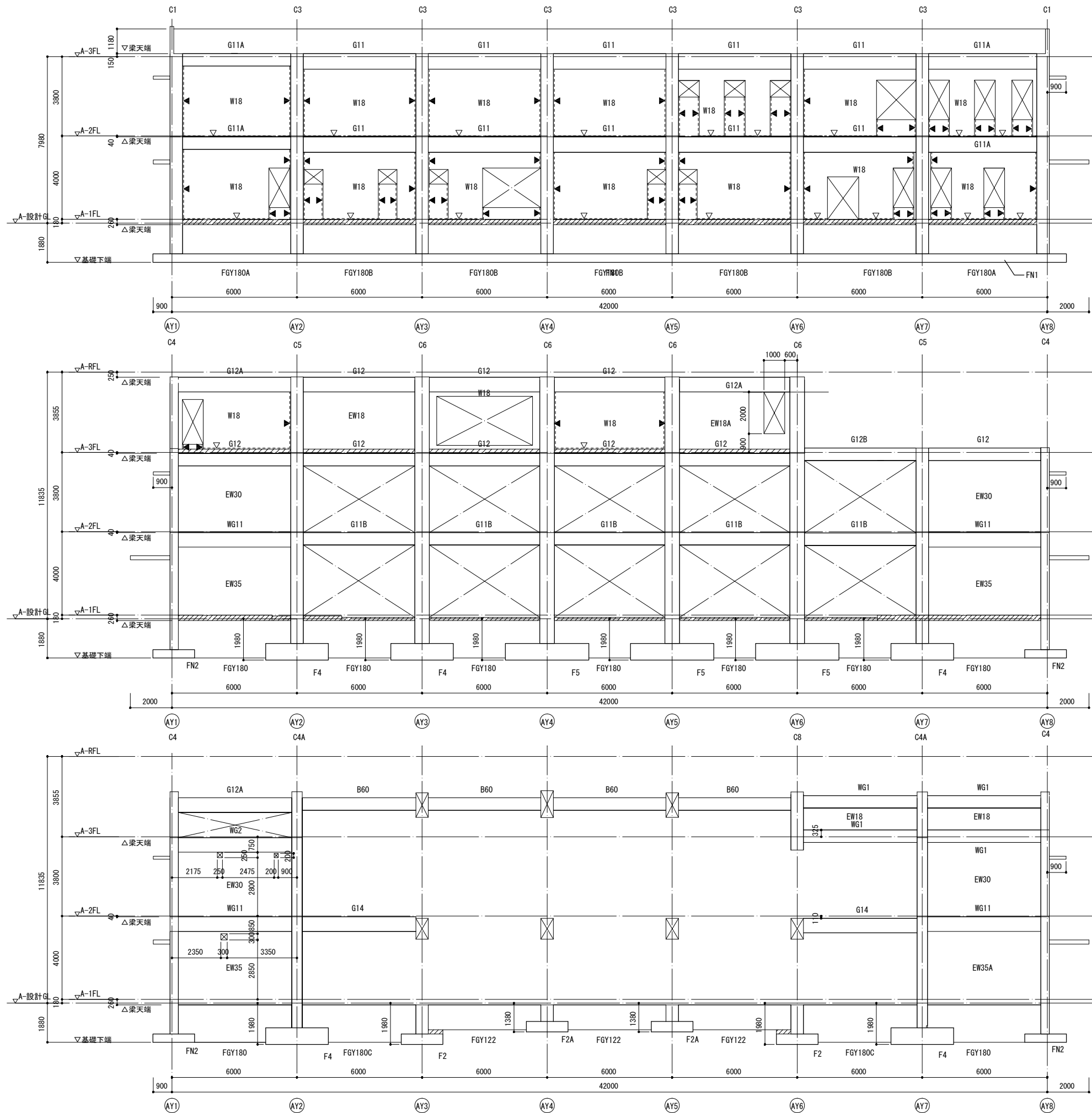
AY7通 軸組図



AY8通 軸組図

- 特記なき限り下記による。(各軸組図共通)
- ///印は、コンクリート増打を示す。
 - ▼印は鉛直スリットを、 印は水平スリットを示す。
 - 鉄骨大梁現場継手位置は柱芯から1000とする。

竣工年月日	..	..		株式会社 大建設 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号	技にこころを			DATE	2025	3	14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造	
監理者印								PROJ. NO	0-2023-120			DWG. TITLE	1:100 (A1) 軸組図 (2)	DWG. NO	S-126
施工者印													SCALE 1:200 (A3)		



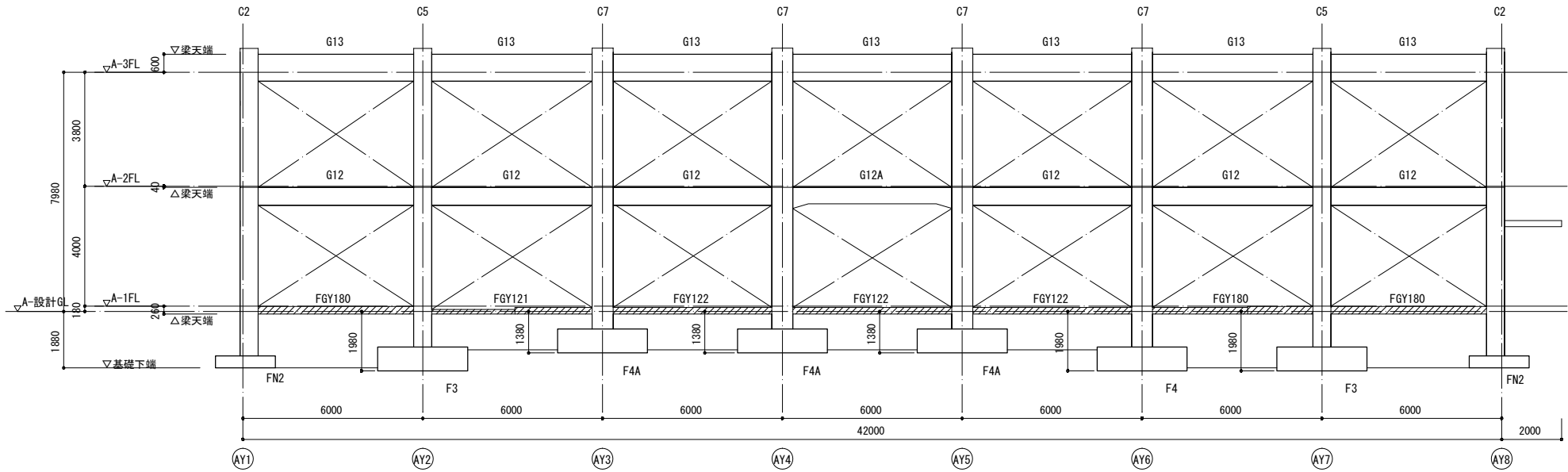
AX1通 軸組図

AX2通 軸組図

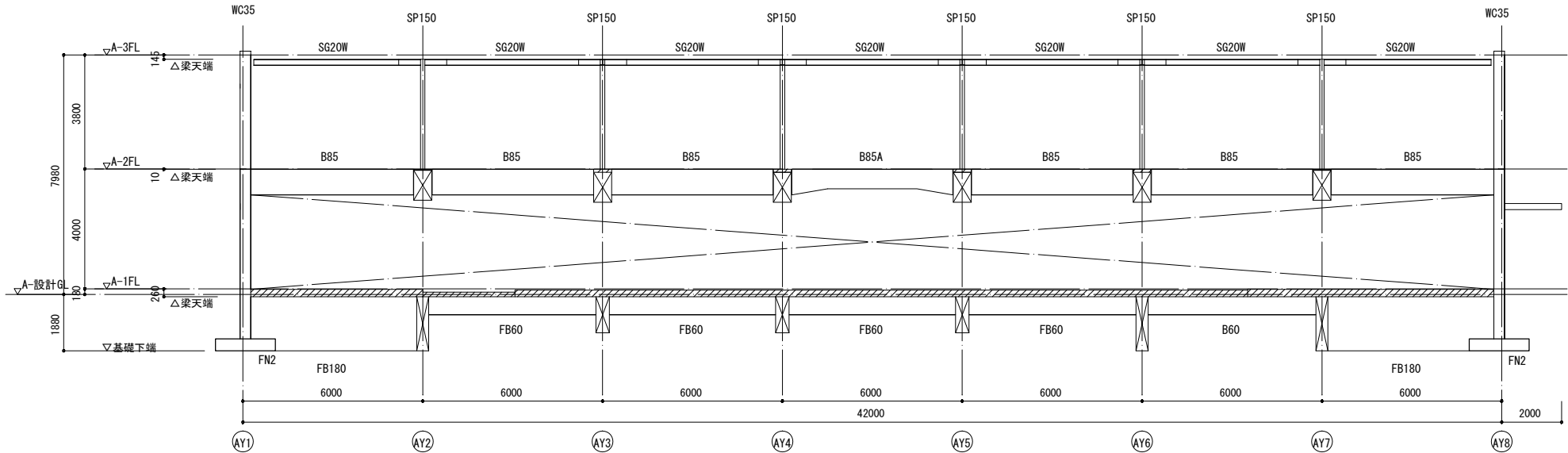
AX3通 軸組図

特記なき限り下記による。(各軸組図共通)
1. 印は、コンクリート増打を示す。
2. ▼印は鉛直スリットを、印は水平スリットを示す。
3. 鉄骨大梁現場継手位置は柱芯から1000とする。

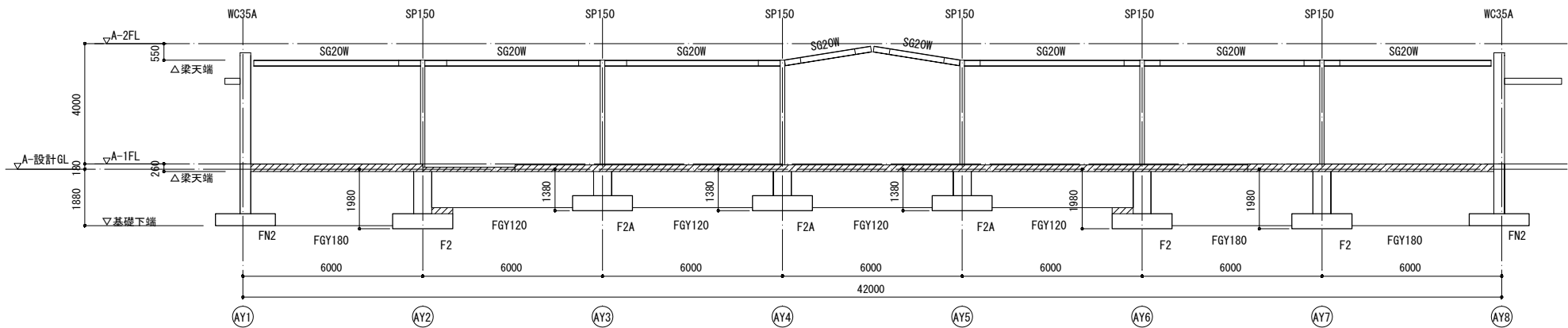
竣工年月日	..	..		株式会社 大建設 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号	技にこころを			DATE	2025	3	14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 車岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】	
監理者印														構造	
施工者印									PROJ. NO				DWG. TITLE		DWG. NO
									0-2023-120				軸組図 (3)	1:100 (A1) SCALE 1:200 (A3)	S-127



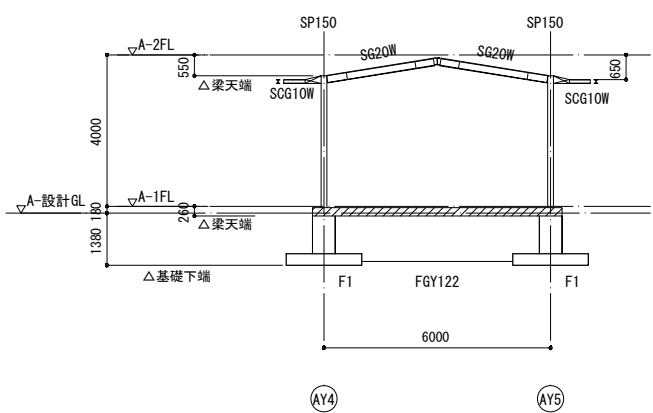
AX4通 軸組図



AX5通 軸組図



AX6通 軸組図



AX7通 軸組図

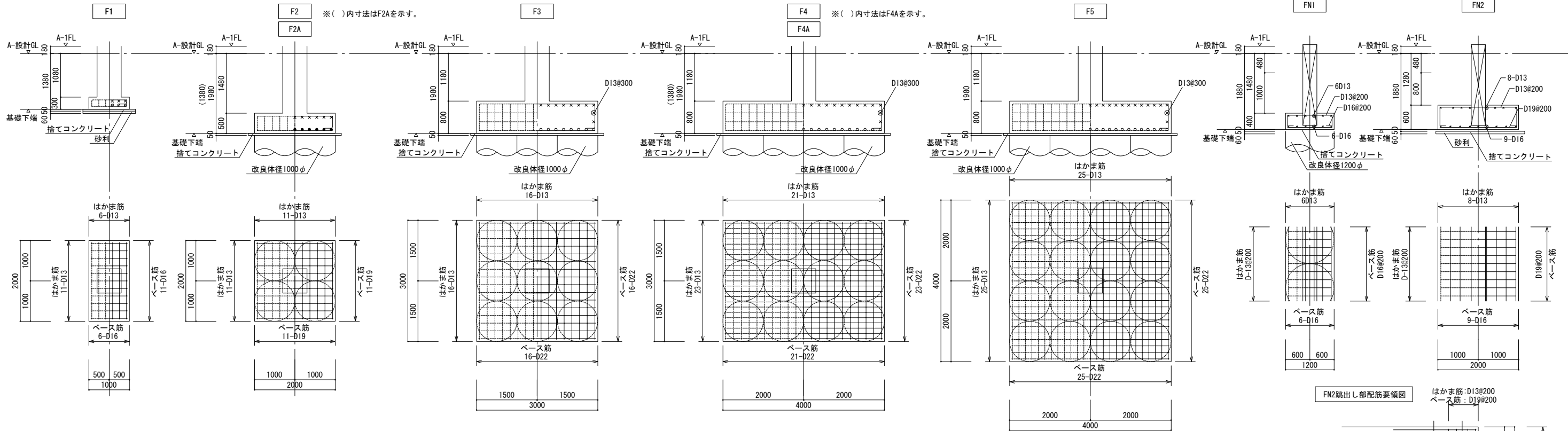
特記なき限り下記による。(各軸組図共通)
1. 印は、コンクリート増打を示す。
2. 印は鉛直スリットを、 印は水平スリットを示す。
3. 鉄骨大梁現場継手位置は柱芯から1000とする。

竣工年月日				株式会社 大建設 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号	技にこころを			DATE	2025	3	14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 車岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造		
監理者印									PROJ. NO				DWG. TITLE	1:100 (A1) 軸組図 (4)	DWG. NO	S-128
施工者印																

基礎リスト

1. 地盤改良を設けない場合は、地業は捨てコンクリートt50+砂利t60とする。

1. 地盤改良を設けない場合は、地業は捨てコンクリートt50+砂利t60とする。

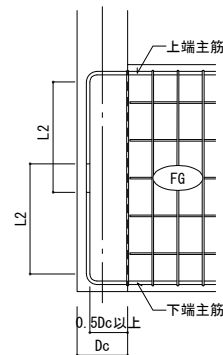
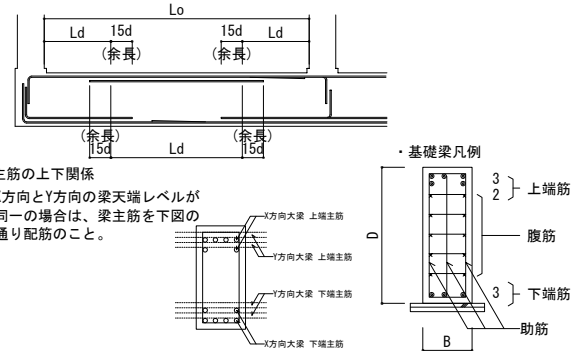


基礎梁リスト

1. 主筋の継手位置は、S-003 6. A (2) 「(B)独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合」とする。 2. 幅止め筋 D10@1000以内 3. 柱をまたいで引き通せない主筋の定着は機械式定着工法 (SABTEC評価) とする。 4. 筋 筋 K** : KH785

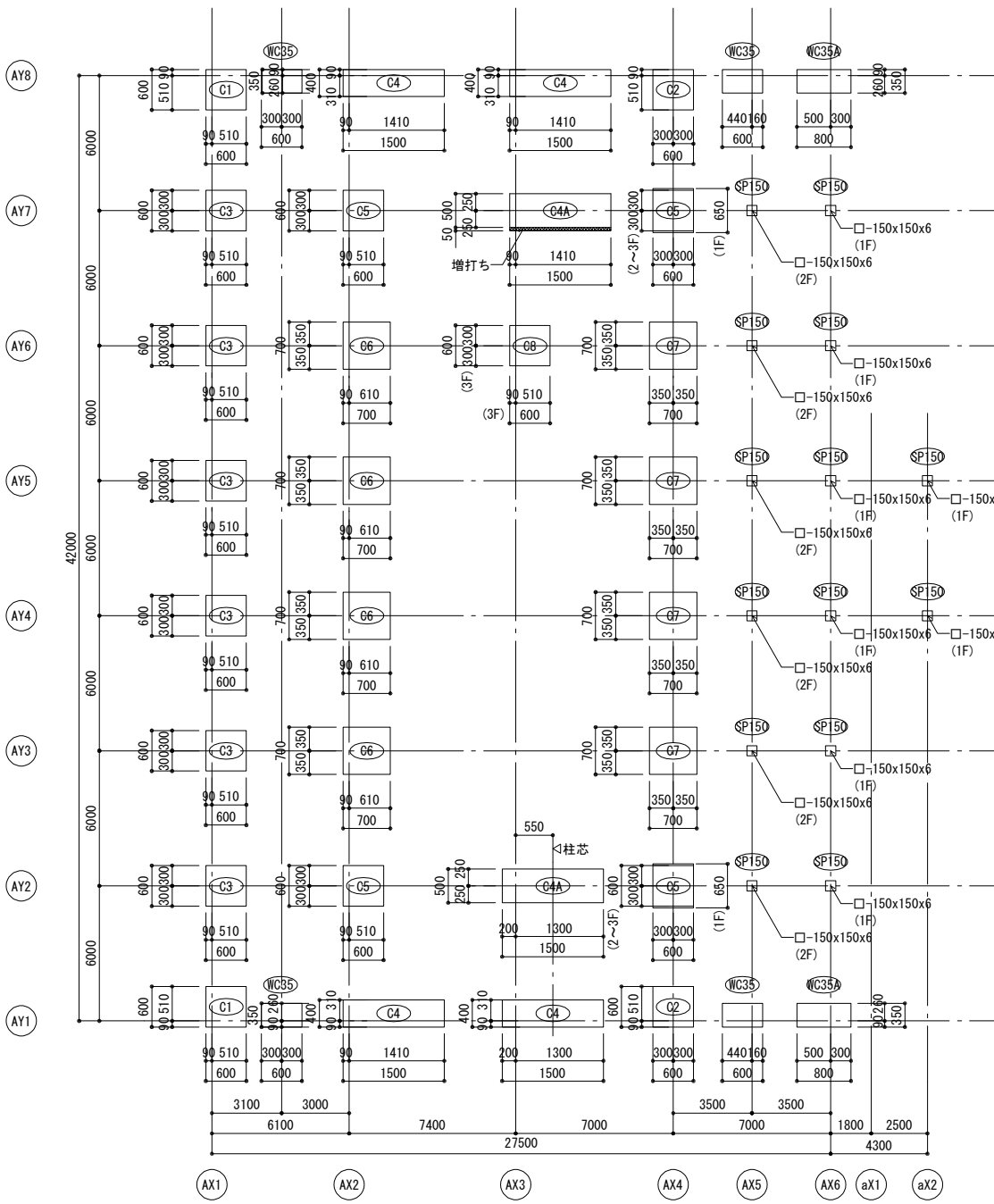
符 号	FGX120			FGX121	FGX122			FGX180		FGX180A	FGX181			FGX200		FGX200A	FGX200B	FGX200C
位 置	AX4端	中央	AX6端	全断面	AX2端	中央	AX3端	AX1・AX3・AX6端	他端・中央	全断面	AX1端	中央	AX2端	AX4端・中央	AX6端	全断面	全断面	全断面
▽A-1FL																		
断 面																		
BxD	450x1200			450x1200	450x1200			400x1800		400x1800	400x1800			350x2000		400x2000	400x2000	400x2000
上端筋	6-D25	6-D25	4-D25	6-D25	8-D25 (合計72400)	6-D25	6-D25	3-D25	6-D25	6-D25	3-D25	6-D25	6-D25	4-D25	2-D25	5-D25	4-D25	8-D25
下端筋	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	3-D25	4-D25	2-D25	6-D25	6-D25	6-D25
肋 筋	□-D13 @200			□-D13 @200	□-D13 @200			□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200			□-D13 @200		□-D13 @200	□-K16 @100	□-K16 @200
腹 筋	6-D13			6-D13	6-D13			10-D13		10-D13	10-D13			10-D13		10-D13	10-D13	10-D13
備 考																		

符 号	FGY120	FGY121		FGY122		FGY180	FGY180A		FGY180B		FGY180C
位 置	全断面	AY2端・中央	AY3端	両端	中央	全断面	AY1・AY8端	他端・中央	両端	中央	全断面
▽A-1FL 断 面											
BxD	400x1200	400x1200		400x1200		400x1800	400x1800		400x1800		400x1800
上端筋	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	5-D25 (カット材73000)	3-D25
下端筋	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25
肋 筋	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200
腹 筋	6-D13	6-D13		6-D13		10-D13	10-D13		10-D13		10-D13
備 考											



竣工年月日	・	・	・	 株式会社 大建設 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号	図にこころを			DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE 防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造
監理者印	・	・	・								
・	・	・	・								
施工者印	・	・	・						PROJ. NO 0-2023-120	PROJ. TITLE 基礎・基礎梁リスト SCALE 1: 50 (A1) 1: 100 (A3)	DWG. NO S-129

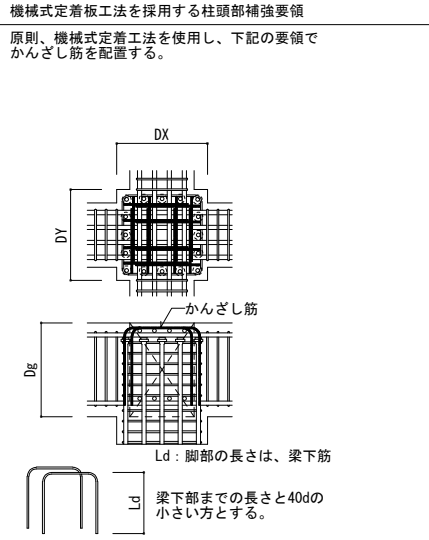
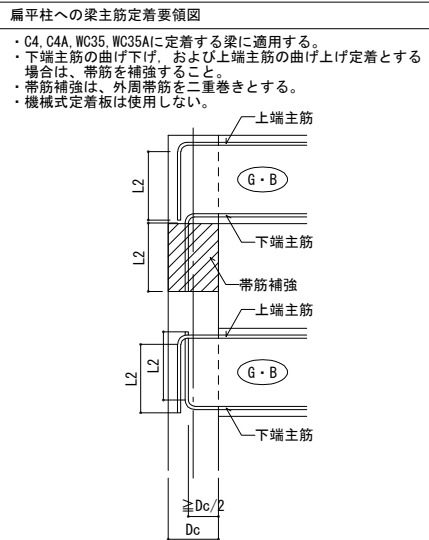
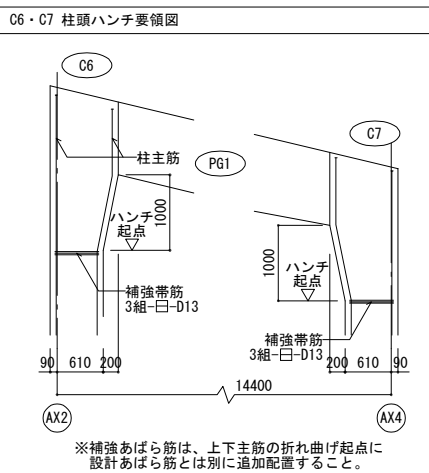
柱リスト		特記無き限り下記による					
		1. 外周帯筋は溶接閉鎖型とする。			2. 主筋の柱頭定着は機械式定着工法 (SABTEC評価) とする。		
階	符号	C1	C2	C3	C4	C4A	C5
3F	柱頭接合部				▮-D13 @100	▮-D13 @100	□-D10 @ 75
	断面						
	DXxDY				1500x400	1500x500	600x600
	主筋				20-D19	22-D19	12-D19
	帯筋				▮-D13 @100	▮-D13 @100	□-D10 @100
2F	柱頭接合部	□-D10 @ 75	□-D10 @ 75	□-D10 @ 75	▮-D13 @100	▮-D13 @100	□-D10 @ 75
	断面						
	DXxDY	600x600	600x600	600x600	1500x400	1500x500	600x600
	主筋	20-D19	20-D19	12-D19	20-D19	22-D19	12-D22
	帯筋	□-D10 @100	□-D10 @100	□-D10 @100	▮-D13 @100	▮-D13 @100	□-D10 @100
1F	柱頭接合部	□-D10 @ 75	□-D10 @ 75	□-D10 @ 75	▮-D13 @100	▮-D13 @100	□-D10 @ 75
	断面						
	DXxDY	600x600	600x600	600x600	1500x400	1500x500	600x650
	主筋	20-D22	20-D22	12-D22	20-D22	22-D22	20-D19
	帯筋	□-D10 @100	□-D10 @100	□-D10 @100	▮-D13 @100	▮-D13 @100	□-D10 @100
3F	柱頭接合部	□-D10 @ 75	□-D10 @ 75	□-D10 @ 75	▮-D13 @100	▮-D13 @100	□-D10 @ 75
	断面						
	DXxDY	700~900x700		600x600	600x350		
	主筋	20-D22		12-D19	14-D19		
	帯筋	□-D13 @100		□-D10 @100	□-D13 @100		
2F	柱頭接合部	□-D13 @100		□-D10 @100	□-D13 @100		
	断面						
	DXxDY	700x700	700~900x700		600x350		
	主筋	20-D22	20-D22		14-D19		
	帯筋	□-D13 @100	▮-D13 @100		□-D13 @100		
1F	柱頭接合部	□-D13 @100	□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100	
	断面						
	DXxDY	700x700	700x700		600x350	800x350	600x600
	主筋	20-D22	20-D22		14-D19	18-D22	20-D19
	帯筋	□-D13 @100	□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100	□-D10 @100
		柱頭接合部	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D10 @ 75
		備考					



特記無き限り下記による

1. ▲ 表示は柱の不動面を示す。

▲ 表示がない柱は、通り心と柱心が一致するものとする。



柱サイズ		かんざし筋組数	
DX	DY	X方向	Y方向
600	350	D13 - 3組	D13 - 3組
800	350	D13 - 3組	D13 - 3組
600	600	D13 - 4組	D13 - 4組
700	700	D16 - 4組	D16 - 4組
1500	400	D16 - 4組	D13 - 6組
1500	500	D19 - 4組	D13 - 8組

階	符 号	G1		G2		G3			G3A			G5	G6		G7			G8			G9		G11		G11A		G11B		G12		G12A			G12B			
	位 置	両端	中央	両端	中央	AX2端	中央	AX3端	AX3端	中央	AX4端	全断	AX1端	AX2端・中央	AX1端	中央	AX2端	AX2端	中央	AX3端	両端	中央	両端	中央	他端・中央	AY2, AY7端	両端	中央	両端	中央	-	中央	-	AY6端・中央	AY7端		
A-RFL	断 面																															AY1・AY6端			AY2, AY5端		
	BxD			400x700					500x700										500x700		500x700						400x700		600x700								
	上端筋			6-D25	6-D25				7-D25	7-D25	5-D25								5-D25	10-D25	10-D25	6-D22	4-D22					3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22					
	下端筋			3-D25	5-D25				5-D25	5-D25	5-D25								5-D25	5-D25	5-D25	4-D22	6-D22					3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22					
	肋 筋			□-D13 @100					□-D13 @200										□-D13 @150		□-D13 @200						□-D13 @200		□-D13 @200								
	腹 筋			2-D10					2-D10										2-D10		2-D10						2-D10		2-D10								
備 考								2-D10										2-D10		2-D10						2-D10		2-D10									
A-3FL	断 面																														AY1・AY8端			AY2, AY7端			
	BxD	400x800		400x700								350x800	500x700		400x700			500x700		500x700		350x750		350x750				400x600		400x600		550x600					
	上端筋	6-D25	6-D25	6-D25	3-D25				5-D25	5-D25	9-D25	5-D25	5-D25	9-D25	4-D25	3-D25	5-D25	9-D25	8-D25	8-D25			5-D22	5-D22	3-D22	5-D22			5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	7-D22			
	下端筋	3-D25	5-D25	3-D25	5-D25				5-D25	5-D25	5-D25	3-D25	5-D25	3-D25	5-D25	5-D25	3-D25	5-D25	5-D25	5-D25			3-D22	5-D22	3-D22	3-D22			3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	5-D22			
	肋 筋	□-D13 @100		□-D13 @100					□-D13@100			□-D13@100	□-D13 @150		□-D13 @200			□-D13 @150				□-D13 @200		□-D13 @200				□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200					
	腹 筋	2-D10		2-D10					2-D10			2-D10	2-D10		2-D10			2-D10				2-D10		2-D10				2-D10		2-D10		2-D10					
備 考								2-D10			2-D10		2-D10		2-D10			2-D10				2-D10		2-D10				2-D10		2-D10							
A-2FL	断 面																																				
	BxD	400x800		400x800		500x700			500x800			350x800	600x700		600x700					350x750		350x750		350x600		600x700		600x550		600x700							
	上端筋	6-D25	3-D25	5-D25	5-D25	6-D25	4-D25	6-D25	8-D25	8-D25	8-D25	5-D25	6-D25	8-D25	6-D25	6-D25	8-D25	9-D25	8-D25	8-D25			5-D22	5-D22	3-D22	5-D22	5-D25	3-D25	4-D22	4-D22	4-D22		4-D22				
	下端筋	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	5-D25	6-D25	6-D25			3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D25	3-D25	4-D22	4-D22	4-D22		4-D22				
	肋 筋	□-D13 @100		□-D13 @200		□-D13 @100			□-D13 @100			□-D13@100	□-D13 @200		□-D13 @100			□-D13 @150				□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200					
	腹 筋	2-D10		2-D10		2-D10			4-D16			2-D10	2-D10		4-D10			2-D10				2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10					
備 考								4-D16							ハンチ長：2000, カットオフLd=1800			2-D10		2-D10				2-D10		ハンチ長さ1200											

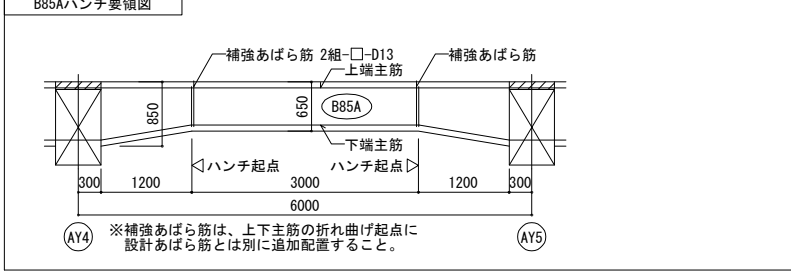
階	符 号	G13	G14		WG1	WG2	WG11				
A-RFL	位 置	全断	AY2・AY7端 ・中央		AY3→AY6端	全断	全断	全断			
	断 面										
	BxD	350x900							350x600	350x700	
	上端筋	3-D22							3-D22	2-D22	
	下端筋	3-D22							3-D22	2-D22	
	肋 筋	□-D13@200							□-D13@200	□-D13@200	
	腹 筋	4-D10							2-D10	2-D10	
	備 考										
A-3FL	断 面										
	BxD								350x600	350x700	
	上端筋								3-D22	2-D22	
	下端筋								3-D22	2-D22	
	肋 筋								□-D13@200	□-D13@200	
	腹 筋								2-D10	2-D10	
	備 考										
A-2FL	断 面										
	BxD	600x700			350x700	350x700					
	上端筋	11-D25	6-D25		2-D22	3-D22					
	下端筋	6-D25	6-D25		2-D22	3-D22					
	肋 筋	□□-D13 @200			□-D13@200	□-D13@200					
	腹 筋	4-D10			2-D10	2-D10					
	備 考										

小梁リスト

特記無き限り下記による
1. 巾止筋はD10@1000以下とする。

符 号	B60	B60A		B60B		B65		B65A		B70		B70A		B70B	C670
位 置	全断	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	AY4端	他端・中央	全断	全断
断 面															
BxD	300x600	300x600		300x600		300x650		400x650		350x700		350x700		250x700	400x700
上端筋	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D19	3-D19	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22	4-D22
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19	5-D19	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22
肋 筋	□-D10 @200	□-D10 @200		□-D10 @200		□-D10 @150		□-D10 @150		□-D10 @150		□-D10 @150		□-D10 @200	□-D13 @200
腹 筋	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	2-D10
備 考															

符 号	B85	B85A	
位 置	全断	両端	中央
断 面			
BxD	300x850	300x850	300x650
上端筋	3-D22	3-D22	
下端筋	3-D22	3-D22	
肋 筋	□-D10 @200	□-D10 @200	
腹 筋	2-D10	2-D10	
備 考		ハンチ長さ1200	



スラブリスト

符 号	厚 さ	位 置	主筋方向		配筋筋方向		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
S15	150	上端筋	D10D13@200	← 同 左	D10@200	← 同 左	
		下端筋	D10@200	← 同 左	D10@200	← 同 左	
S15A	150	上端筋	D13@200	← 同 左	D13@200	← 同 左	
		下端筋	D13@200	← 同 左	D13@200	← 同 左	
CS15	150	上端筋	D10D13@200	← 同 左	D10@200	← 同 左	
		下端筋	D10@200	← 同 左	D10@200	← 同 左	
CS20	180～200	上端筋	D10D13@200	← 同 左	D10@200	← 同 左	
		下端筋	D10@200	← 同 左	D10@200	← 同 左	
CS20A	180～200	上端筋	D13@100	← 同 左	D13@100	← 同 左	
		下端筋	D13@100	← 同 左	D13@100	← 同 左	
FS20	200	上端筋	D13@200	← 同 左	D13@200	← 同 左	
		下端筋	D13@200	← 同 左	D13@200	← 同 左	
FS25	250	上端筋	D13@200	← 同 左	D13@200	← 同 左	
		下端筋	D13@200	← 同 左	D13@200	← 同 左	

鉄骨造部材リスト

特記無き限り下記による
1. 高力ボルト種別は、F10T (S10T) 相当とする。
2. 継手仕様は、S-114小梁 継手 (F2) による。

符 号	断 面	備 考
SB20	H -200x100x5. 5x8	SS400
SB30	H -300x150x6. 5x9	SS400
SB19M	H -194x150x6x9	SS400
SB10W	H -100x100x6x8	SS400
SCG10W	H -100x100x6x8	SN400B 基礎：BH-200x100x6x9
SG19M・SCG19M	H -194x150x6x9	SN400B
SCG20	BH-100～200×150×6×9	SN400B
SP150	□-150x150x6	STKR400
母屋	C-100x50x20x2. 3 @ 606	SSC400 G. PL-6, 2-M12 (普通ボルト)

鉄骨大梁断面リスト

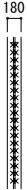
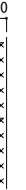
特記無き限り下記による
1. 鋼材種別は、SN400Bとする。
2. 継手仕様は、S-113 継手基準図 (I) による。

階	SG20W		位置	部 材
	位 置	部 材		
R2FL	中央	H -200x200x8x12	中央	
	端 部		端 部	
2FL	中央	H -200x200x8x12	中央	
	端 部		端 部	

壁リスト

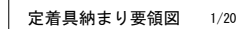
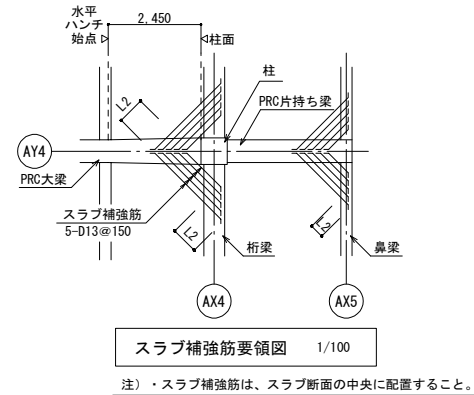
特記無き限り下記による
1. 巾止筋はD10@1000以下とする。

符 号	W15	W18	W20	W25				
断 面								
縦 筋	D10-@200ﾀﾞﾘ	D13-@200ﾀﾞﾞﾙ	D13-@150ﾀﾞﾞﾙ	D16-@200ﾀﾞﾞﾙ				
横 筋	D10-@200ﾀﾞﾘ	D13-@200ﾀﾞﾞﾙ	D13-@150ﾀﾞﾞﾙ	D13-@200ﾀﾞﾞﾙ				
開口補強筋	縦 2-D13	2-D13	2-D13	2-D13				
	横 2-D13	2-D13	2-D13	2-D13				
	斜 1-D13	1-D13	1-D13	1-D16				
備 考								

符 号	EW18	EW18A	EW25	EW30	EW35	EW35A	
断 面							
	縦 筋	D13-@200ﾀﾞﾞﾙ	D13-@200ﾀﾞﾞﾙ	D16-@200ﾀﾞﾞﾙ	D16-@200ﾀﾞﾞﾙ	D16-@200ﾀﾞﾞﾙ	D16-@200ﾀﾞﾞﾙ
	横 筋	D13-@200ﾀﾞﾞﾙ	D13-@200ﾀﾞﾞﾙ	D16-@100ﾀﾞﾞﾙ	D16-@200ﾀﾞﾞﾙ	D16-@150ﾀﾞﾞﾙ	D16-@125ﾀﾞﾞﾙ
	開 口 補強筋	縦	2-D13	4-D16	2-D13	2-D16	2-D16
		横	2-D13	4-D13	4-D16	2-D13	2-D16
斜	1-D16	2-D16	2-D16	1-D16	2-D16	2-D16	
備 考							

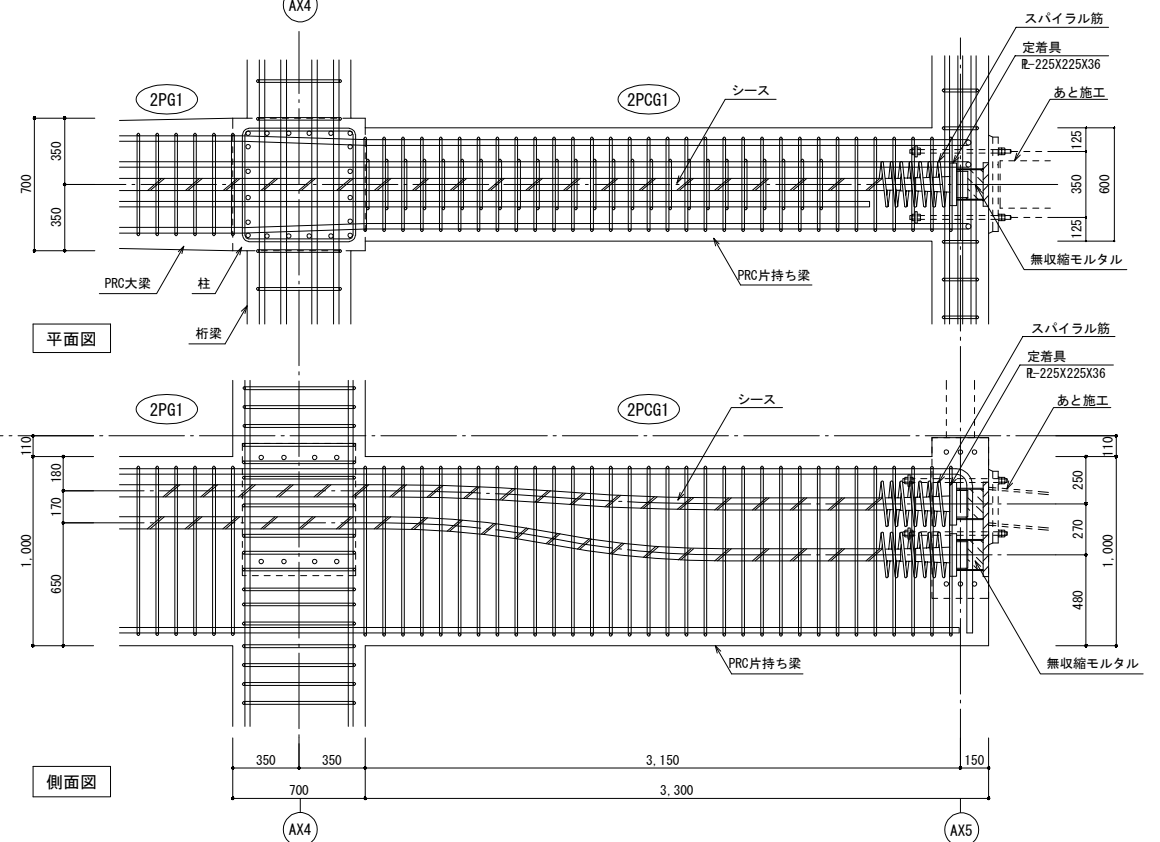
ブレースリスト

符 号 / 部材	HV1	L- 65×65×6	SS400	1:10
姿 図				
ガセットプレート	PL - 9		SS400	溶接長ℓ ≥ 110 , 溶接サイズ S=8
ウェブ継手				H.T.B 3 - M16 (S10T)

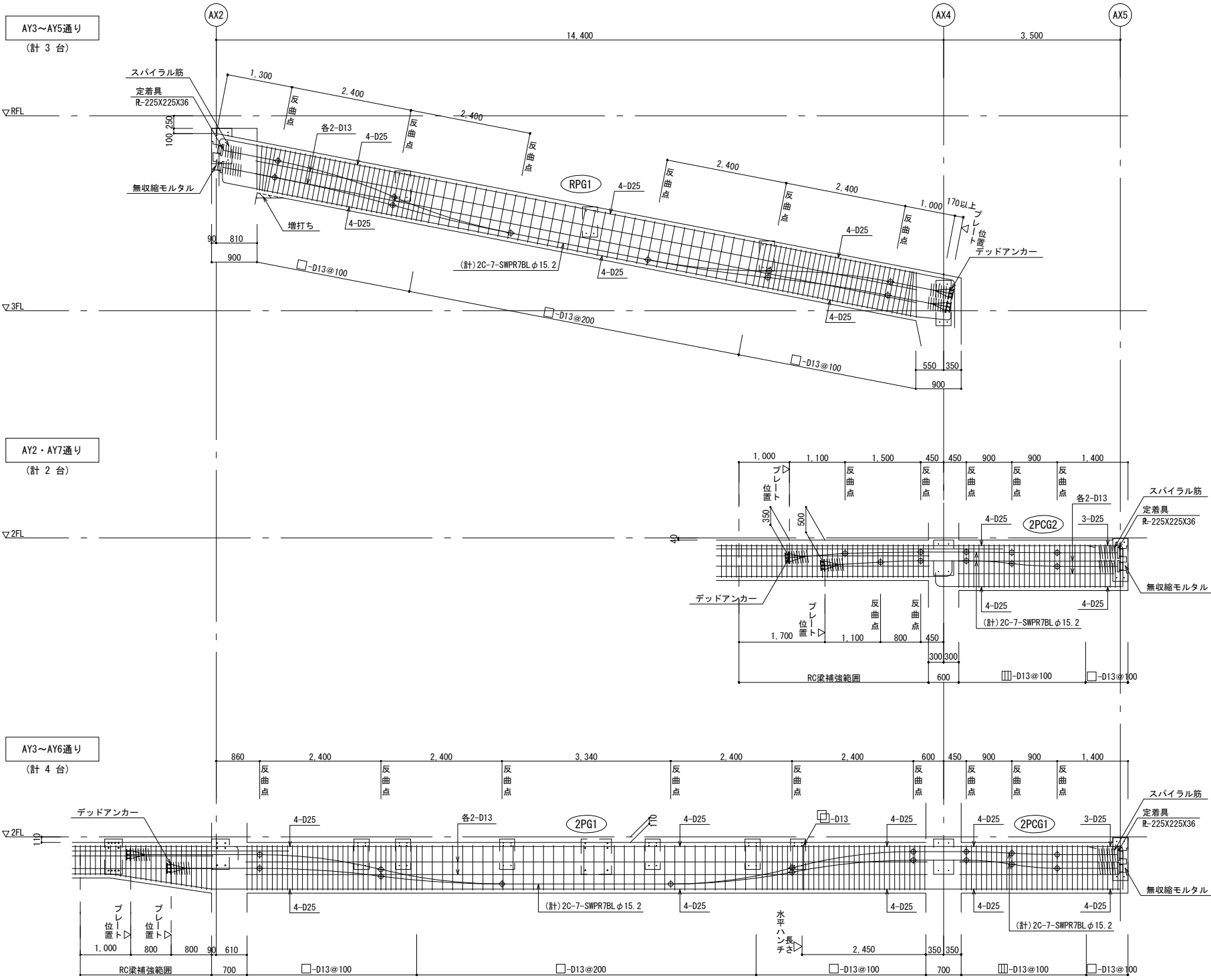


注)・配筋は、各リスト参照のこと。

・柱主筋、鉄骨部材のアンカーボルトは、定着具及びシースの位置を避けて配筋すること。



竣工年月日	..	..		控にここに 株式会社 大建設計 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号			DATE	2025	3	14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造
監理者印	..	..											
	..	..											
施工者印	..	..						PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE	PRC梁間連図 (1)	1: 50 (A1) SCALE 1: 100 (A3)	DWG. NO

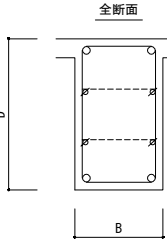


PRC梁配線配筋図 1/50

PRC梁断面リスト 1/40 注) ・巾止め筋は、RC梁に準ずる。
・PC鋼材の水平方向位置は納まりを考慮し変更可能とする。その場合は、監理者の承認の上変更を行うこと。

符 号	PG1			
位 置	AX2 端	中 央	AX4 端	
R 階				
PC鋼材	20-7-SWPR7BL15.2 φ			
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	
スターラップ	□-D13@100	□-D13@200	□-D13@100	
腹 筋	4-D13			
2 階				
PC鋼材	20-7-SWPR7BL15.2 φ			
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	
スターラップ	□-D13@100	□-D13@200	□-D13@100	
腹 筋	4-D13			

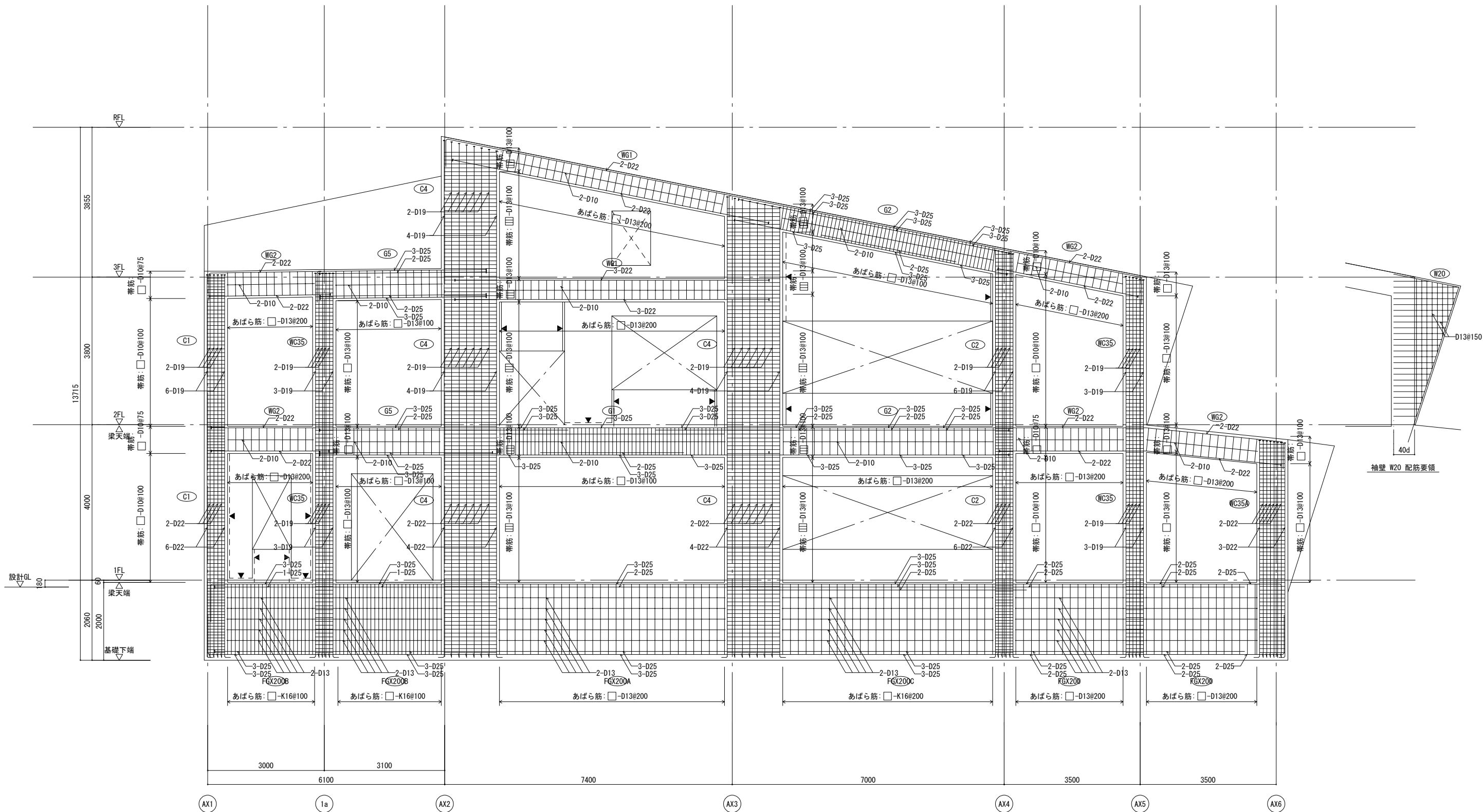
符 号	PCG1		PCG2	
位 置	基 端	先 端	基 端	先 端
2 階				
PC鋼材	20-7-SWPR7BL15.2 φ		20-7-SWPR7BL15.2 φ	
上端筋	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
腹 筋	4-D13		4-D13	



上端筋:大梁断面リストによる
腹筋(補強):4-D16
下端筋:大梁断面リストによる
あばら筋: □-D13@100 (Pw同等以上でもよい)

デッドアンカー定着RC梁補強要領図

注) ・デッドアンカーが定着される
RC大梁は、上記のように補強すること。

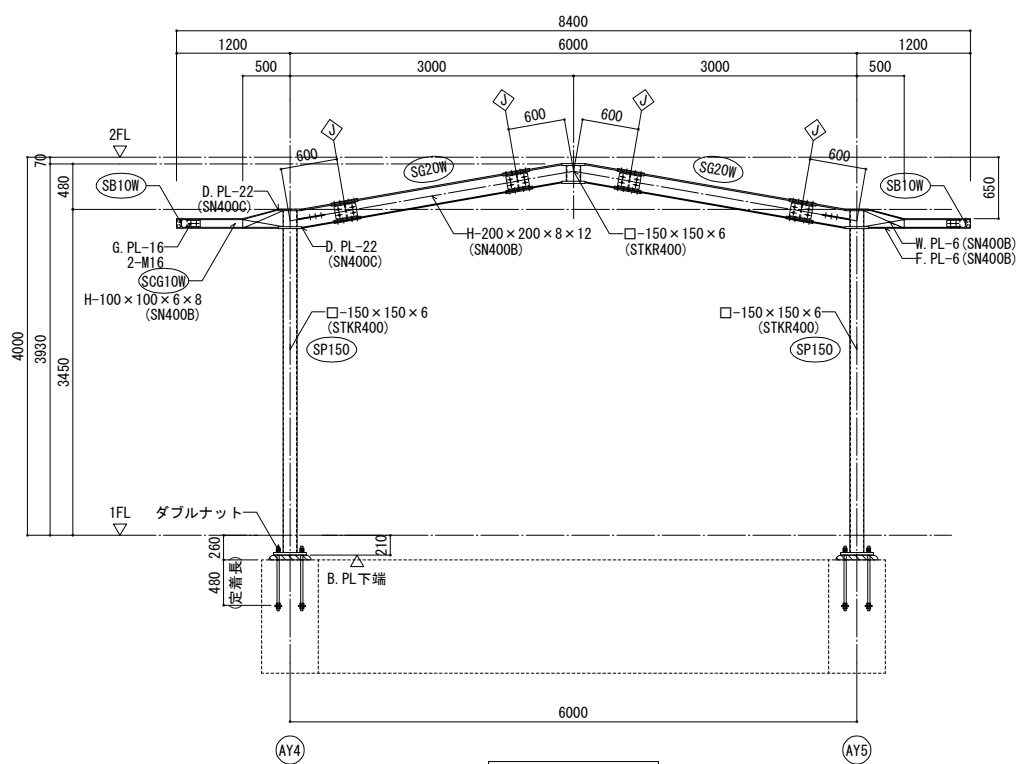
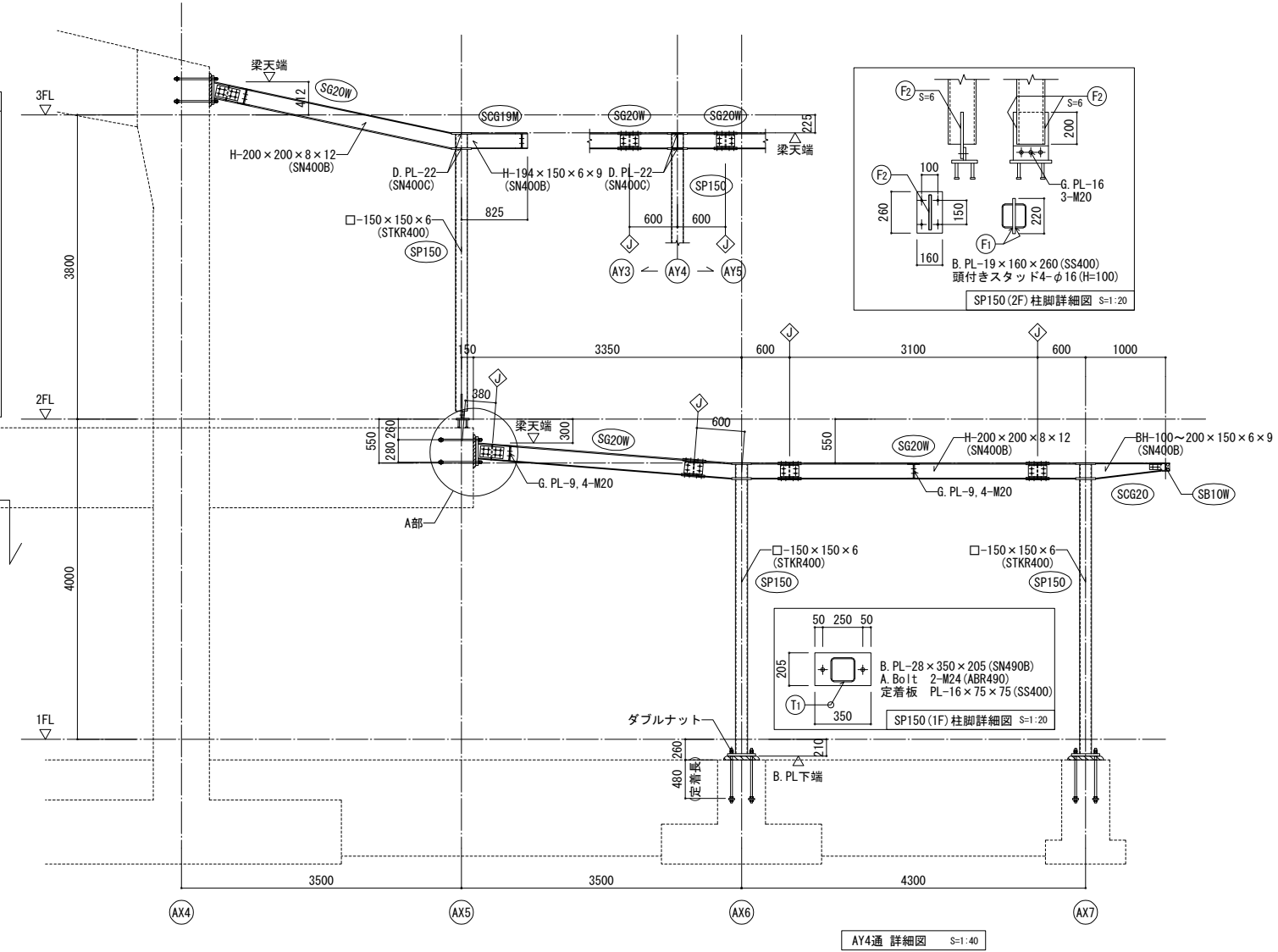
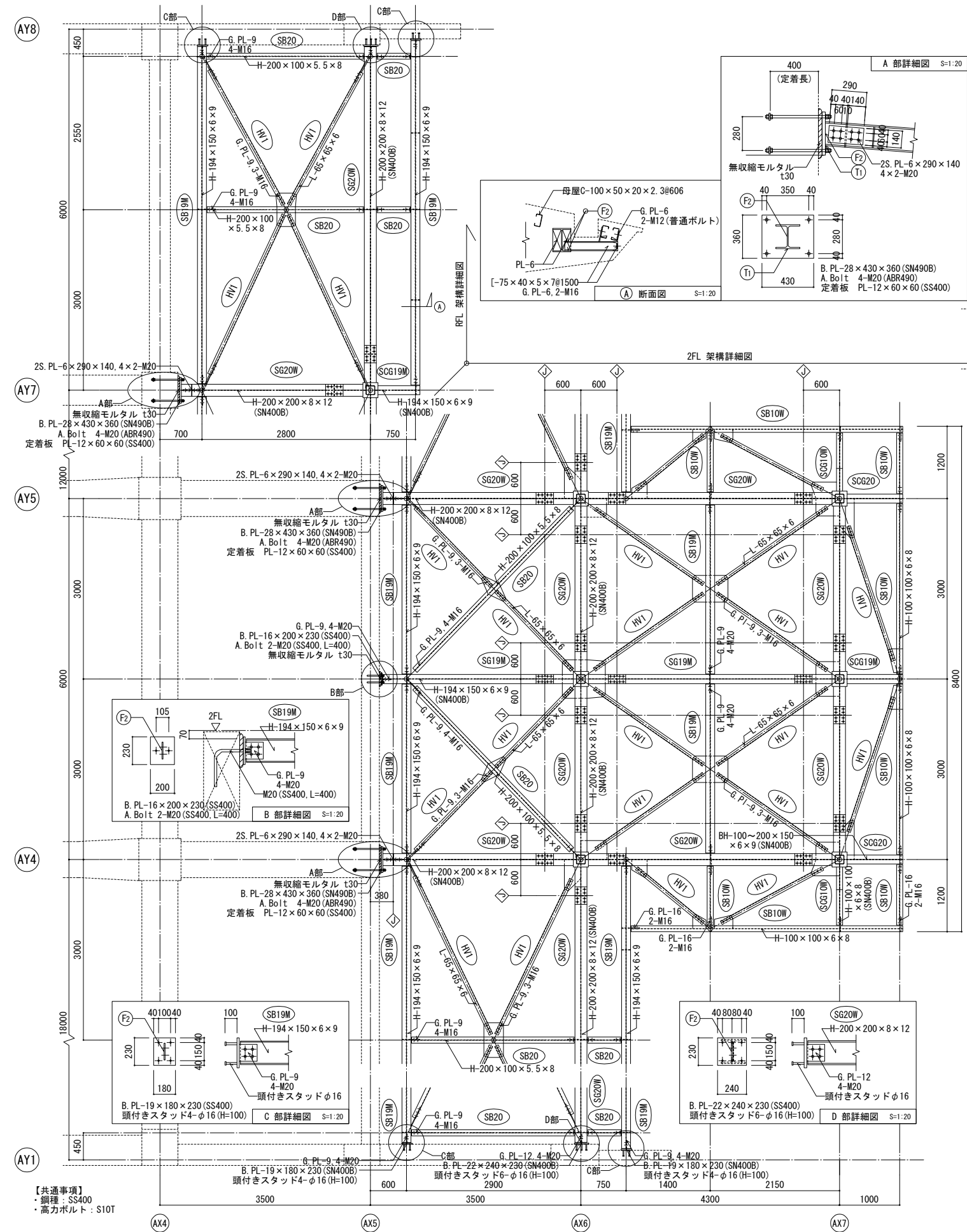


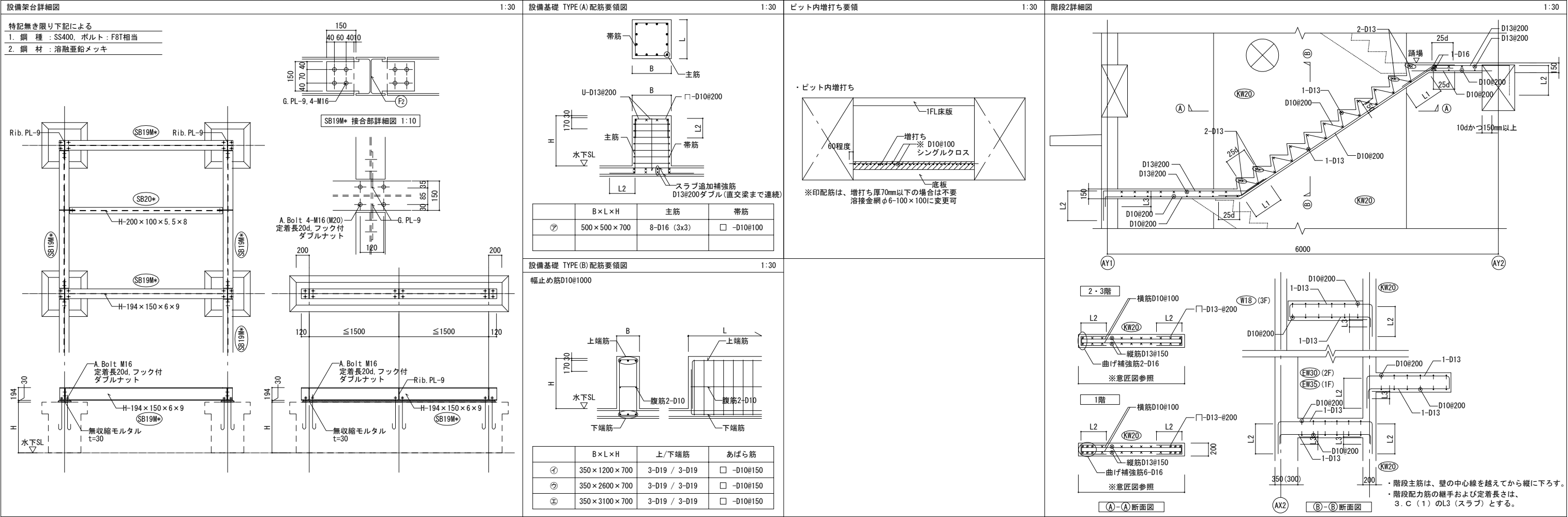
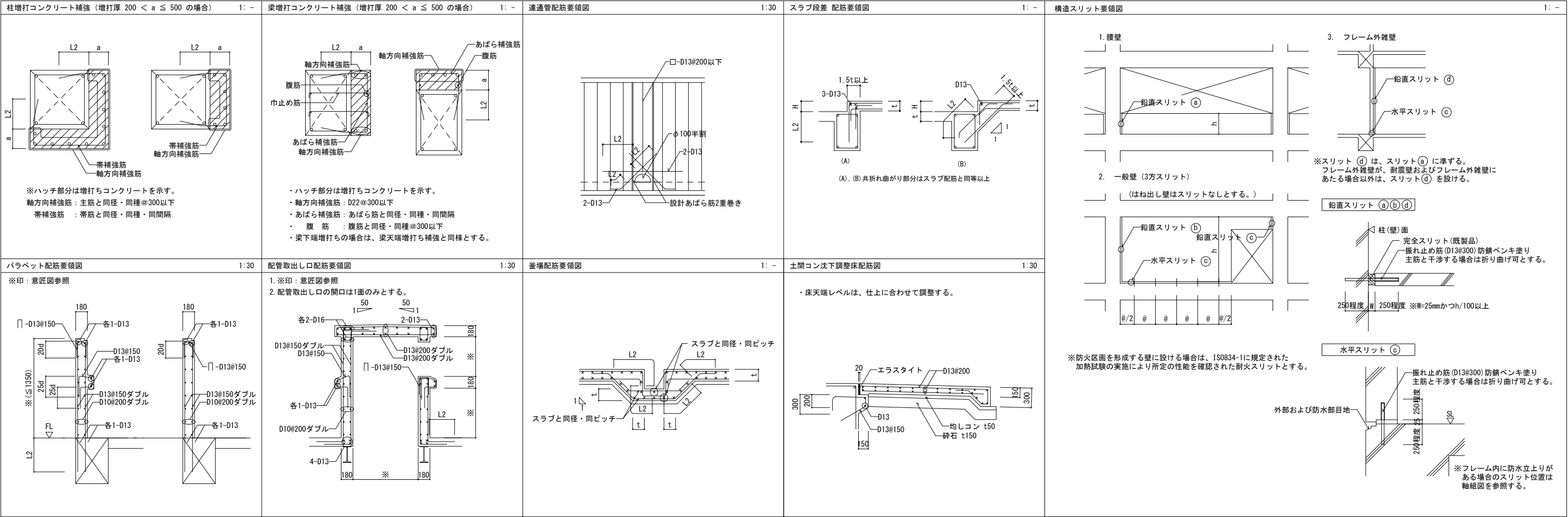
AY1 通 架構配筋図

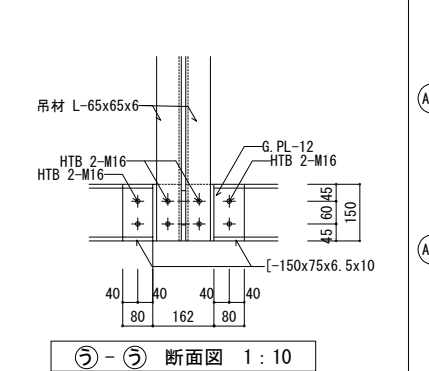
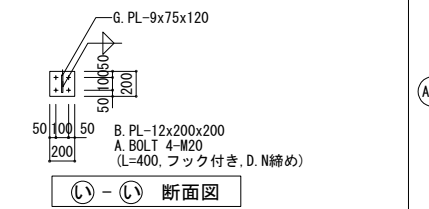
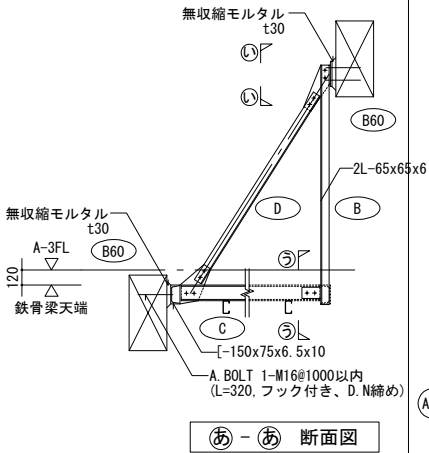
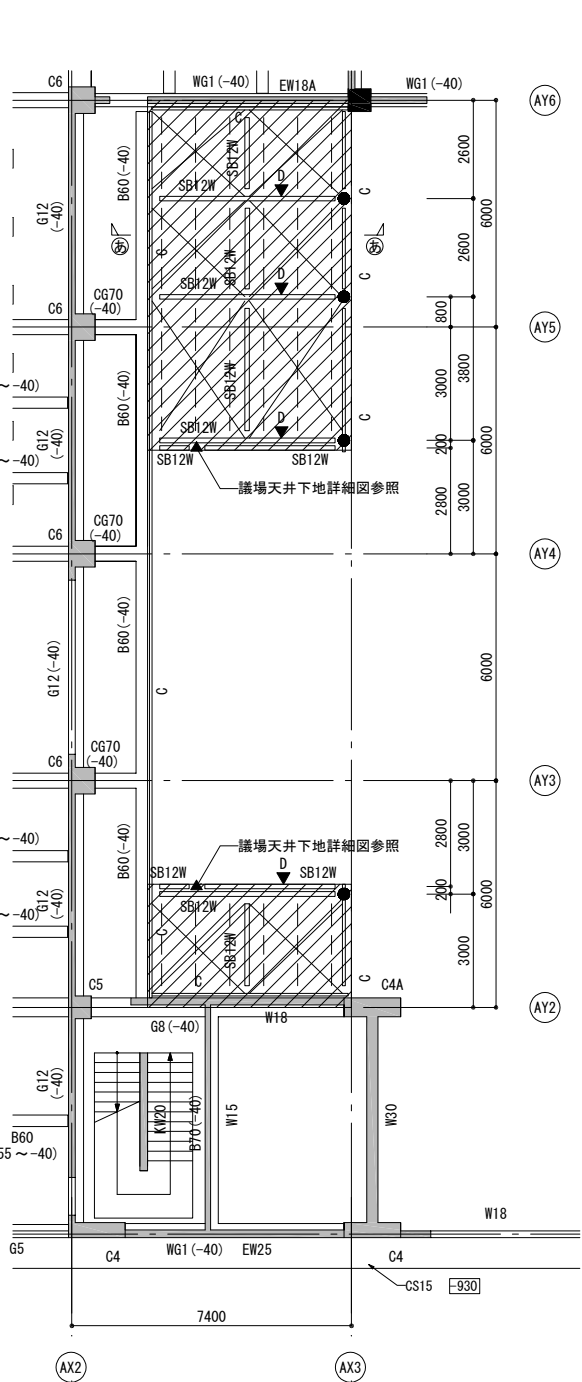
特記無き限り下記による

1. ◀印は構造スリットを示す。
2. ◀印は、増打ちを示す。

竣工年月日	...	...	...	株式会社	按にこころを	DATE	2025. 3. 14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造
監理者印	...	...	...	大建設		PROJ. NO	0-2023-120	DWG. TITLE	架構配筋図	DWG. NO
施工者印	...	...	...	一般建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号				SCALE	1:50 (A1) 1:100 (A3)	S-135







3階伏図

- 特記無き限り下記による
- は、天井下地材A C-100x50x20x2.3 (SSC400) @900を示す。
 - は、吊材B 2L-65x65x6 (SS400)を示す。
 - 梁材の天端レベルは、A-3FL-120とする。
 - 水平ブレースは、Eとする。

天井下地材リスト

特記無き限り下記による
1. 鋼種：SS400、高力ボルト：F10T

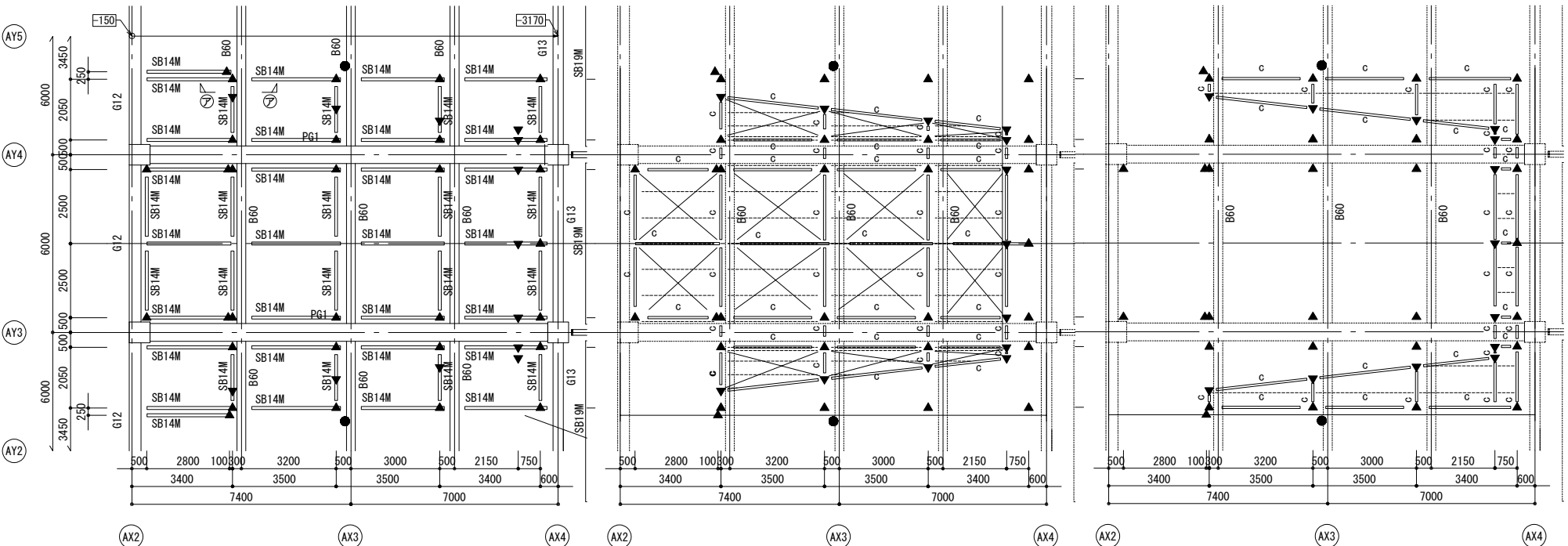
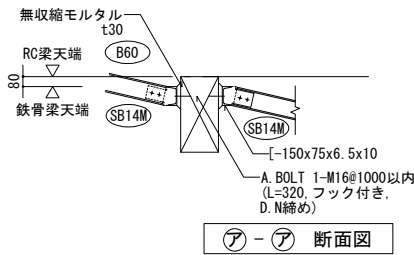
符 号	断 面	備 考・接 合
SB12W	H -125×125×6.5×9	G. PL-12×150×90, 2-M16
A	C -100× 50×20×2.3	SSC400 天井下地材@900
B	2L - 65× 65× 6	吊材 つづりボルト@600
C	[-150× 75×6.5×10	G. PL-9×140, 2-M20
D	L - 65× 65× 6	斜材
E	1-M16	JIS ターンバックル

- 特記無き限り下記による
1. 鋼種：SS400、高力ボルト：F10T
 2. ※印寸法は意匠図参照のこと。

議場天井下地材リスト

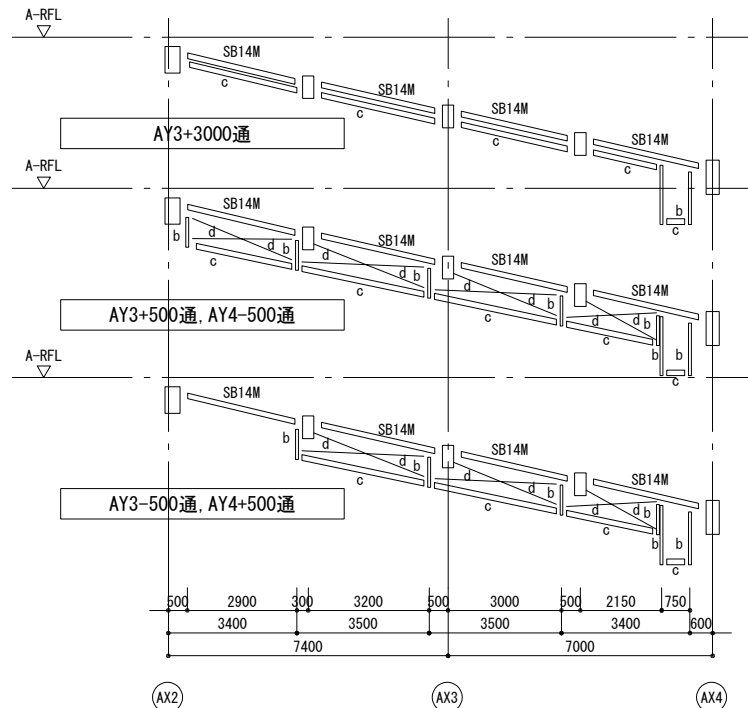
特記無き限り下記による
1. 鋼種：SS400、高力ボルト：F10T

符 号	断 面	備 考・接 合
SB14M	H -148×100× 6× 9	G. PL-12×150×100, 2-M16
SB12W	H -125×125×6.5×9	G. PL-12×150×90, 2-M16
a	C -100× 50×20×2.3	SSC400 天井下地材@900
b	2L - 75× 75× 6	吊材 つづりボルト@600
c	[-150× 75×6.5×10	G. PL-9×140, 2-M20
d	L - 75× 75× 6	斜材
e	1-M16	JIS ターンバックル
f	2[-150× 75×6.5×10	G. PL-9×140, 2-M20



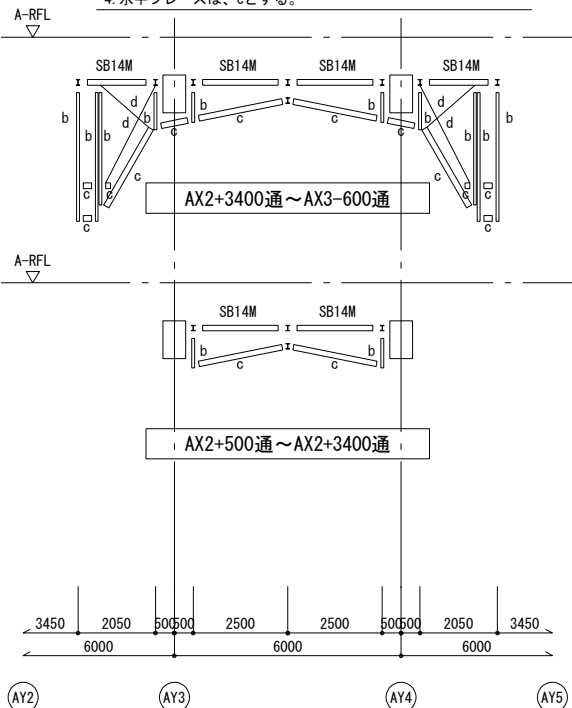
R階伏図

- 特記無き限り下記による
- ▲ は、吊材b 2L-75x75x6 (SS400)を示す。
▼ は、吊材bを2か所に配置する。
 - 梁材の天端レベルは、RC梁天端-80とする。



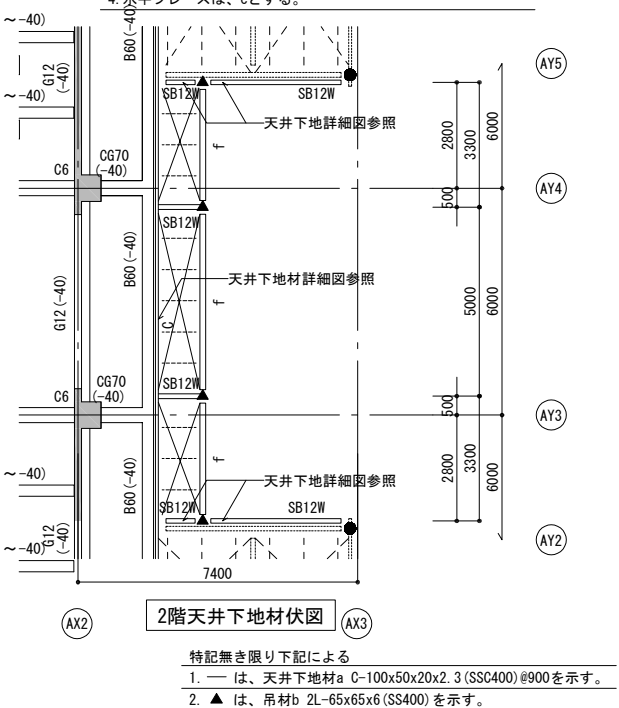
折上天井下地材伏図

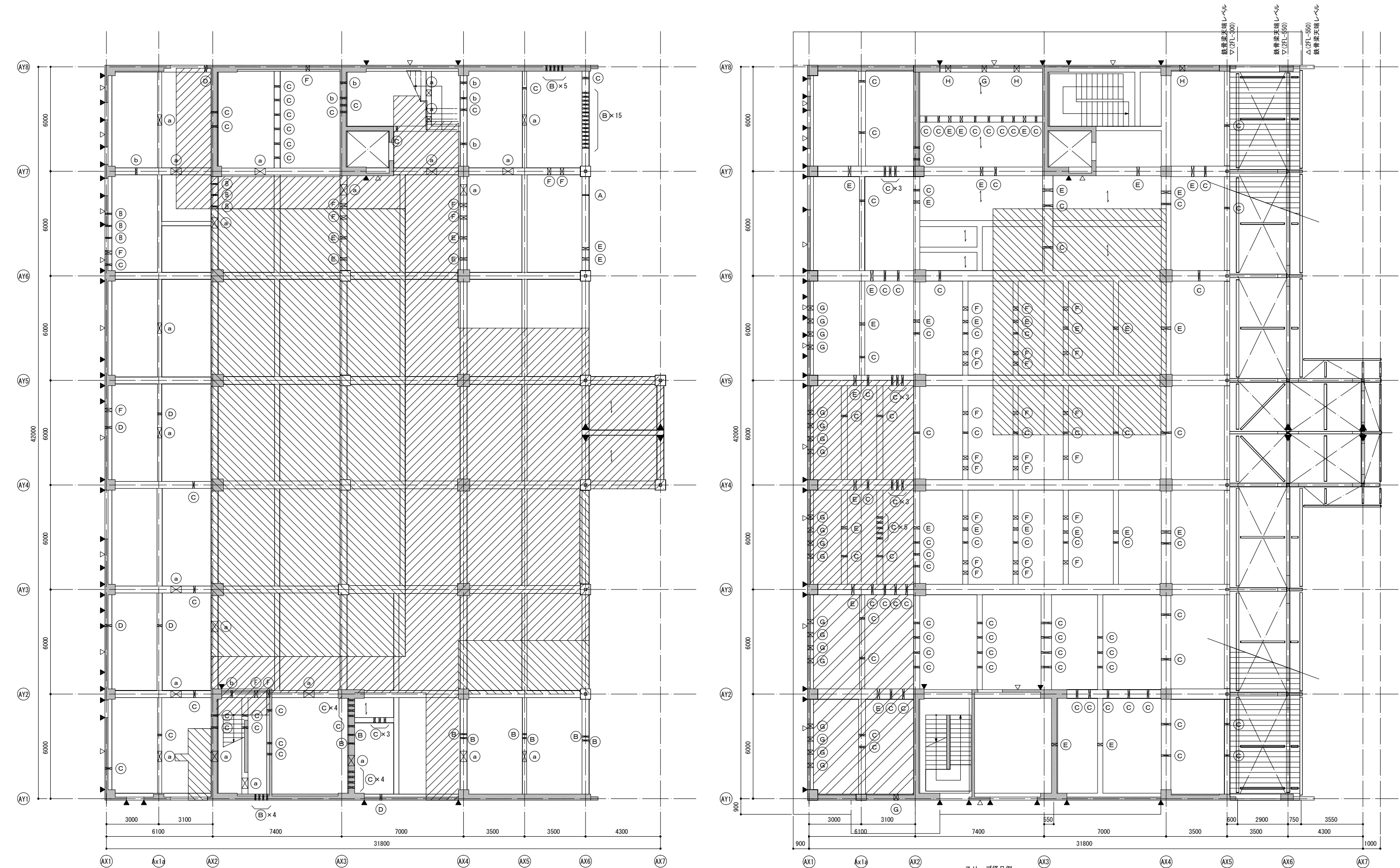
- 特記無き限り下記による
- は、天井下地材a C-100x50x20x2.3 (SSC400) @900を示す。
▲ は、吊材b 2L-75x75x6 (SS400)を示す。
▼ は、吊材bを2か所に配置する。
 - 梁材の天端レベルは、意匠図による。
 - 水平ブレースは、eとする。



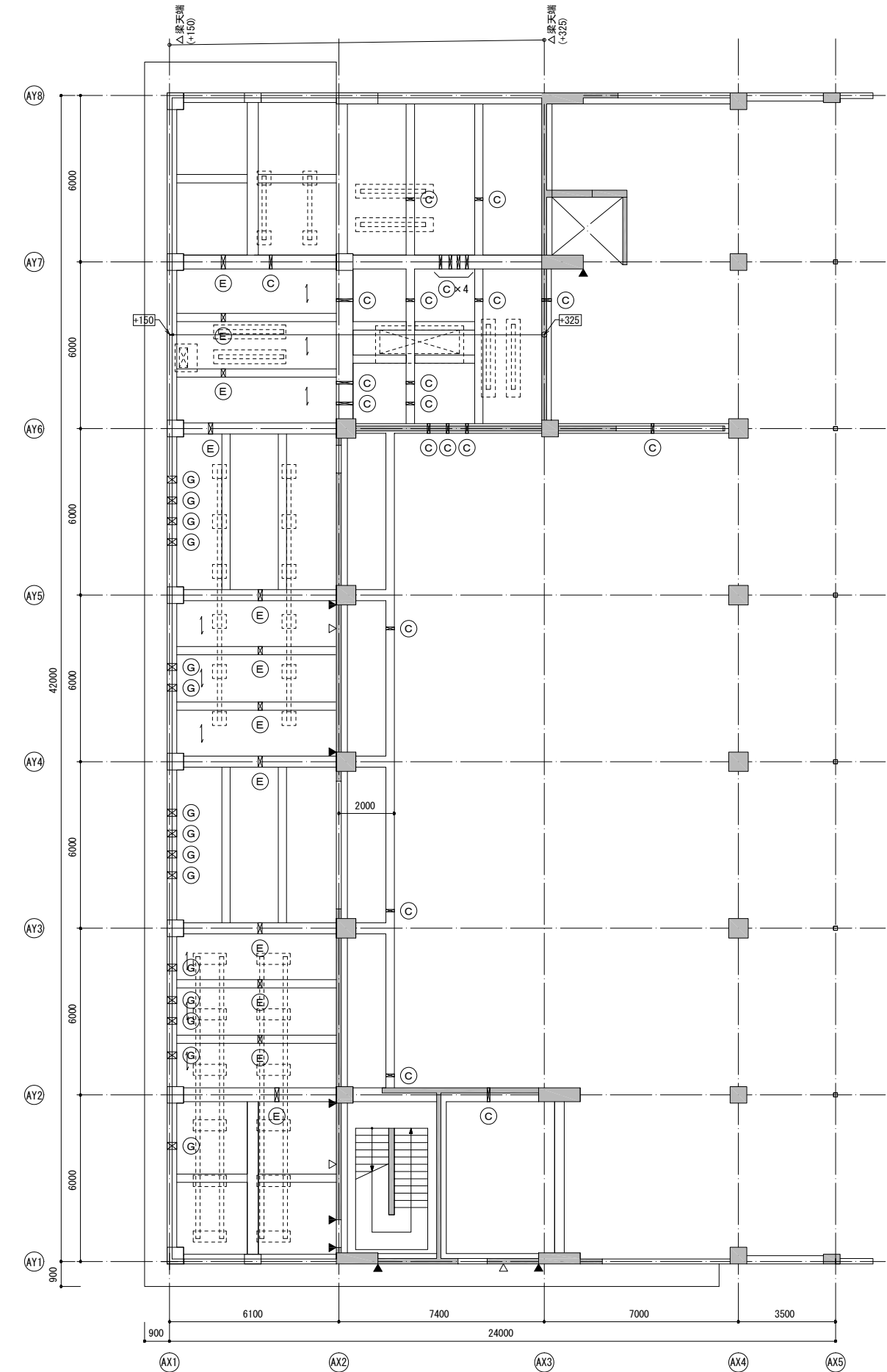
下り天井下地材伏図

- 特記無き限り下記による
- は、天井下地材a C-100x50x20x2.3 (SSC400) @900を示す。
▲ は、吊材b 2L-75x75x6 (SS400)を示す。
▼ は、吊材bを2か所に配置する。
 - 梁材の天端レベルは、意匠図による。
 - 水平ブレースは、eとする。





特記なき限り下記による。
1. 図は参考とし、スリーブの位置、孔径は現場にて再度検討を行うこと。
2. 貫通孔補強は、S-117梁貫通孔補強標準仕様書による。
監督職員の許可を得て、工法の変更は可能とする。

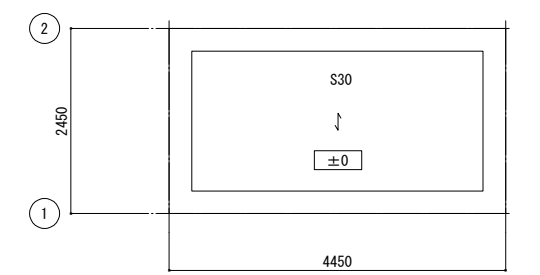


特記なき限り下記による。
1. 図は参考とし、スリーブの位置、孔径は現場にて再度検討を行うこと。
2. 貫通孔補強は、S-117梁貫通孔補強標準仕様書による。
監督職員の許可を得て、工法の変更は可能とする。

3階スリーブ図

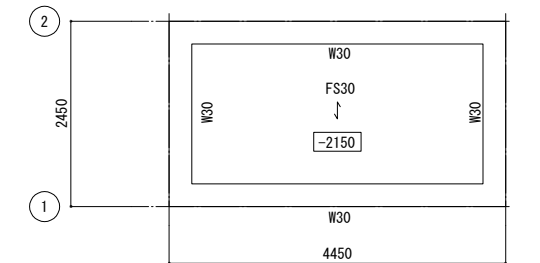
スリーブ径凡例									
符号	スリーブ径	符号	スリーブ径	符号	スリーブ径	符号	スリーブ径	符号	スリーブ径
A	50Φ	D	120Φ	G	250Φ	J	400Φ	⑧	上部：人通孔 600Φ 下部：連通管 VP100Φ半割り
B	75Φ	E	150Φ	H	300Φ	K	450Φ		上部：通気管 VP75Φ 下部：連通管 VP100Φ半割り
C	100Φ	F	200Φ	I	350Φ	L	600Φ	⑨	

竣工年月日	..	..	..	株式会社	技にこころを	DATE	2025	3	14	PROJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造
監理者印				大建設						DWG. TITLE	スリーブ図 (2)	DWG. NO
施工者印				一級建築士事務所 大阪府知事登録 第(ソ)404号		PROJ. NO	0-2023-120			1:100 (A3) SCALE 1:200 (A1)		S-142



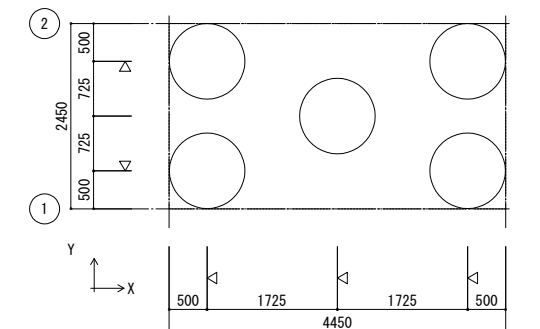
地下燃料タンク 頂版 伏図

- 特記無き限り下記による
- 内は、A-設計GLからのスラブ天端レベルを示す。
 - 印は、スラブの主筋方向を示す。



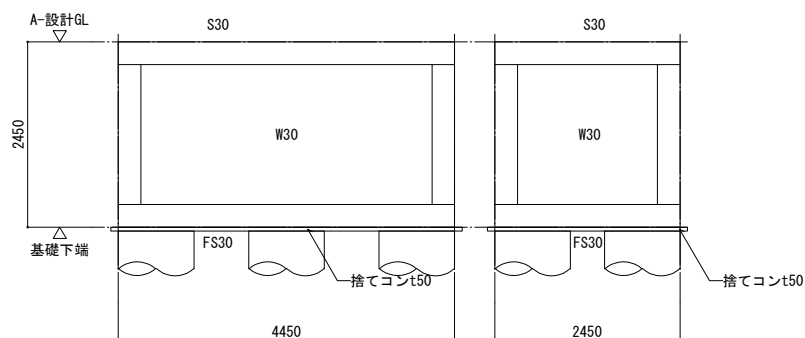
地下燃料タンク 基礎 伏図

- 特記無き限り下記による
- 基礎スラブ下端レベルは、A-設計GL-2450とする。
 - 内は、A-設計GLからの基礎スラブ天端レベルを示す。
 - 印は、スラブの主筋方向を示す。



地下燃料タンク 地盤改良 伏図

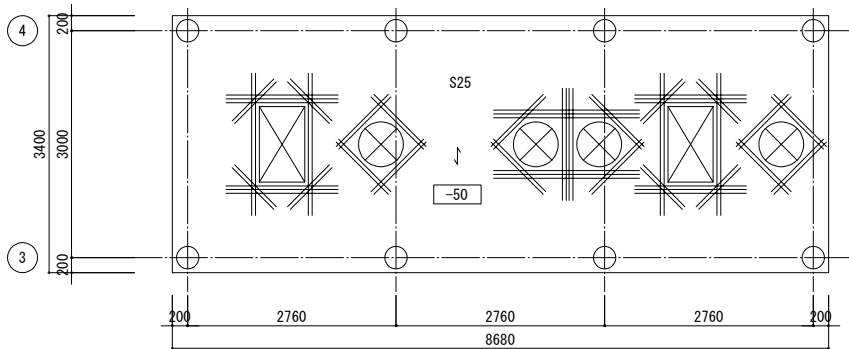
- 特記無き限り下記による
- A-設計GL=T、P+10.12とする。
 - は柱状改良位置を示す。柱状改良径は1000φとする。
改良長：3,800(改良下端=A-設計GL-6,300)。
 - <印は、柱状改良芯を示す。



地下燃料タンク 地盤改良 断面図

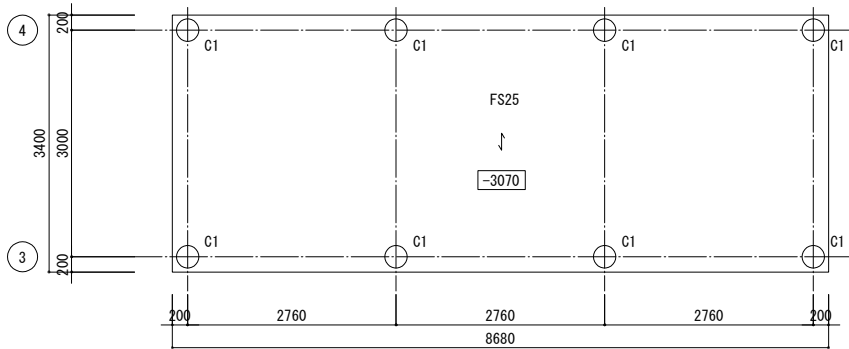
- 特記無き限り下記による
- A-設計GL=T、P+10.12とする。
 - は柱状改良位置を示す。柱状改良径は1000φとする。
改良長：3,800(改良下端=A-設計GL-6,300)。
 - <印は、柱状改良芯を示す。

竣工年月日	..	..	
監理者印	..	..	
施工者印	..	..	



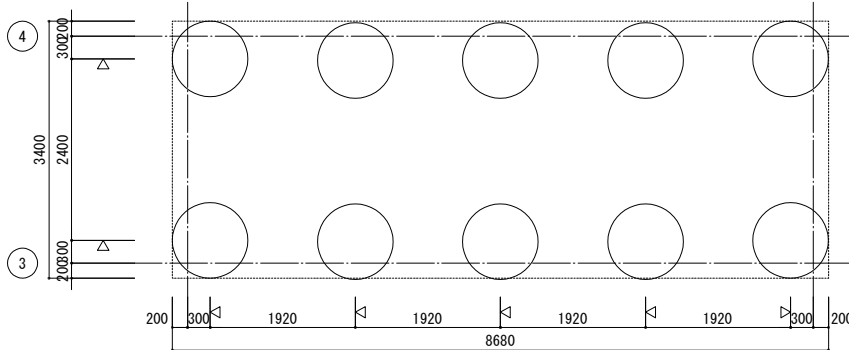
浄化槽 頂版 伏図

- 特記無き限り下記による
- 内は、A-設計GLからのスラブ天端レベルを示す。
 - 印は、スラブの主筋方向を示す。



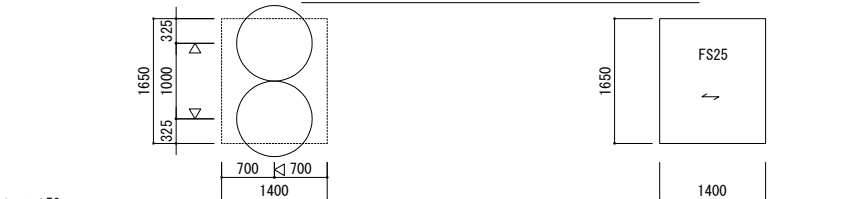
浄化槽 基礎 伏図

- 特記無き限り下記による
- 基礎スラブ下端レベルは、A-設計GL-3320とする。
 - 内は、A-設計GLからの基礎スラブ天端レベルを示す。
 - 印は、スラブの主筋方向を示す。



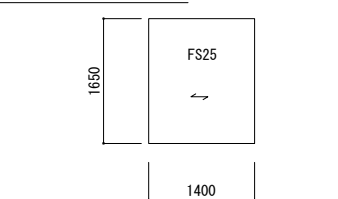
浄化槽 地盤改良 伏図

- 特記無き限り下記による
- A-設計GL=T、P+10.12とする。
 - は柱状改良位置を示す。柱状改良径は1000φとする。
(改良長：2,930(改良下端=A-設計GL-6,300)。
 - <印は、柱状改良芯を示す。



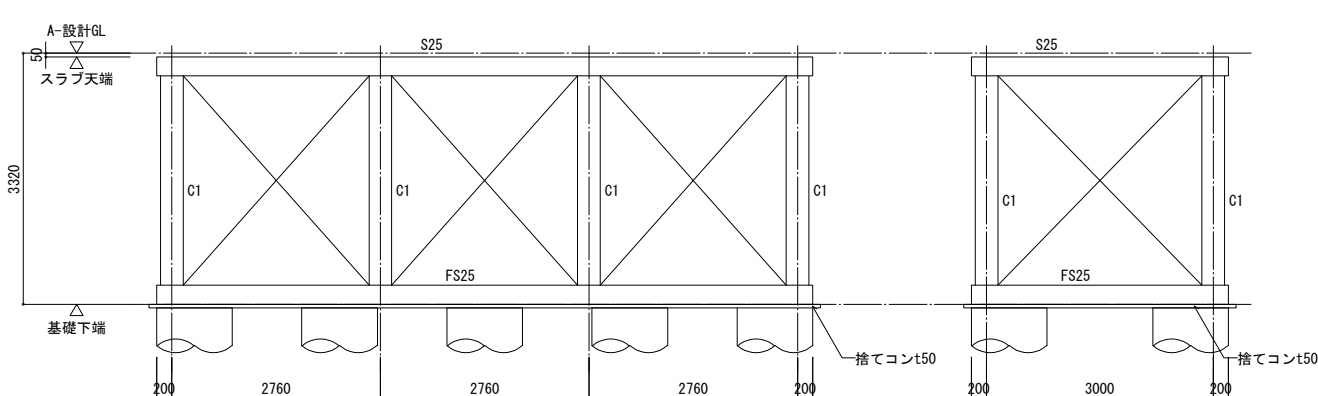
浄化槽機械室 地盤改良 伏図

- 特記無き限り下記による
- A-設計GL=T、P+10.12とする。
 - は柱状改良位置を示す。柱状改良径は1000φとする。
(改良長：6,150(改良下端=A-設計GL-6,300)。
 - <印は、柱状改良芯を示す。



浄化槽機械室 基礎 伏図

- 特記無き限り下記による
- 基礎スラブ下端レベルは、A-設計GL-150とする。
 - 地業は、捨てコン t50とする。
 - 印は、スラブの主筋方向を示す。



3.4通 軸組図

C, D, E, F通 軸組図

符号	C1
断面	
柱径	φ300
主筋	6-D13
帯筋	○-D10 @100
備考	

符号	W25	W30
断面		
厚さ	250	300
縦筋	D13 @200ダブル	D13 @200ダブル
横筋	D13 @200ダブル	D13 @200ダブル
開口補強筋	縦筋 2-D13 横筋 2-D13 斜筋 2-D13	縦筋 2-D13 横筋 2-D13 斜筋 2-D13
備考		

スラブリスト

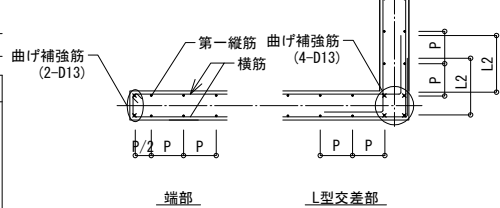
- 特記無き限り下記による
- 巾止め筋は 1-D10/㎡とする。

符号	厚さ	位置	主筋方向	配力筋方向	備考
S25	250	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D13@200	
S30	300	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D13@200	
FS25	250	上端筋	D13@200	D13@200	地業 捨てコン t50
		下端筋	D13@200	D13@200	
FS30	300	上端筋	D13@200	D13@200	地業 捨てコン t50
		下端筋	D13@200	D13@200	

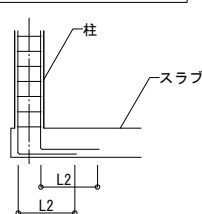
共通事項

■使用材料	
コンクリート	普通コンクリート Fc24
品質基準強度	Fq=Fc+S
スランプ	S=15cm
鉄筋	D10~D16 SD295A
柱状改良	1. 支持層は礫質土層とし、改良天端レベルでの設計用長期地耐力は50kN/㎡、短期地耐力は100kN/㎡とする。 2. 柱状改良に関して、試験施工を実施し、土質性状と電流値・トルク値の相関関係を調査する。 支持層の確認は全ての位置で行い、所定の掘進速度が保持できない、または貫入できない地点にて判断する。

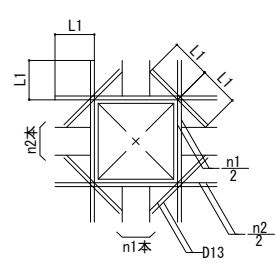
RC壁曲げ補強筋の配置要領



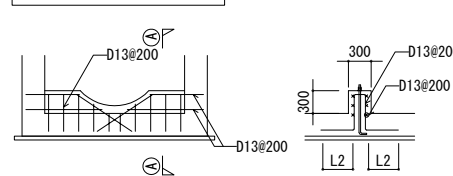
柱主筋配筋要領



開口補強筋の定着要領

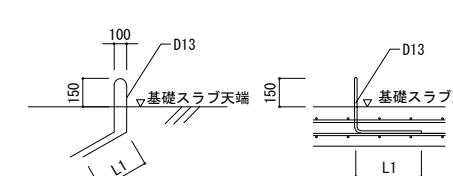


地下燃料タンク基礎



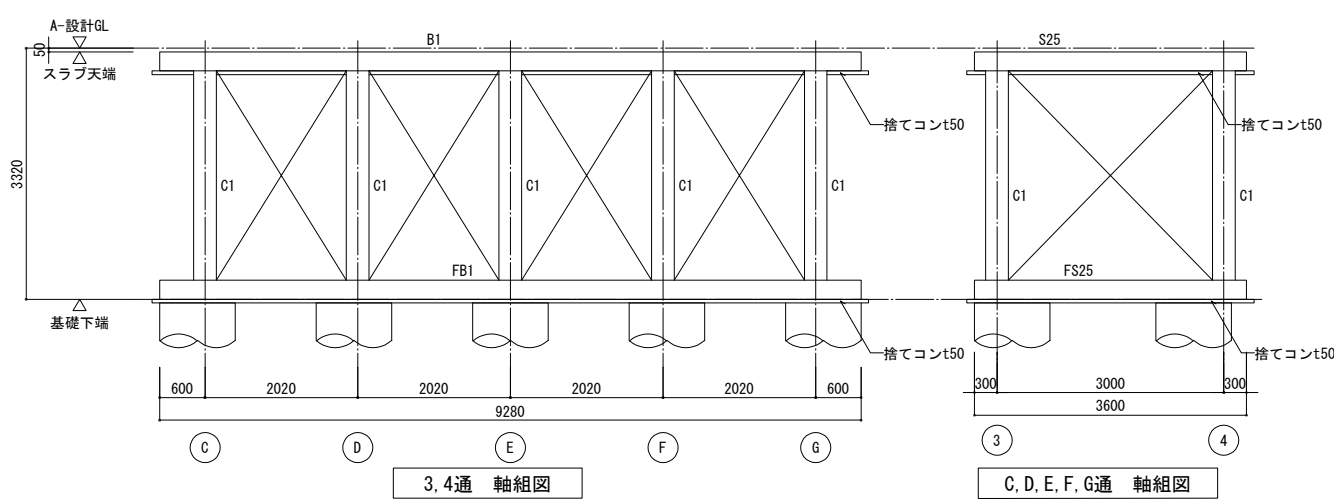
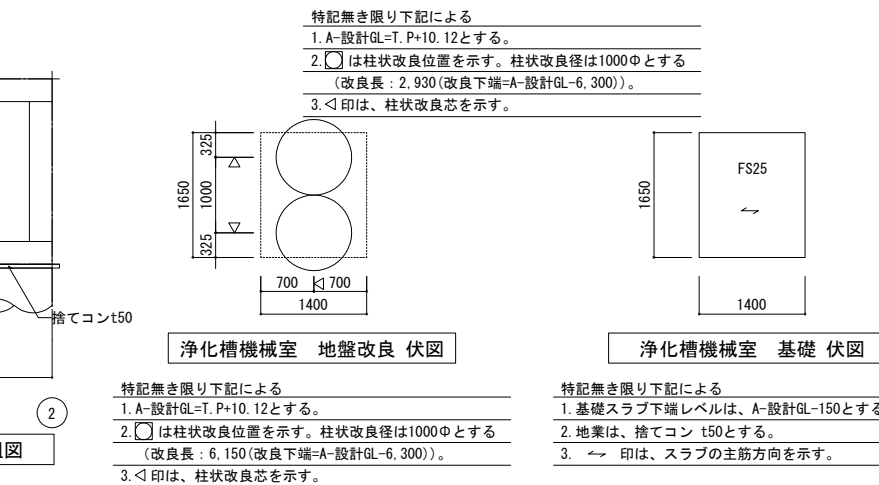
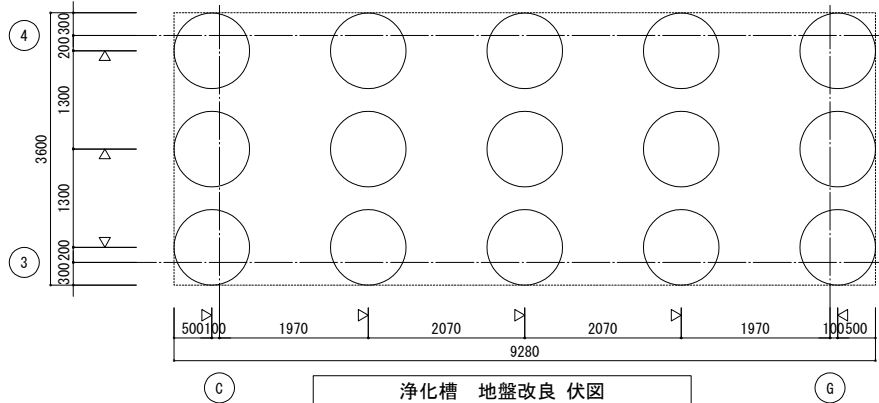
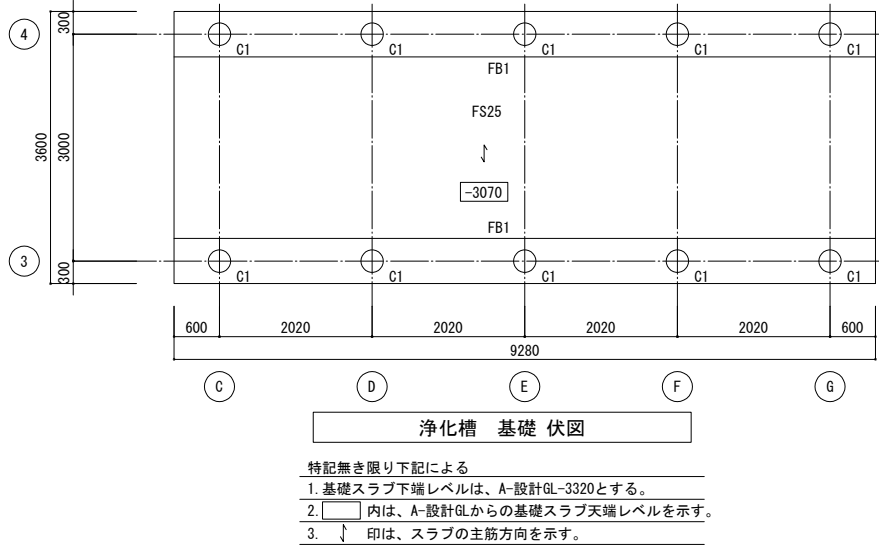
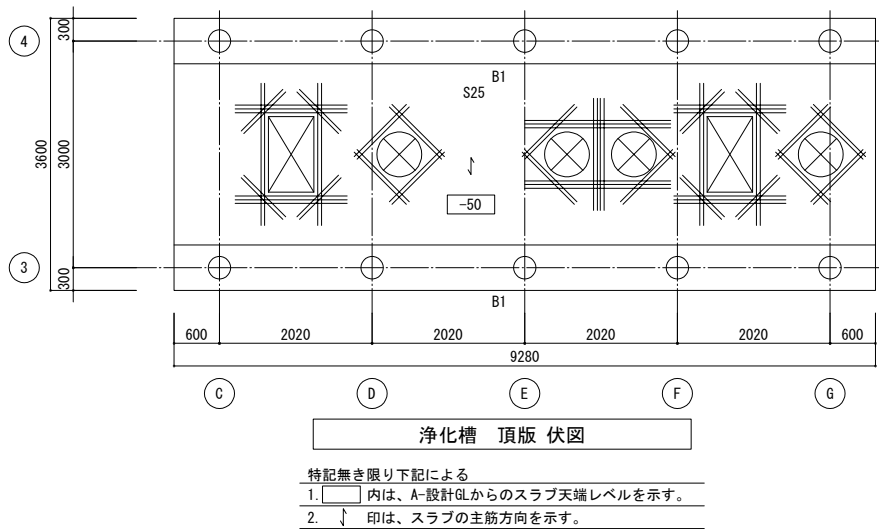
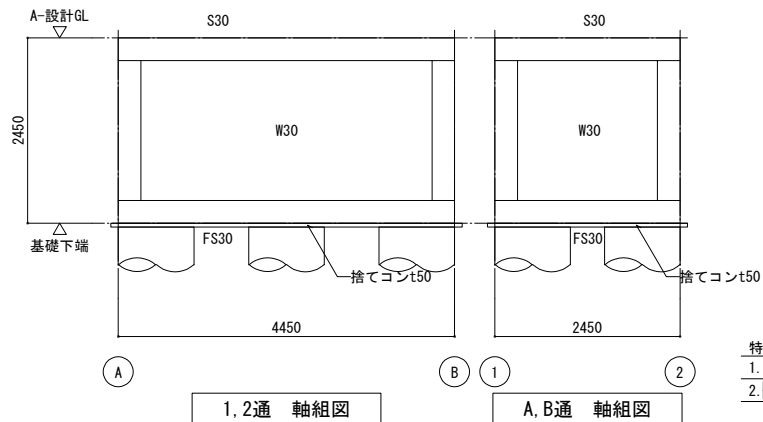
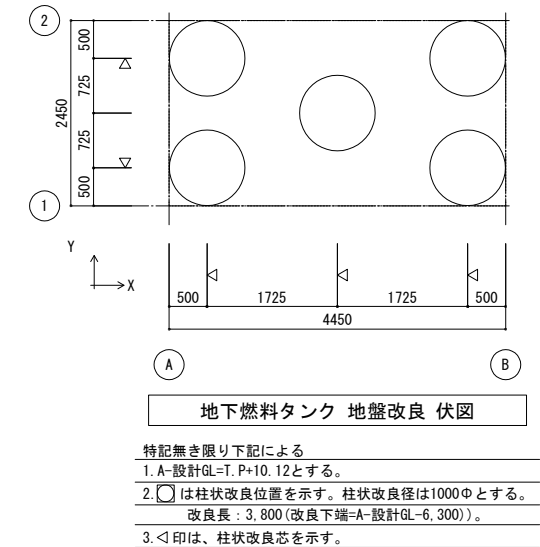
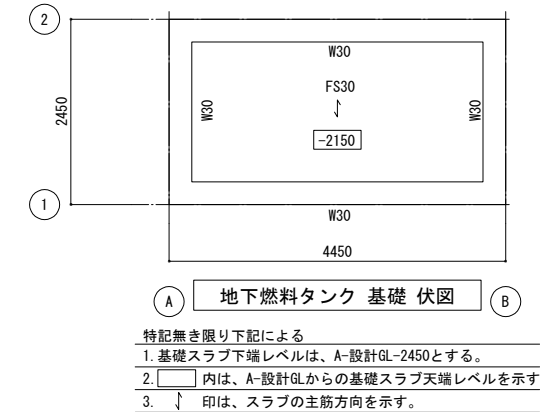
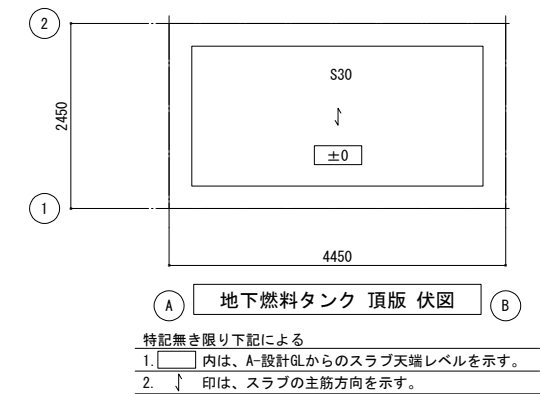
(A)-(A) 断面図

浮上り防止具アンカー図



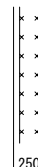
定着長さL1 下端筋に定着のこと

竣工年月日	..	..		株式会社	技にこころを	DATE	2025	3	14	PRJ. TITLE	防災拠点整備事業 牟岐町役場新庁舎・海部消防組合新庁舎新築工事	【役場】 構造
監理者印	..	..		大建設		PRJ. NO	0-2023-120			DWG. TITLE	地下燃料タンク・浄化槽 構造図	1: 50 (A1) SCALE 1:100 (A3)
施工者印	..	..		一般建築士事務所 大阪府知事登録 第(シ)404号								S-143



梁リスト	
特記無き限り下配による 1. 巾止筋 D10@1000以内	
符 号	FB1・B1
位 置	全断
断面	 4 4
BxD	600x250
上端筋	4-D16
下端筋	4-D16
肋筋	□-D10 @200
腹筋	-
備 考	

柱リスト	
符 号	C1
断 面	 300
柱 径	Φ300
主 筋	6-D13
帯 筋	○-D10 @100
備 考	

壁断面リスト		
特記無き限り下記による		
1. 巾止筋 D10@1000以内		
符 号	W25	W30
断 面		
厚 さ	250	300
縦 筋	D13 @200ダブル	D13 @200ダブル
横 筋	D13 @200ダブル	D13 @200ダブル
開口補強筋		
縦筋	2-D13	2-D13
横筋	2-D13	2-D13
斜筋	2-D13	2-D13
備 考		

スラブリスト 特記無き限り下記による
1. 巾止め筋は 1-D10/m²とする。

符 号	厚 さ	位 置	主筋方向	配力筋方向	備 考
S25	250	上端筋	D13#200	D13#200	地業 捨てコン t50
		下端筋	D13#200	D13#200	
S30	300	上端筋	D13#200	D13#200	
		下端筋	D13#200	D13#200	
FS25	250	上端筋	D13#200	D13#200	
		下端筋	D13#200	D13#200	
FS30	300	上端筋	D13#200	D13#200	地業 捨てコン t50
		下端筋	D13#200	D13#200	

共通事項

■使用材料	
コンクリート	普通コンクリート Fc24
	品質基準強度 Fg=Fc+S
	スランプ S=15cm
鉄筋	D10～D16 SD295A
柱状改良	1. 支持層は礫質土層とし、改良土端レベルでの設計用長期地耐力は70kN/m²、短期地耐力は140kN/m²とする。 2. 柱状改良に関して、試験施工を実施し、土質性状と電流値・トルク値の相関関係を調査する。 支持層の確認は全ての位置で行い、所定の掘進速度が保持できない、または買入できない地点にて判断する。

